

医療施策の方向性に関する提言
資料編

平成30年（2018年）5月

練馬区医療施策検討委員会

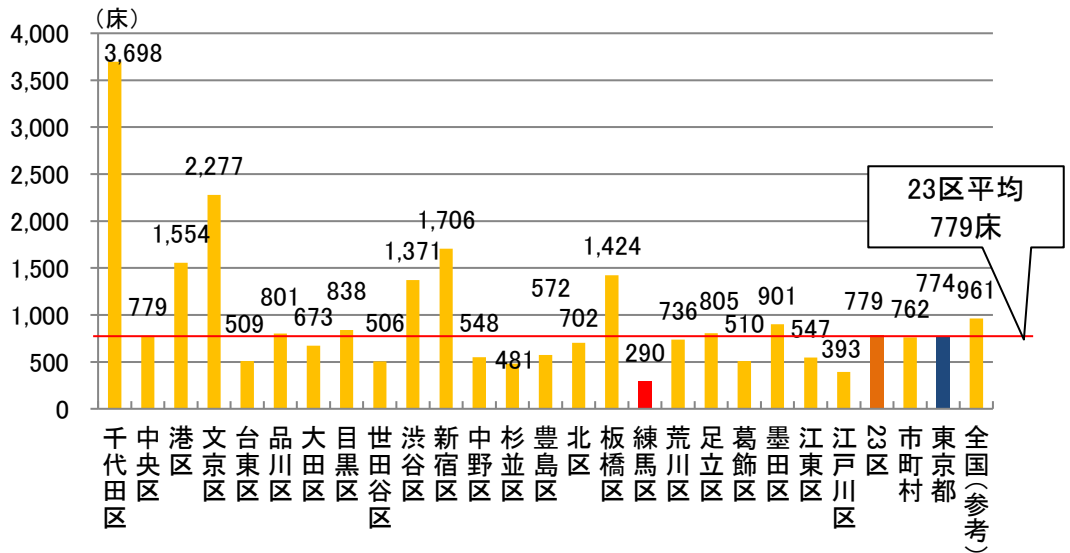
目次

1	練馬区の病床数	1
2	医療施設数	2
3	病院・診療所の病床数	3
4	訪問診療対象患者数	4
5	看取り件数の推移	5
6	在宅医療関係施設	6
7	訪問看護利用者数・訪問看護事業者数	7
8	人口推移	8
9	将来推計人口	9
10	患者数の推計	12
11	区民が受診する医療機関の所在地の状況	15
12	主要死因別死亡数	18
13	病床機能別病床数	19
14	救急医療	24
15	ICT ネットワーク	31
16	在宅医療	32
17	年齢階層別入院患者数の推計	42
18	主要疾病に係る医療提供体制	52
19	区と医療圏の小児救急医療の提供体制	56
20	首都直下地震等における被害想定に対する災害拠点病院数の状況	57
21	母親の年齢階級別出生数に関する構成比	59
22	外国人の増減数	60
23	特定健康診査等の実施状況	61
24	重点医療に係る医療提供体制	65
25	医療環境に関するアンケート集計結果	67
26	練馬区地域医療計画における主な取組状況	81

1 練馬区の病床数

・ 人口 10 万人あたりの一般・療養病床数は平成 29 年 6 月 1 日現在、290 床です。これは 23 区平均の約 1/3 であり、23 区で最も少ないです。

図表 1: 人口 10 万人あたり病院における一般・療養病床数の比較 (平成 29 年 6 月 1 日現在)



出典：東京都福祉保健局「平成 29 年（2017 年）医療機関名簿」、住民基本台帳人口「平成 29 年（2017 年）6 月 1 日現在」

2 医療施設数

- ・ 区内には 19 の一般病院と 22 の有床診療所があります。
- ・ 病院数を人口 10 万人あたりの数で比較すると、区は 2.6 であるのに対して、東京都は 4.9、医療圏は 5.1 であり、東京都・医療圏と比較して区は半数程度です。特に一般病院の数が少ない状況です。
- ・ 一般診療所数を人口 10 万人あたりの数で比較すると、区は 76.1 であるのに対して、東京都は 96.8、医療圏は 87.5 であり、東京都・医療圏と比較して区は少ない状況です。
- ・ 歯科診療所を人口 10 万人あたりの数で比較すると、区は 63.8 であるのに対して、東京都は 80.1、医療圏は 73.6 であり、東京都・医療圏と比較して区は少ない状況です。
- ・ 薬局を人口 10 万人あたりの数で比較すると、区は 42.7 であるのに対して、東京都は 48.6、医療圏は 48.3 であり、東京都・医療圏と比較して区は若干少ない状況です。

図表 2：人口 10 万人あたり医療施設数

(単位：箇所)

施設	東京都	区西北部医療圏	練馬区	実数
病院	4.9	5.1	2.6	19
うち一般病院	4.5	4.9	2.4	17
うち精神科病院	0.4	0.2	0.3	2
一般診療所	96.8	87.5	76.1	547
うち有床診療所	3.3	3.5	3.1	22
歯科診療所	80.1	73.6	63.8	459
薬局	48.6	48.3	42.7	307

出典：東京都および医療圏：厚生労働省「平成 26 年（2014 年）医療施設調査」、住民基本台帳人口
平成 26 年（2014 年）1 月 1 日現在

練馬区：関東厚生局「保険医療機関・保険薬局の指定一覧（平成 28 年（2016 年）10 月 1 日現在）」、住民基本台帳人口平成 28 年（2016 年）1 月 1 日現在

3 病院・診療所の病床数

- ・ 一般病床数を人口 10 万人あたりの数で比較すると、区は 227.2 であるのに対して、東京都は 645.4、医療圏は 574.4 であり、東京都・医療圏と比較して区は半数に満たない状況です。
- ・ 療養病床数を人口 10 万人あたりの数で比較すると、区は 86.8 であるのに対して、東京都は 173.5、医療圏は 198.6 であり、東京都・医療圏と比較して半数程度です。

図表 3：人口 10 万人あたり病院・診療所の病床数

(単位：床)

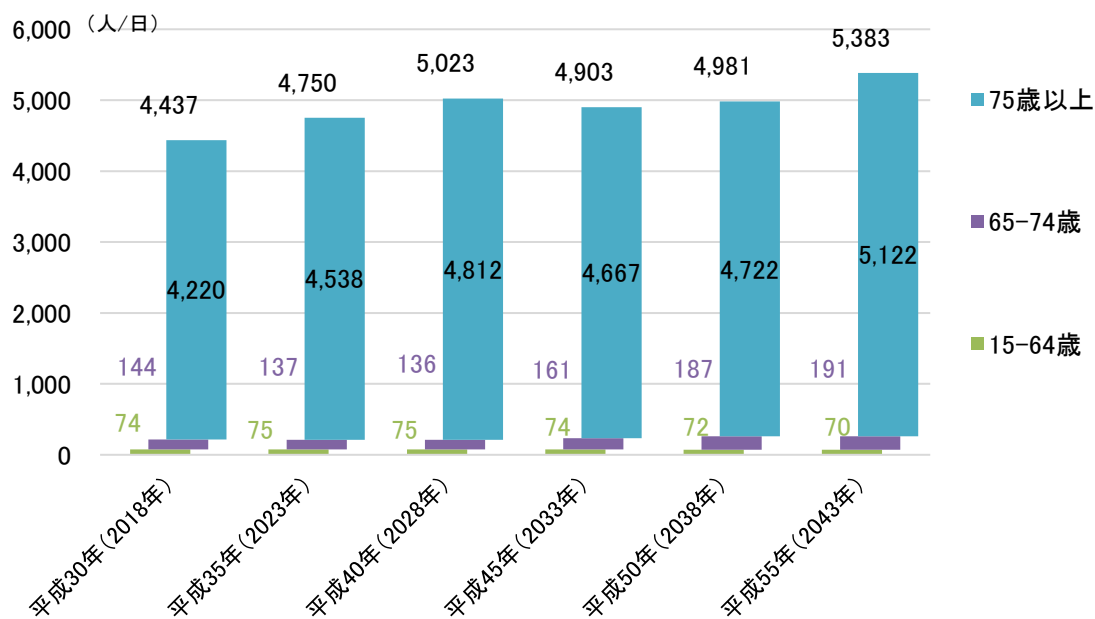
	東京都	区西北部医療圏	練馬区
一般病床	645.4	574.4	227.2
病院	614.5	545.1	193.6
診療所	30.9	29.3	33.7
療養病床	173.5	198.6	86.8
病院	172.0	196.1	85.4
診療所	1.5	2.5	1.4

出典：東京都および医療圏：厚生労働省「平成 26 年（2014 年）医療施設調査」、住民基本台帳人口平成 26 年（2014 年）1 月 1 日現在
 練馬区：関東厚生局「保険医療機関・保険薬局の指定一覧（平成 28 年（2016 年）10 月 1 日現在）」、住民基本台帳人口平成 28 年（2016 年）1 月 1 日現在

4 訪問診療対象患者数

- ・ 訪問診療対象患者数は「15～64 歳」は減少傾向にあるのに対して、「65～74 歳以上」「75 歳以上」は、増加傾向にあります。

図表 4：練馬区の訪問診療対象患者数の推計（患者住所地ベース）



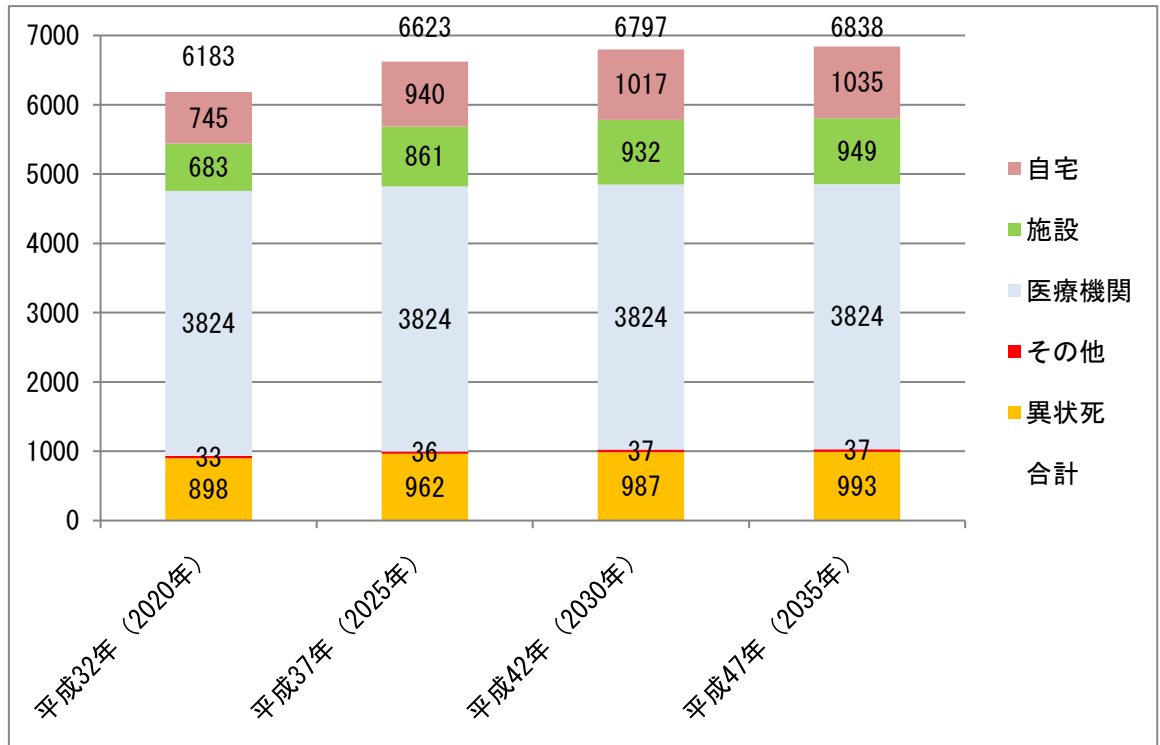
※区の0～14歳の訪問診療対象患者は0人/日

出典：厚生労働省「医療計画作成支援データブック「医療圏内患者の受療圏の把握及び地域医療指標の評価」ツール」、練馬区企画課資料（平成30年（2018年）1月推計）を参考に練馬区医療環境整備課推計

5 看取り件数の推移

- ・ 「自宅」「施設」「その他」「異状死」は、増加傾向になると推計されます。

図表 5：練馬区の看取り件数の推計



※医療機関での死亡者数は、直近の実績から今後も変化しないという仮定。(介護療養病床廃止後の受け皿は引き続き当該項目に含めることとする。)

出典：練馬区「死亡小票データ（平成23年（2011年）1月1日～平成27年（2015年）12月31年の5カ年分）」、練馬区企画課資料（平成30年（2018年）1月推計）および国立社会保障・人口問題研究所の将来生存率を参考に練馬区医療環境整備課推計

6 在宅医療関係施設

- ・ 在宅療養支援診療所¹は、東京都・医療圏と比べて、区は少ない状況です。
- ・ 在宅療養支援病院²は、東京都・医療圏と比べて、区は少ない状況です。
- ・ 在宅療養後方支援病院³は、東京都・医療圏と比べて、区は半数程度となっています。
- ・ 在宅療養支援歯科診療所⁴は、東京都と比べて若干少ないですが、医療圏と比べると多い状況です。

図表 6：在宅医療関係施設の人口 10 万人あたり施設数

(単位：箇所)

	東京都	医療圏	練馬区	実数・病院名
在宅療養支援診療所	51.9	60.7	49.0	76 施設
在宅療養支援病院	3.2	4.2	1.9	3 病院 スズキ病院 田中脳神経外科病院 大泉生協病院
在宅療養後方支援病院	1.0	0.9	0.6	1 病院 練馬総合病院
在宅療養支援歯科診療所	19.6	17.4	19.3	30 施設
在宅患者訪問薬剤管理指導料算定薬局	168.1	165.7	158.7	246 施設

出典：関東厚生局「平成 28 年（2016 年）6 月 1 日現在の届出」、平成 28 年（2016 年）住民基本台帳

-
- ¹ 在宅療養支援診療所…在宅療養を希望する患者に、その地域で主たる責任をもって定期的に訪問診療を行う診療所。地方厚生(支)局長に届出をして認可される診療所の施設基準のひとつ。
 - ² 在宅療養支援病院…在宅療養を希望する患者に、その地域で主たる責任をもって定期的に訪問診療を行う病院。地方厚生(支)局長に届出をして認可される病院の施設基準のひとつ。
 - ³ 在宅療養後方支援病院…在宅医療を提供する医療機関（在宅療養支援病院や在宅療養支援診療所）の求めに応じて、入院を希望する患者の診療が 24 時間可能な体制を確保している一定の施設基準を満たした施設。
 - ⁴ 在宅療養支援歯科診療所…在宅療養を希望する患者に、その地域で主たる責任をもって定期的に訪問診療を行う歯科診療所。地方厚生(支)局長に届出をして認可される歯科診療所の施設基準のひとつ。

7 訪問看護利用者数・訪問看護事業者数

- ・ 訪問看護利用者数は、年々増加傾向にあります。
- ・ 訪問看護事業者数は、平成 27 年度までは増加傾向にあり、その後横ばい傾向です。

図表 7：訪問看護利用者数の推移

(単位:人 ※各年度1年間の累計数値)

年度		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成 27 年度	平成 28 年度
訪問看護利用者	介護給付	19,862	21,904	24,385	28,343	31,941
	予防給付	650	809	953	1,418	2,370
	計	20,512	22,713	25,338	29,761	34,311

出典：練馬の介護保険—平成 28 年度実績報告—

図表 8：訪問看護事業者数の推移

(単位:事業者数 ※各年4月1日現在)

年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成 28 年度	平成 29 年度
訪問看護事業者	35 (35)	47 (47)	52 (52)	53 (53)	52 (52)

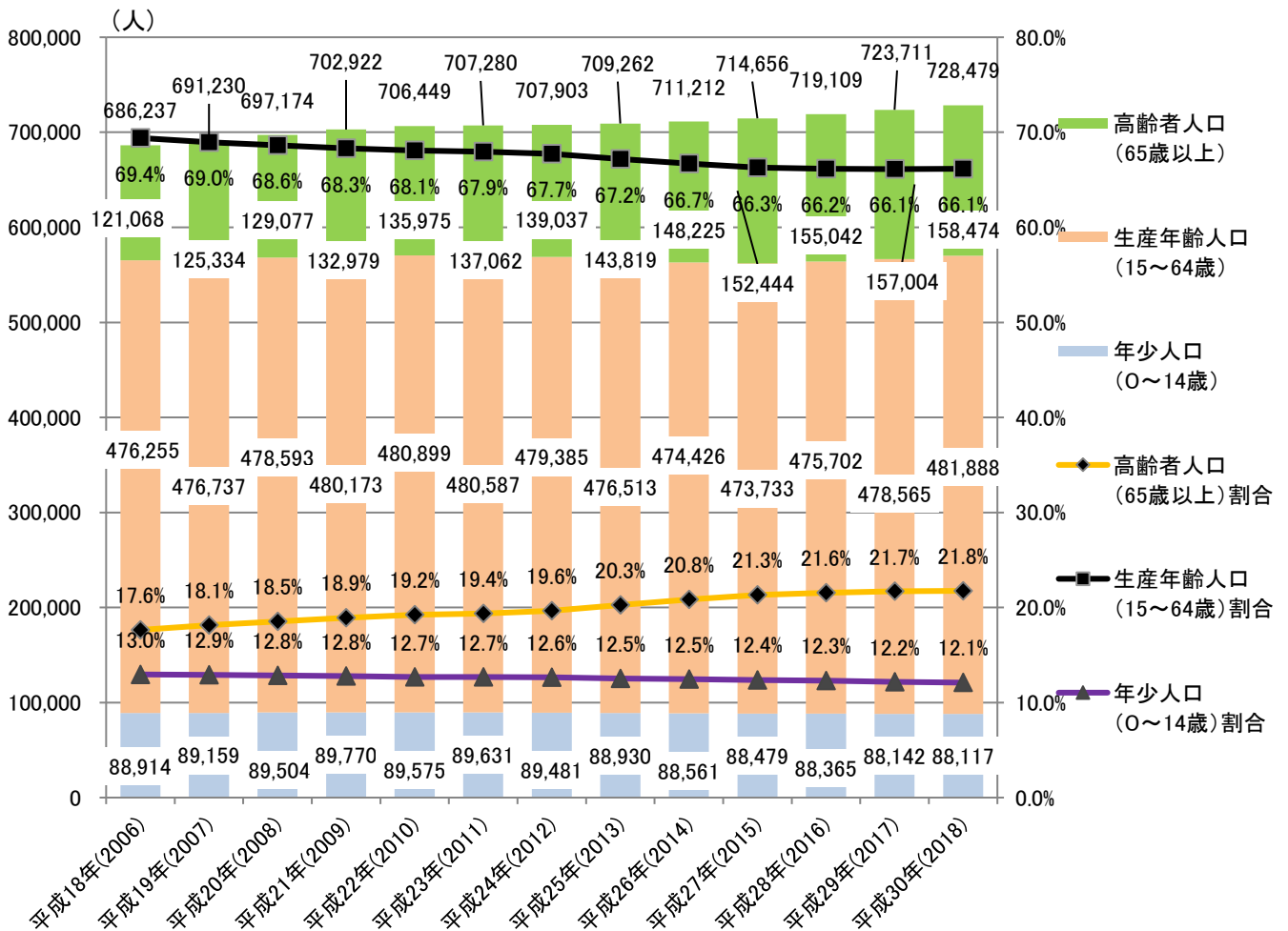
() 内は指定介護予防サービス事業者の数

出典：練馬の介護保険—平成 28 年度実績報告—

人口推移

- ・ 総人口は、平成 18 年（2006 年）の 686,237 人から 30 年（2018 年）には 728,479 人と一貫して増加しています。
- ・ 年齢階層別では、年少人口（0～14 歳）は平成 21 年の 89,770 人をピークに減少傾向にあります。生産年齢人口（15～64 歳）は平成 22 年（2010 年）の 480,899 人をピークに、減少傾向でしたが、平成 28 年（2016 年）から増加に転じています。一方、高齢者人口（65 歳以上）は、急速に増加しています。
- ・ 総人口に占める割合については、年少人口と生産年齢人口は微減であるのに対し、高齢者人口は増加し続け、平成 27 年からは 21%を超えています。

図表 9：練馬区の人口推移

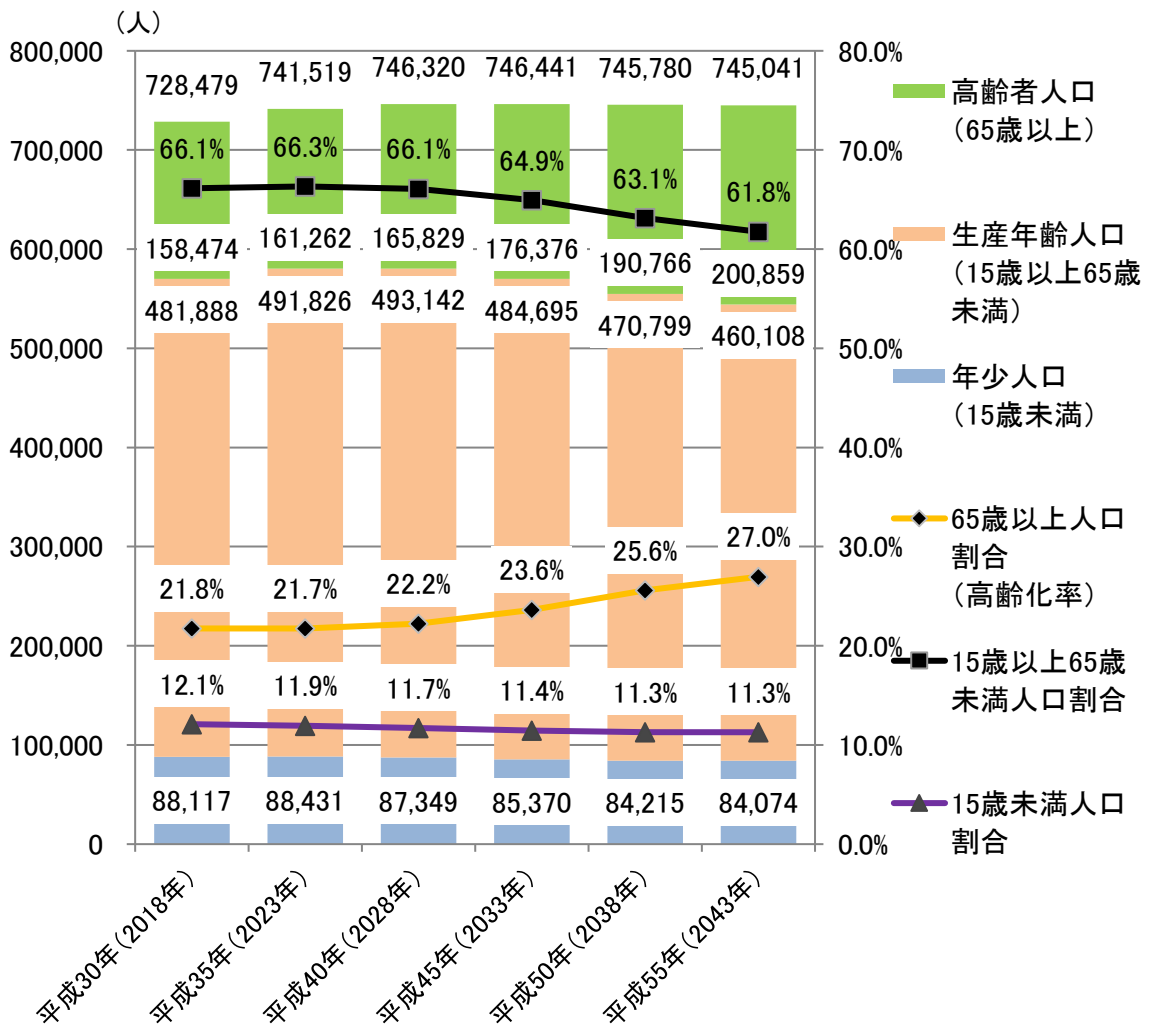


出典：練馬区「住民基本台帳」（外国人を含む。各年 1 月 1 日現在）

将来推計人口

- ・ 練馬区の人口は、平成 45 年（2033 年）にピークを迎えた後、緩やかに減少する一方、高齢者人口はその後も引き続き増加します。
- ・ 平成 40 年（2028 年）には高齢者人口が約 166,000 人、高齢者人口割合が 22.2%であるが平成 55 年（2043 年）には高齢者人口が約 201,000 人、高齢者人口割合が 27.0%と、高齢者人口、割合ともに増加することが予測されます。

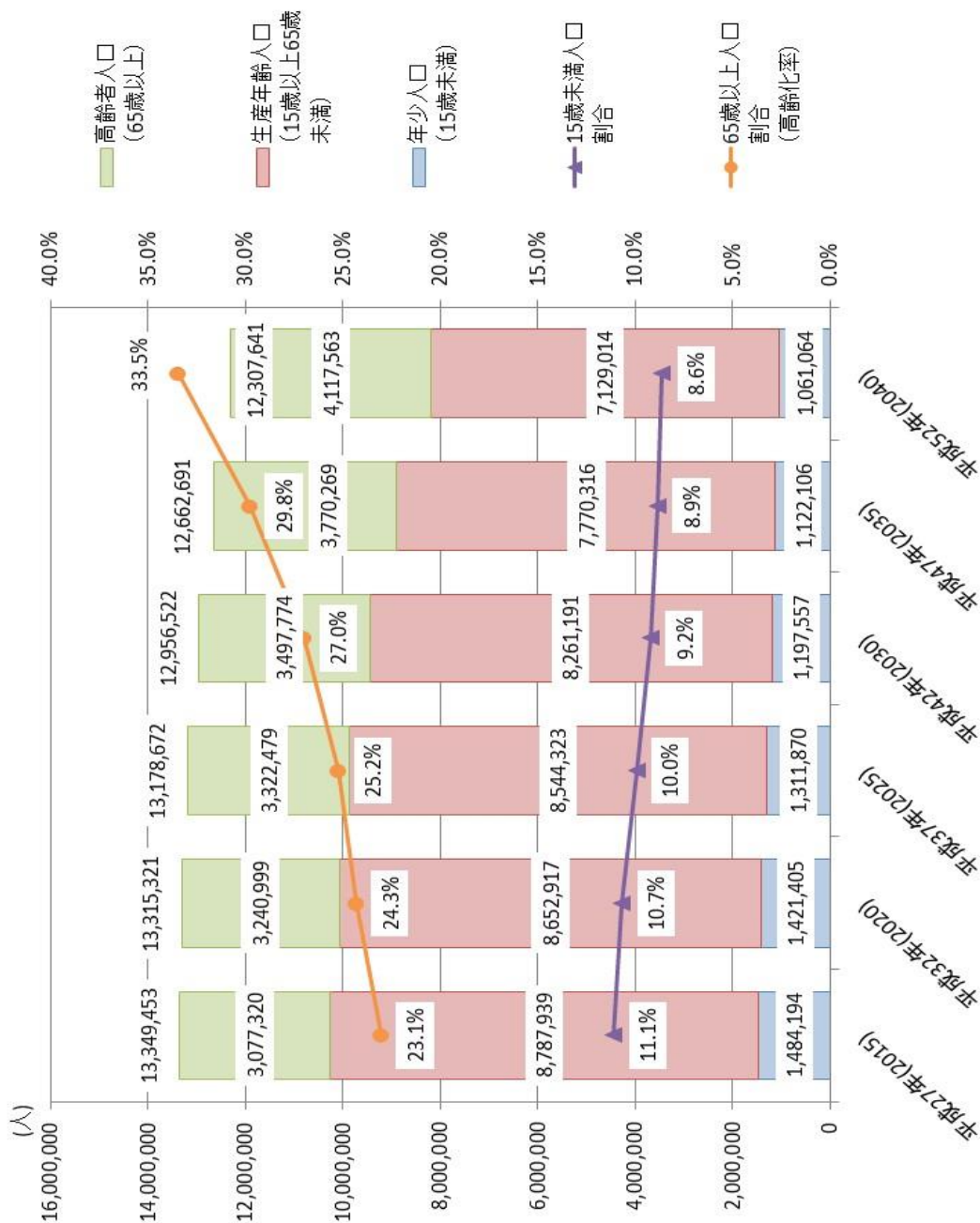
図表 10：練馬区の将来推計人口



出典：練馬区企画課資料（平成 30 年（2018 年）1 月推計）

- ・ 国立社会保障・人口問題研究所の日本の地域別将来推計人口（平成 25 年 3 月）では、東京都、区西北部医療圏⁵とも、生産年齢人口、年少人口は減少するのに対し、高齢者人口は大きく増加すると推計されています。

図表 11：東京都の将来推計人口



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成 25 年（2013 年）3 月）」

⁵ 区西北部医療圏…原則として特殊な医療を除く一般の医療ニーズに対応するために都が設定する保健医療圏域で、入院医療を確保するとともに、医療機関の機能連携に基づく医療サービスと広域的、専門的な保健サービスとの連携などにより、都民に包括的な保健医療サービスを提供する区域。練馬区は豊島区、北区、板橋区とともに区西北部医療圏に属している。

図表 12：区西北部医療圏の将来推計人口



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年（2013年）3月）」

10 患者数の推計

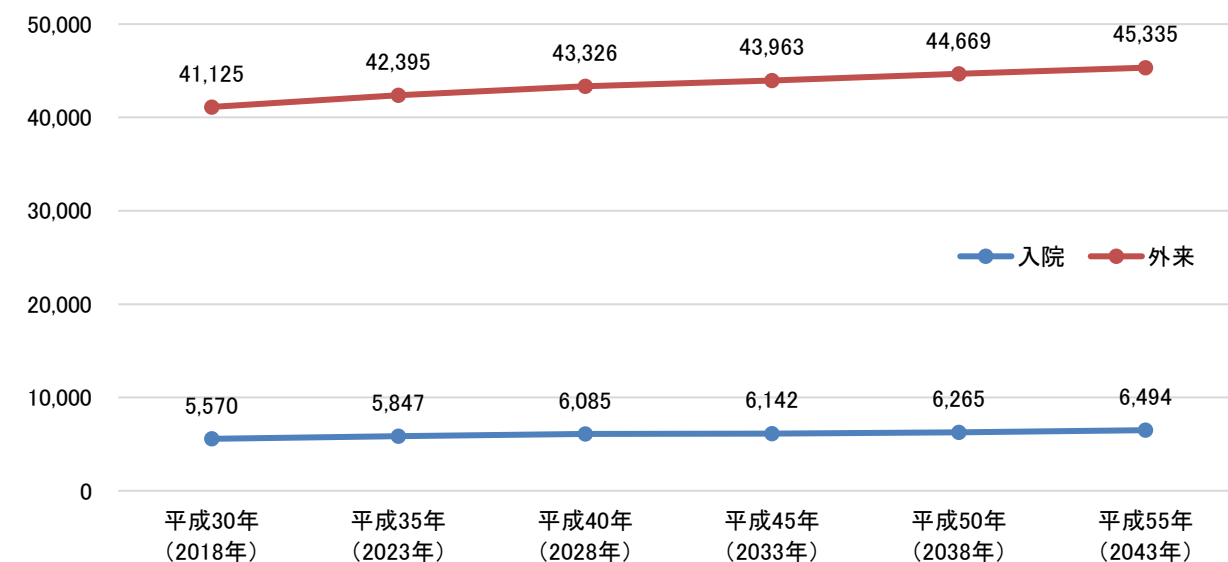
【患者数の推計方法】

- ・ 厚生労働省「平成 26 年（2014 年）患者調査」より、東京都の平成 26 年（2014 年）入院・外来患者受療率（疾病分類別・男女別・年齢階層別）を抽出した。
- ・ 上記の入院・外来患者受療率に練馬区企画課資料（平成 30 年（2018 年）1 月推計）に基づく男女別・年齢階層別の将来推計人口を乗じることで将来の入院・外来患者数を試算した。
- ・ 受療率は平成 26 年（2014 年）の数値を固定し、社会変動や医療政策による影響等は考慮していない。

(1) 練馬区の入院・外来患者数の推計

- ・ 入院・外来ともに、1 日あたりの患者総数は増加する見込みです。
- ・ 入院患者は、平成 30 年（2018 年）の約 5,600 人から平成 55 年（2043 年）には約 6,500 人にまで増加する見込みです。
- ・ 外来患者は、平成 30 年（2018 年）の約 41,000 人から平成 55 年（2043 年）には約 45,000 人にまで増加する見込みです。

図表 13：練馬区の入院・外来患者数の推計（患者住所地ベース⁶）



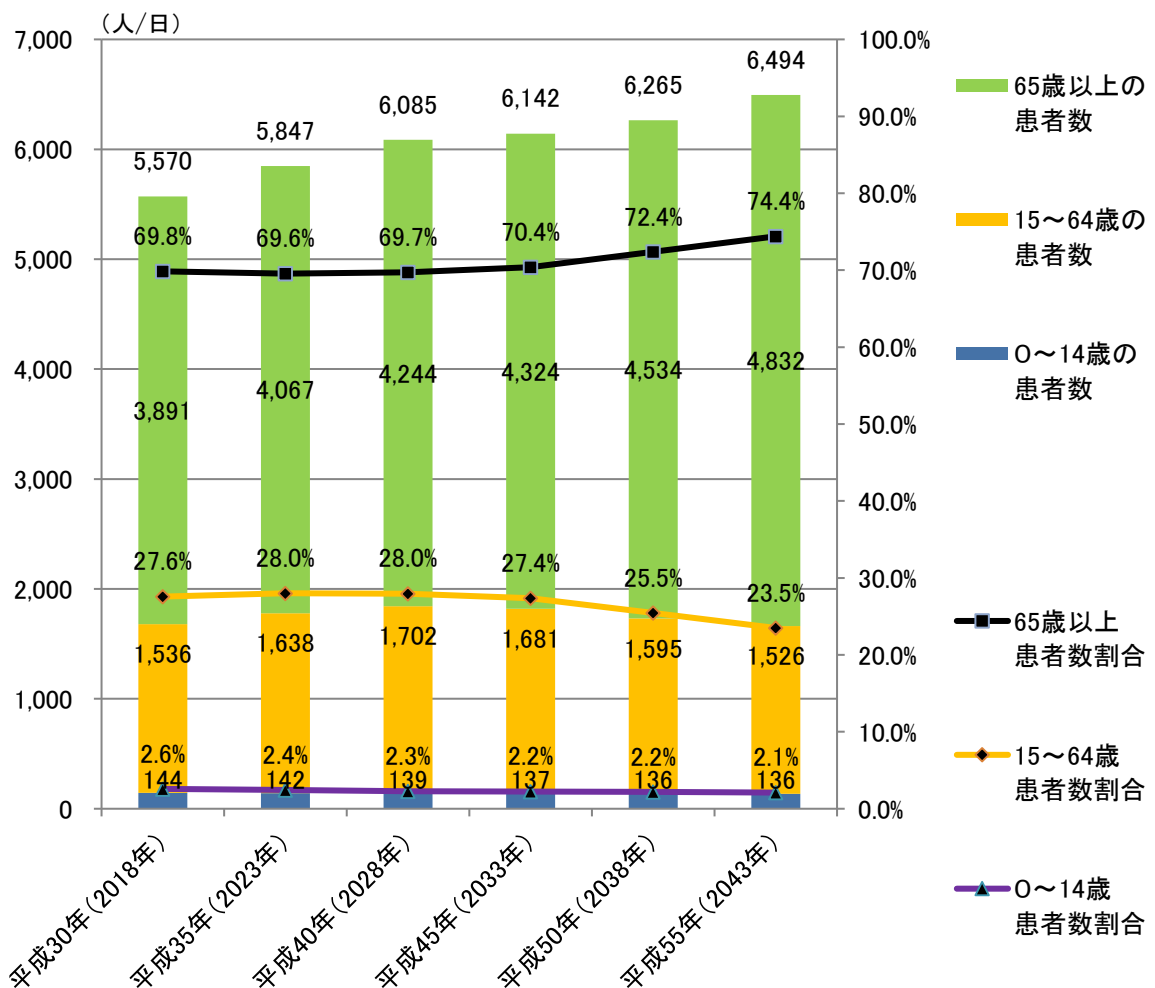
出典：厚生労働省「平成 26 年（2014 年）患者調査」、練馬区企画課資料（平成 30 年（2018 年）1 月推計）を参考に練馬区医療環境整備課推計

⁶患者住所地ベース…練馬区に住所がある患者数。

(2) 年齢階層別入院患者数の推計

- ・ 年齢階層別の入院患者数は、65歳以上の高齢者が最も多く、高齢化の進展により、平成30年（2018年）と比較して平成55年（2043年）には約1,000人増加し約4,800人と推計されます。
- ・ 15～64歳の患者数は、平成40年（2028年）まで微増するものの、その後は減少し、平成55年（2043年）には平成30年（2018年）とほぼ同じ約1,500人と推計されます。
- ・ 0～14歳以下の患者数は、横ばいと推計されます。

図表 14：年齢階層別入院患者数の推計（患者住所地ベース）

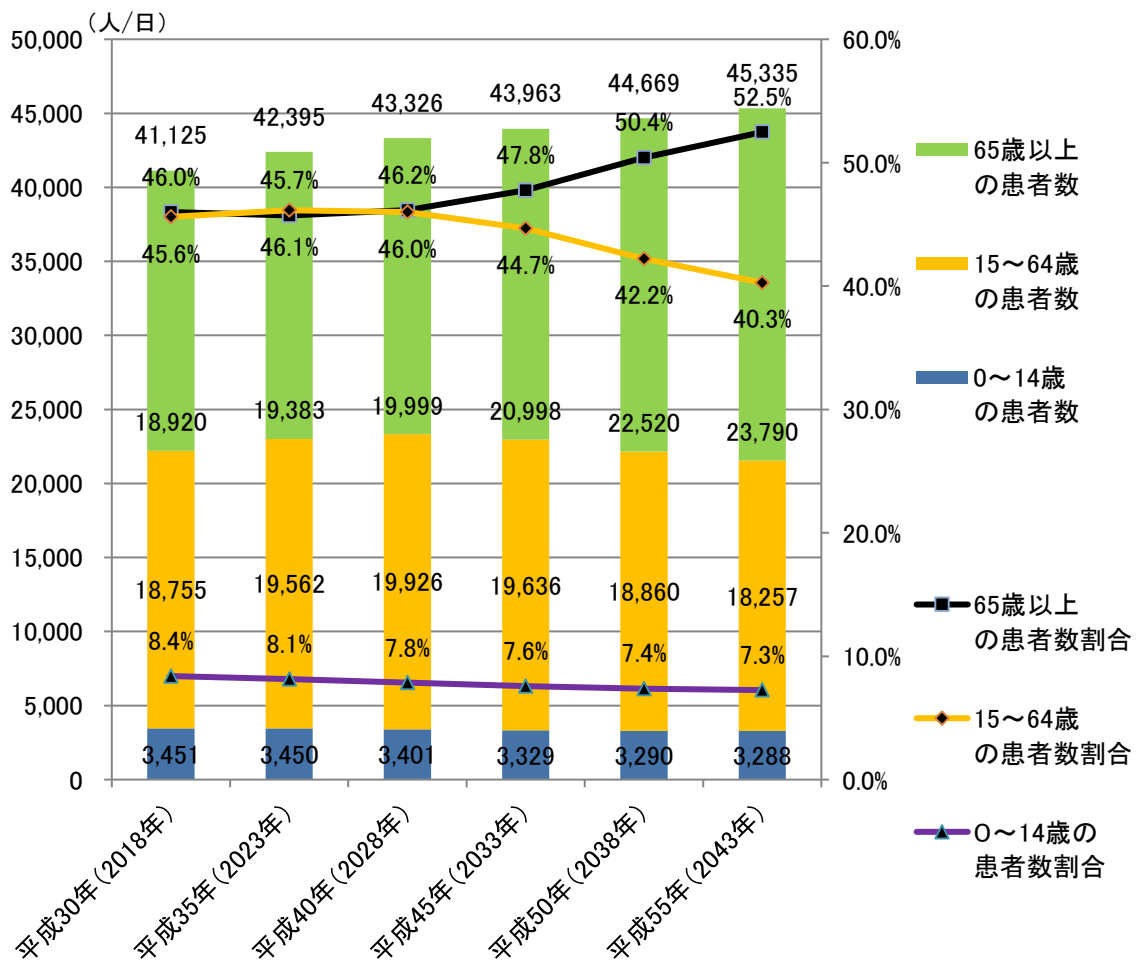


出典：厚生労働省「平成26年（2014年）患者調査」、練馬区企画課資料（平成30年（2018年）1月推計）を参考に練馬区医療環境整備課推計

(3) 年齢階層別外来患者数の推計

- ・ 年齢階層別の外来患者数は、65歳以上の高齢者が最も多く、高齢化の進展により、平成30年(2018年)と比較して平成55年(2043年)には約5,000人増加し約24,000人と推計されます。
- ・ 15～64歳の患者数は、平成40年まで微増するものの、その後は減少し、平成55年(2043年)には平成30年(2018年)より少なく約18,000人と推計されます。
- ・ 0～14歳以下の患者数は微減し、平成55年(2043年)には約3,300人と推計されます。

図表 15：年齢階層別外来患者数の推計（患者住所地ベース）



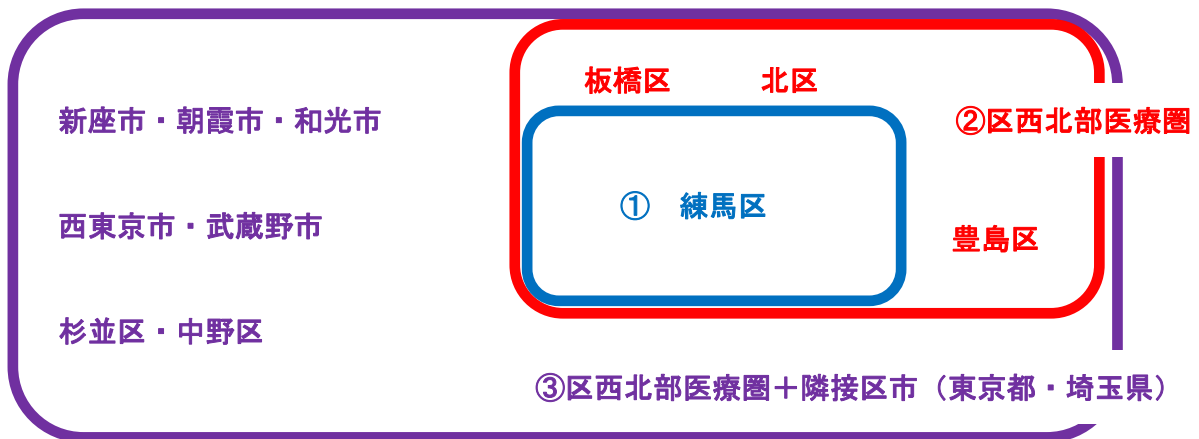
出典：厚生労働省「平成26年(2014年)患者調査」、練馬区企画課資料(平成30年(2018年)1月推計)を参考に練馬区医療環境整備課推計

区民が受診する医療機関の所在地の状況

区民が受診する医療機関の所在する地域について、平成 27 年 10 月の練馬区国民健康保険のレセプトデータにより調査しました。

今回の調査では、①区内、②区西北部医療圏（練馬区・豊島区・北区・板橋区、以下「医療圏」という。）、③医療圏＋隣接区市（東京都）⁷＋隣接市（埼玉県）⁸の 3 段階で分類しました。

【医療機関所在地域のイメージ図】



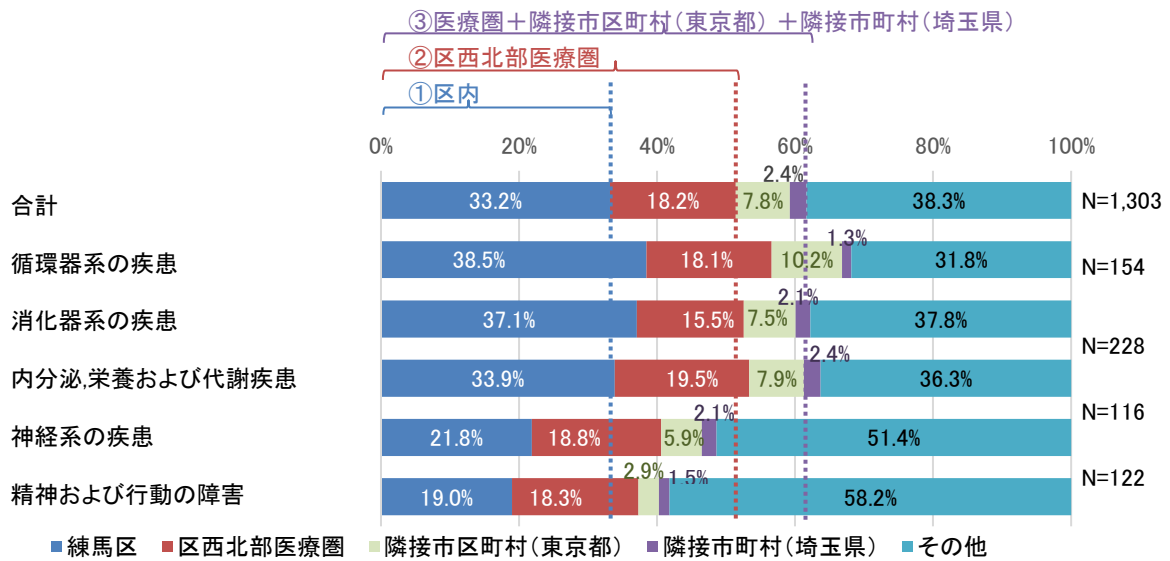
⁷ 隣接区市（東京都）…練馬区に隣接している東京都の区市（西東京市・武蔵野市・杉並区・中野区）

⁸ 隣接市（埼玉県）…練馬区に隣接している埼玉県の市（新座市・朝霞市・和光市）

(1) 入院患者の医療機関所在地の状況

- ・ 入院患者のうち 33.2%が①区内の医療機関で受診しており、66.8%が区外の医療機関で受診しています。
- ・ 入院患者のうち 51.5%が②医療圏内の医療機関で受診しており、48.5%が医療圏以外の医療機関で受診しています。
- ・ 入院患者のうち 61.7%が③医療圏+隣接区市（東京都）+隣接市（埼玉県）の範囲内で受診しており、38.3%が範囲外で受診しています。

図表 16：練馬区の入院患者の医療機関所在地の状況



出典：練馬区「国保レセプトデータ（平成 27 年（2015 年）10 月分）」

※上記国保レセプトデータは、国民健康保険の診療報酬明細を基にしたものであり、その他社会保険等は含まない。N=100 以上のもののみ抜粋

ICD10 大分類	ICD10 中分類	主な疾患
循環器系の疾患	高血圧性疾患、心疾患(高血圧性のものを除く)(虚血性心疾患、その他の心疾患)、脳血管疾患(脳梗塞、その他の脳血管疾患)等	高血圧症、脳梗塞、狭心症、心不全、不整脈
消化器系の疾患	う蝕、歯肉炎及び歯周疾患、胃潰瘍及び十二指腸潰瘍等	便秘症、大腸ポリープ、胃潰瘍、慢性胃炎、胃炎
内分泌,栄養および代謝疾患	甲状腺障害、糖尿病等	糖尿病、高脂血症、脂質異常症、2型糖尿病、脱水症
神経系の疾患	パーキンソン病、アルツハイマー病、てんかん等	不眠症、てんかん、薬剤性パーキンソン症候群
精神および行動の障害	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害、気分[感情]障害(躁うつ病を含む)、神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害等	統合失調症、うつ病、躁うつ病、認知症、双極性感情障害

※ICD10⁹中分類の疾患のうち、主な疾患名を抜粋

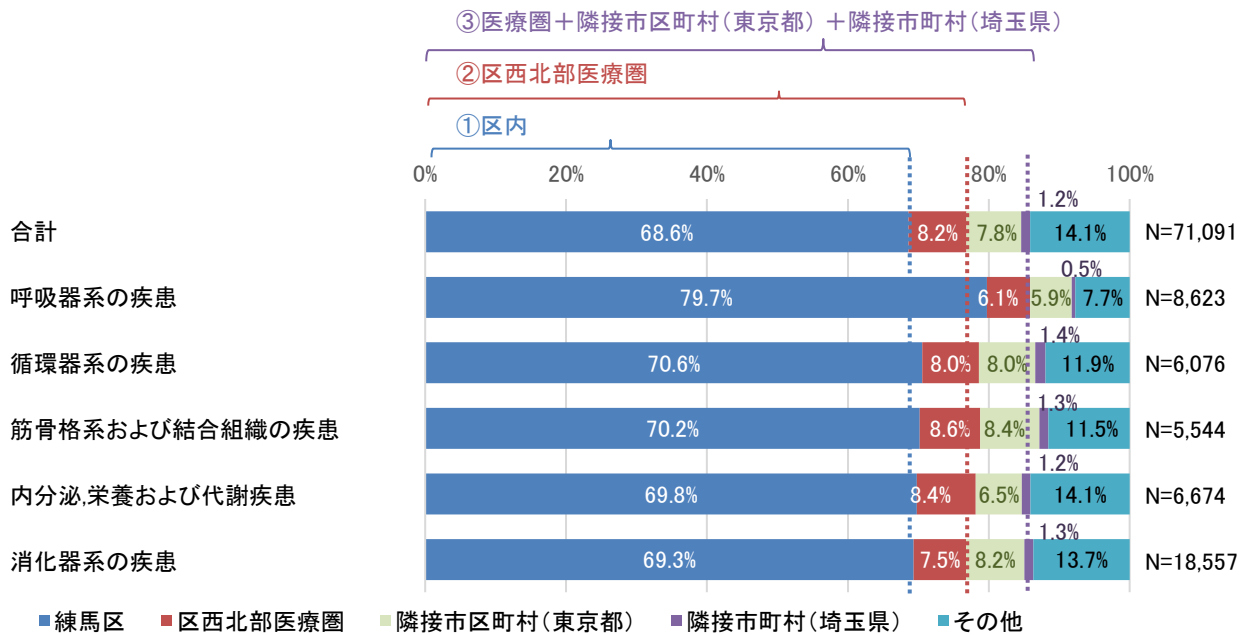
※疾患の並び順は、区内の受診患者数が多い順

9 ICD10⁹「疾病及び関連保健問題の国際統計分類：International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems (ICD)」とは、異なる国や地域から、異なる時点で集計された死亡や疾病のデータの体系的な記録、分析、解釈及び比較を行うため、世界保健機関憲章に基づき、世界保健機関 (WHO) が作成した分類。全 22 章からなる大分類と、大分類と包括関係にある、より細かい疾患名の中分類、小分類から構成される。

(2) 外来患者の医療機関所在地の状況

- ・ 外来患者のうち 68.6%が①区内の医療機関で受診しており、31.4%が区外の医療機関で受診しています。
- ・ 外来患者のうち 76.8%が②医療圏内の医療機関で受診しており、23.3%が医療圏以外の医療機関で受診しています。
- ・ 外来患者のうち 85.9%が③医療圏+隣接区市（東京都）+隣接市（埼玉県）の範囲内で受診しており、14.1%が範囲外で受診しています。

図表 17： 練馬区の外来患者区外受診状況



出典：練馬区「国保レセプトデータ（平成 27 年（2015 年）10 月分）」

※N=5,000 以上のものみ抜粋

ICD10 分類	ICD10 中分類	主な疾患
呼吸器系の疾患	急性上気道感染症、肺炎、急性気管支炎及び急性細気管支炎、気管支炎及び慢性閉塞性肺疾患、喘息 等	アレルギー性鼻炎、気管支喘息、急性気管支炎、急性上気道炎、急性咽頭喉頭炎
循環器系の疾患	高血圧性疾患、心疾患(高血圧性のものを除く)(虚血性心疾患、その他の心疾患)、脳血管疾患(脳梗塞、その他の脳血管疾患) 等	高血圧症、狭心症、本態性高血圧症、脳梗塞、心不全
筋骨格系および結合組織の疾患	炎症性多発性関節障害、脊柱障害、骨の密度及び構造の障害 等	腰痛症、骨粗鬆症、変形性膝関節症、肩関節周囲炎、変形性腰椎症
内分泌・栄養および代謝疾患	甲状腺障害、糖尿病 等	高脂血症、糖尿病、高コレステロール血症、高尿酸血症、脂質異常症
消化器系の疾患	う蝕、歯肉炎及び歯周疾患、胃潰瘍及び十二指腸潰瘍 等	歯周炎、う蝕、慢性歯周炎、慢性胃炎、便秘症

※ICD10 中分類の疾患のうち、主な疾患名を抜粋

※疾患の並び順は、区内の受診患者数が多い順

12 主要死因別死亡数

図表 18 : 人口 10 万人対主要死因別死亡数 (上位 11) (人)

	東京都		医療圏		練馬区	
1	悪性新生物	252.8	悪性新生物	259.7	悪性新生物	232.74
2	心疾患 (高血圧性を除く)	126.7	心疾患 (高血圧性を除く)	130.3	心疾患 (高血圧性を除く)	112.49
3	その他の全死因	96.4	その他の全死因	93.7	その他の全死因	91.74
4	肺炎	72.8	肺炎	72.7	肺炎	66.14
5	脳血管疾患	70.3	脳血管疾患	72.0	脳血管疾患	63.23
6	老衰	46.3	老衰	46.8	老衰	40.82
7	不慮の事故	20.3	不慮の事故	22.9	不慮の事故	19.79
8	神経系の疾患	19.9	神経系の疾患	20.6	神経系の疾患	19.51
9	自殺	18.3	自殺	20.0	自殺	19.23
10	腎不全	13.9	肝疾患	13.5	大動脈瘤及び解離	13.01
11	肝疾患	13.2	大動脈瘤及び解離	13.3	肝疾患	10.79

出典：東京都「人口動態統計平成 26 年 (2014 年)」より作成

13 病床機能別病床数

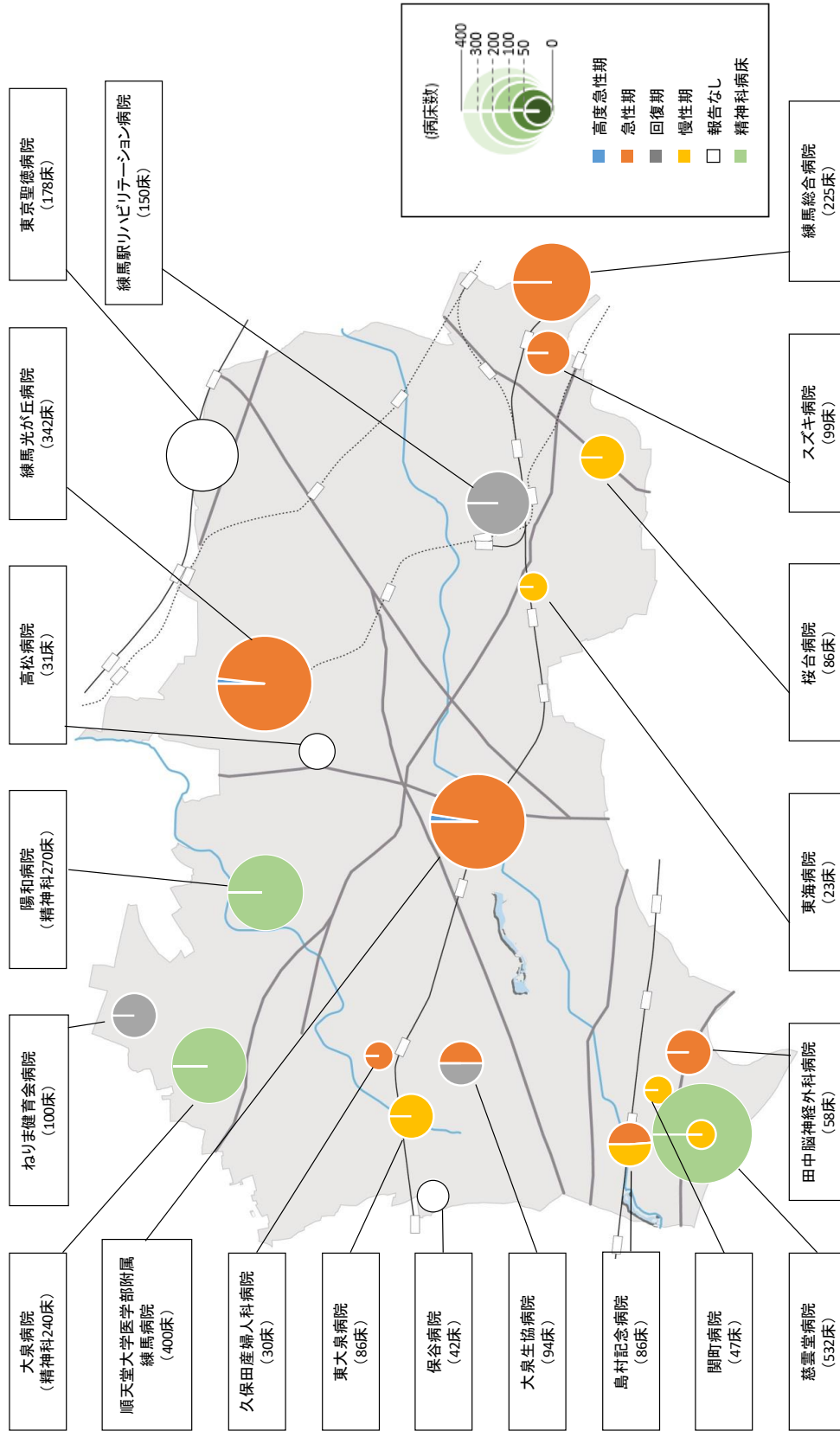
図表 19：練馬区の病床機能別病床数

	医療機関名	許可病床数				病床機能別病床数			
		一般 病床	療養 病床	うち 医療療養	計	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期
1	スズキ病院	99	0	0	99	0	99	0	0
2	田中脳神経外科病院	58	0	0	58	0	58	0	0
3	慈雲堂病院	30	0	0	30	0	0	0	30
4	東京聖徳病院	0	178	0	178	—	—	—	—
5	練馬総合病院	224	0	0	224	0	224	0	0
6	練馬駅リハビリテーション病院	0	150	150	150	0	0	150	0
7	練馬光が丘病院	342	0	0	342	6	336	0	0
8	桜台病院	0	86	16	86	0	0	0	86
9	順天堂大学医学部附属練馬病院	400	0	0	400	10	390	0	0
10	島村記念病院	42	44	44	86	0	42	0	44
11	久保田産婦人科病院	30	0	0	30	0	30	0	0
12	東海病院	0	23	23	23	0	0	0	23
13	保谷病院	42	0	0	42	—	—	—	—
14	関町病院	0	47	47	47	0	0	0	47
15	大泉生協病院	94	0	0	94	0	47	47	0
16	東大泉病院	0	86	86	86	0	0	0	86
17	高松病院	31	0	0	31	—	—	—	—
合計		1,392	614	366	2,006	16	1,226	197	316
4 機能別割合						0.9%	69.9%	11.2%	18.0%

出典：東京都福祉保健局「東京都における医療機能ごとの病床の状況（平成 28 年（2016 年）報告）7 月 1 日時点

※「東京聖徳病院」「保谷病院」「高松病院」は、平成 28 年（2016 年）に報告を行っていないため、平成 28 年（2016 年）医療機関名簿の許可病床数を引用

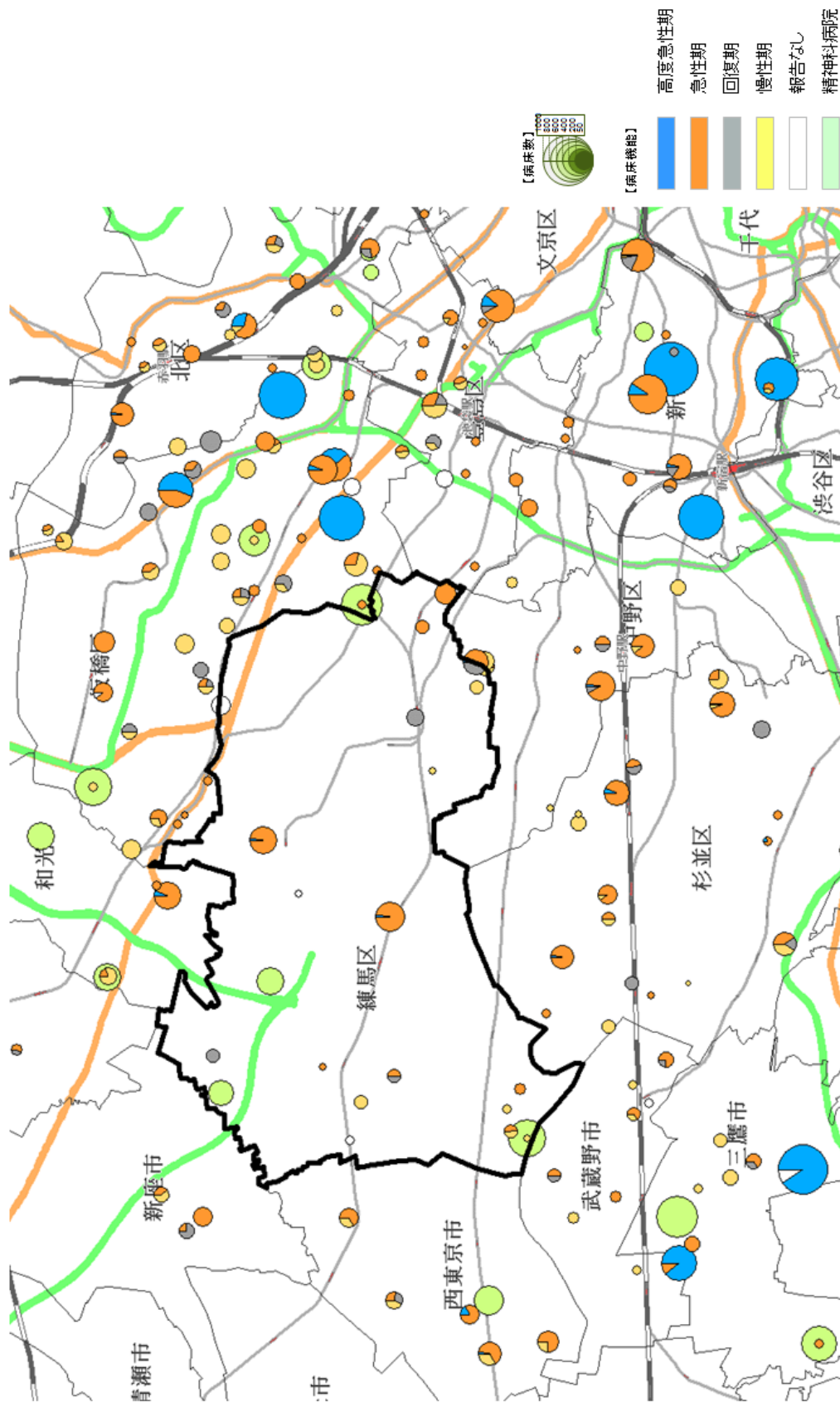
練馬区における病院配置図



出所：東京都福祉保健局「東京都における医療機能ごとの病床の状況（平成28年（2016年、報告）7月1日時点（精神科病床は関東圏東越厚生局「届出受理医療機関名簿」平成29年6月1日現在）

※「東京聖徳病院」「坂谷病院」は、平成28年に報告を行っていないため、平成28年医療機関名簿の許可病床数を引用

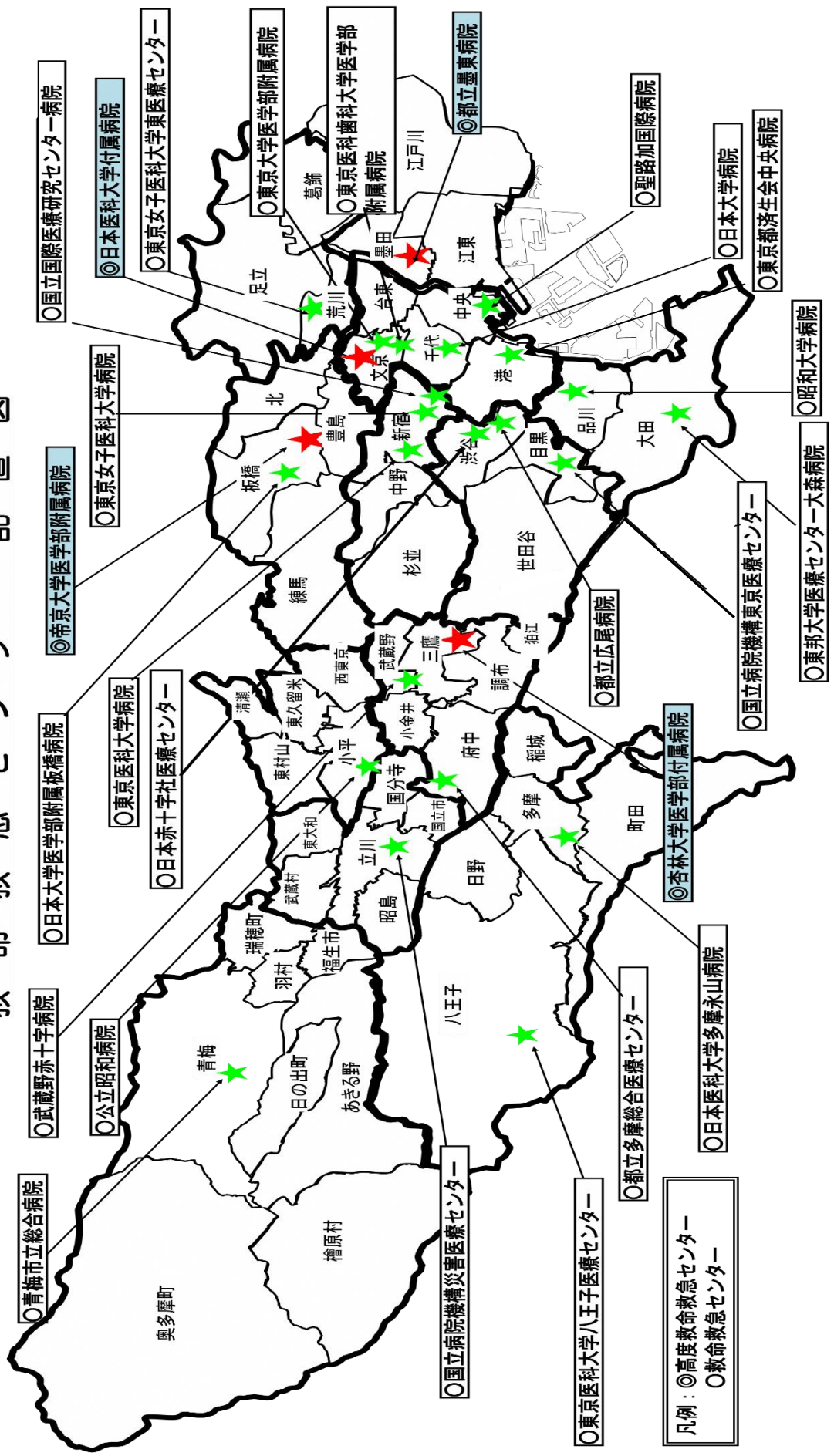
練馬区周辺地域における病院配置図



出所：東京都福祉保健局「東京都における医療機能ごとの病床の状況(平成28年(2016年)報告)7月1日時点(精神病床は
関東信越厚生局「届出受理医療機関名簿」平成29年6月1日現在)
※平成28年に報告を行っていない医療機関は、平成28年医療機関名簿の許可病床数を引用

救命救急センター配置図

平成29年1月1日現在



凡例：◎高度救命救急センター
○救命救急センター

圏域	構成区市町村	人口	面積 (k m ²)	救命救急センター
区中央部	千代田・中央・港・文京・台東	869,967	63.64	日本医科大学付属病院(47床)、日本大学病院(20床)、聖路加国際病院(20床)、東京医科歯科大学医学部付属病院(30床)、東京大学医学部付属病院(20床)、東京都済生会中央病院(22床)
区南部	品川・大田	1,110,619	83.50	東邦大学医療センター大森病院(20床)、昭和大学病院(20床)
区西南部	目黒・世田谷・渋谷	1,414,607	87.83	都立広尾病院(36床)、国立病院機構東京医療センター(18床)、日本赤十字社医療センター(33床)
区西部	新宿・中野・杉並	1,234,745	67.87	東京女子医科大学病院(30床)、東京医科大学病院(20床)、国立国際医療研究センター病院(30床)
区西北部	豊島・北・板橋・練馬	1,925,462	113.92	帝京大学医学部付属病院(30床)、日本大学医学部付属板橋病院(24床)
区東北部	荒川・足立・葛飾	1,329,770	98.21	東京女子医科大学東医療センター(20床)
区東部	墨田・江東・江戸川	1,442,517	103.83	都立墨東病院(24床)
西多摩	青梅・福生・羽村・あきる野・瑞穂・日の出・檜原・奥多摩	390,419	572.70	青梅市立総合病院(30床)
南多摩	八王子・町田・日野・多摩・稲城	1,431,153	324.71	日本医科大学多摩永山病院(21床)、東京医科大学八王子医療センター(30床)
北多摩西部	立川・昭島・国分寺・国立・東大和・武蔵村山	641,992	90.05	国立病院機構災害医療センター(34床)
北多摩南部	武蔵野・三鷹・府中・調布・小金井・狛江	1,026,470	96.10	杏林大学医学部付属病院(30床)、武蔵野赤十字病院(30床)、都立多摩総合医療センター(20床)
北多摩北部	小平・東村山・西東京・清瀬・東久留米	732,134	76.51	公立昭和病院(28床)
合計(島しょ部除く)		13,549,855	1,778.87	センター総数 26施設(687床)

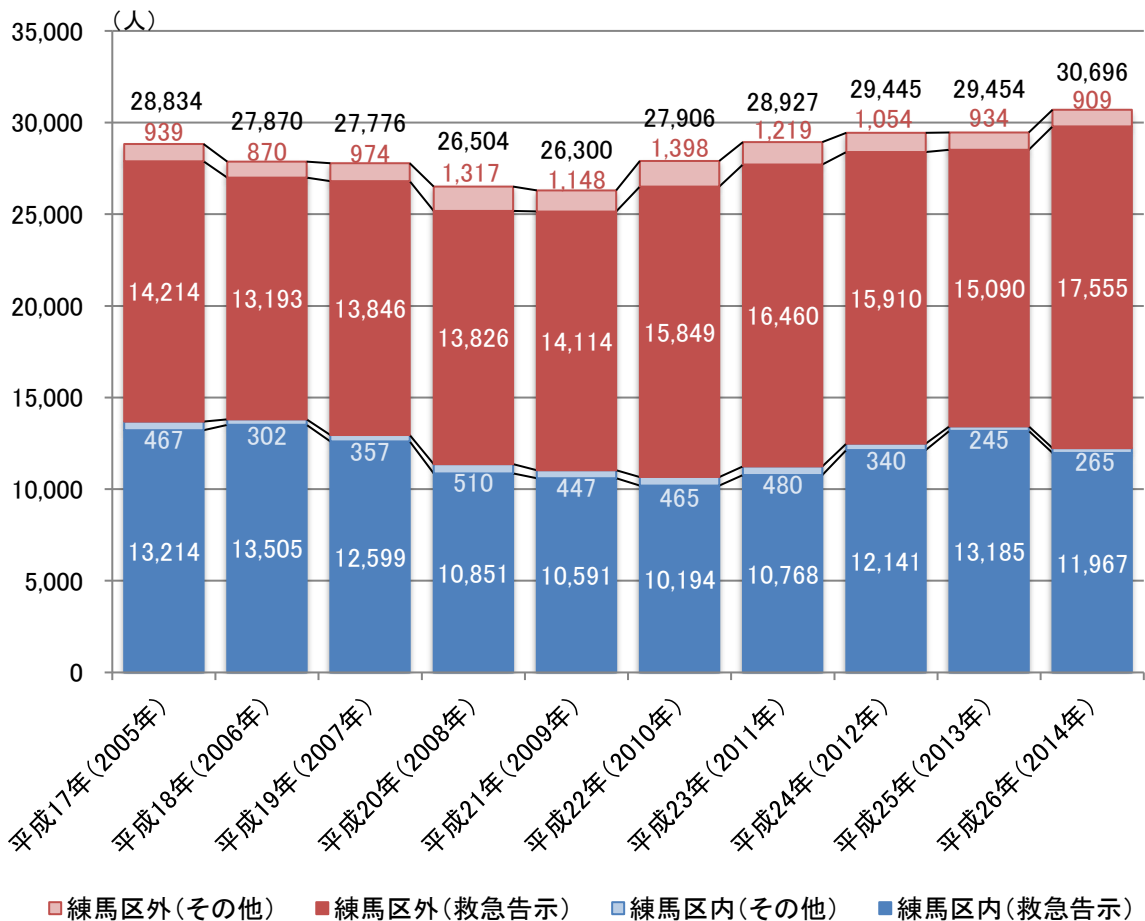
出典：東京都福祉保健局

14 救急医療

(1) 搬送医療機関別搬送件数

- ・ 区の救急搬送件数は平成 22 年（2010 年）から増加に転じ、それ以降毎年増加しています。
- ・ 約 6 割が区外の医療機関へ搬送されています。
- ・ 区内の救急告示医療機関¹⁰搬送件数は、平成 22 年（2010 年）から平成 25 年（2013 年）まで増加傾向にありましたが、平成 26 年（2014 年）には減少しました。
- ・ 区外の救急告示医療機関搬送件数は、平成 23 年（2011 年）から平成 25 年（2013 年）まで減少傾向にありましたが、平成 26 年（2014 年）には増加しました。

図表 20：練馬区の搬送医療機関別搬送件数の推移



出典：東京消防庁

¹⁰ 救急告示医療機関…救急病院等を定める省令（救急患者を受け入れる要件）に基づき、知事が認定した医療機関

図表 21：練馬区内の救急医療機関

	医療機関	救急告示 医療機関	東京都指定 二次救急医療機関 ¹¹	病床数
1	スズキ病院	○	○	99
2	練馬総合病院	○	○	224
3	練馬光が丘病院	○	○	342
4	順天堂大学医学部附属練馬病院	○	○	400
5	田中脳神経外科病院	○	○	58
6	久保田産婦人科病院	○	—	30
7	川満外科	○	○	19
8	大泉生協病院	○	○	94
9	島村記念病院	○	—	86

出典：東京都福祉保健局ホームページ（平成 28 年（2016 年）10 月 1 日現在）

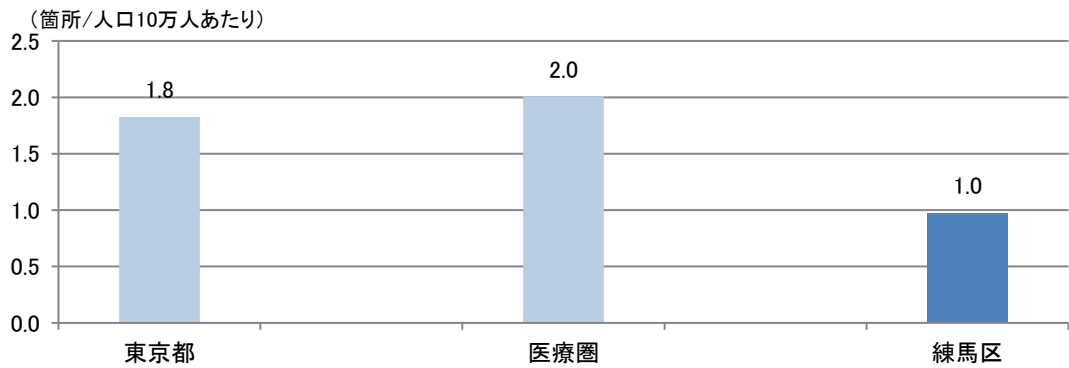
※島村記念病院は、平成 29 年 3 月 15 日から救急告示を撤回。

¹¹ 二次救急医療機関…原則として、2 科（内科系及び外科系）、3 科（内科系、小児科又は産科及び外科系）、又は 4 科（内科系、産科、小児科及び外科系）の初療及び入院・手術等の専門的な診療を行い、患者の受入れ可能な救急用病床を知事の指定に基づき確保している医療機関

(2) 二次救急医療機関数

- 東京都指定二次救急医療機関の人口10万人あたりの施設数では、東京都・医療圏と比べて、区は約半分の状況です。

図表 22：人口10万人あたりの二次救急医療機関数

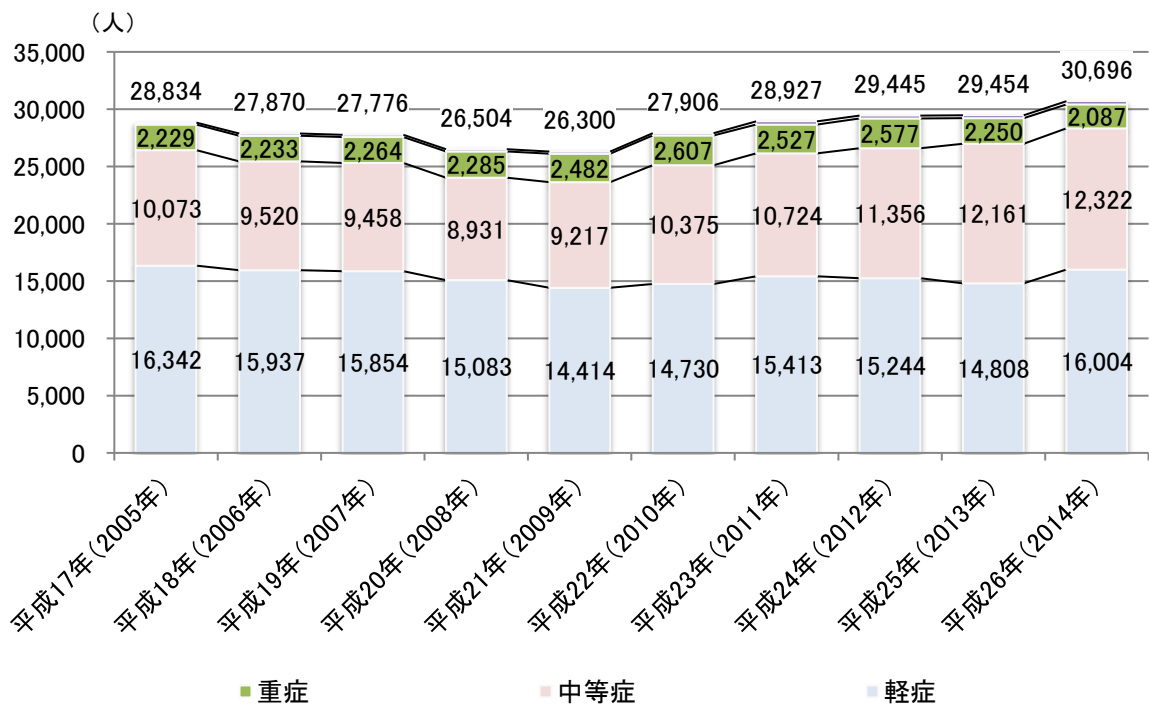


出典：東京都「休日・全夜間診療事業実施医療機関一覧（東京都指定二次救急医療機関一覧）（平成28年（2016年）10月1日現在）」、住民基本台帳人口平成28年（2016年）1月1日現在

(3) 重症度別搬送件数

- ・ 救急搬送患者のうち、重症¹²の患者数は、平成 22 年（2010 年）まで増加しその後は減少傾向です。
 - ・ 中等症¹³の患者は、平成 20 年（2008 年）まで減少していましたが、平成 21 年（2009 年）から増加に転じています。
 - ・ 軽症¹⁴の患者は、平成 21 年（2009 年）まで減少し、それ以降は、15,000 人前後で推移していましたが、平成 26 年（2014 年）増加に転じました。
- ※重症・中等症・軽症は、搬送先の医師の診察による判断

図表 23：練馬区の重症度別搬送件数の推移



出典：東京消防庁

¹² 重症…傷病の程度が3週間以上の入院を必要とするもの

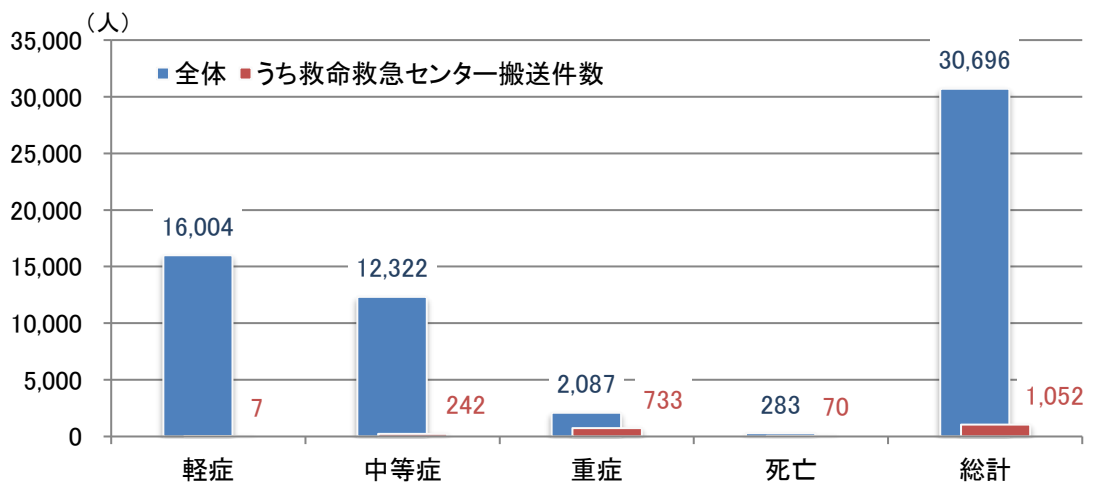
¹³ 中等症…傷病の程度が入院を必要とするもので重症に至らないもの

¹⁴ 軽症…傷病の程度が入院加療を必要としないもの

(4) 救命救急センターとその他医療機関別の重症度別搬送件数

- ・ 練馬区内には救命救急センター¹⁵がないため、救命救急センターでの治療が必要となった場合は、近隣の救命救急センターに搬送され治療を受けます。
 - ・ 平成 26 年（2014 年）には 1,052 人が、区外の救命救急センターに搬送されています。約 7 割は、重症の患者です。
- ※重症・中等症・軽症は、搬送先の医師の診察による判断

図表 24：練馬区の重症度別搬送件数（平成 26 年（2014 年））



出典：東京消防庁

図表 25：区外の救命救急センター搬送状況

搬送先	搬送人員数	割合
板橋区	661	62.8%
三鷹市・武蔵野市	258	24.5%
その他都内	133	12.6%
合計	1052	100%

小数点以下の端数処理調整し、割合の合計は 100%にしている。

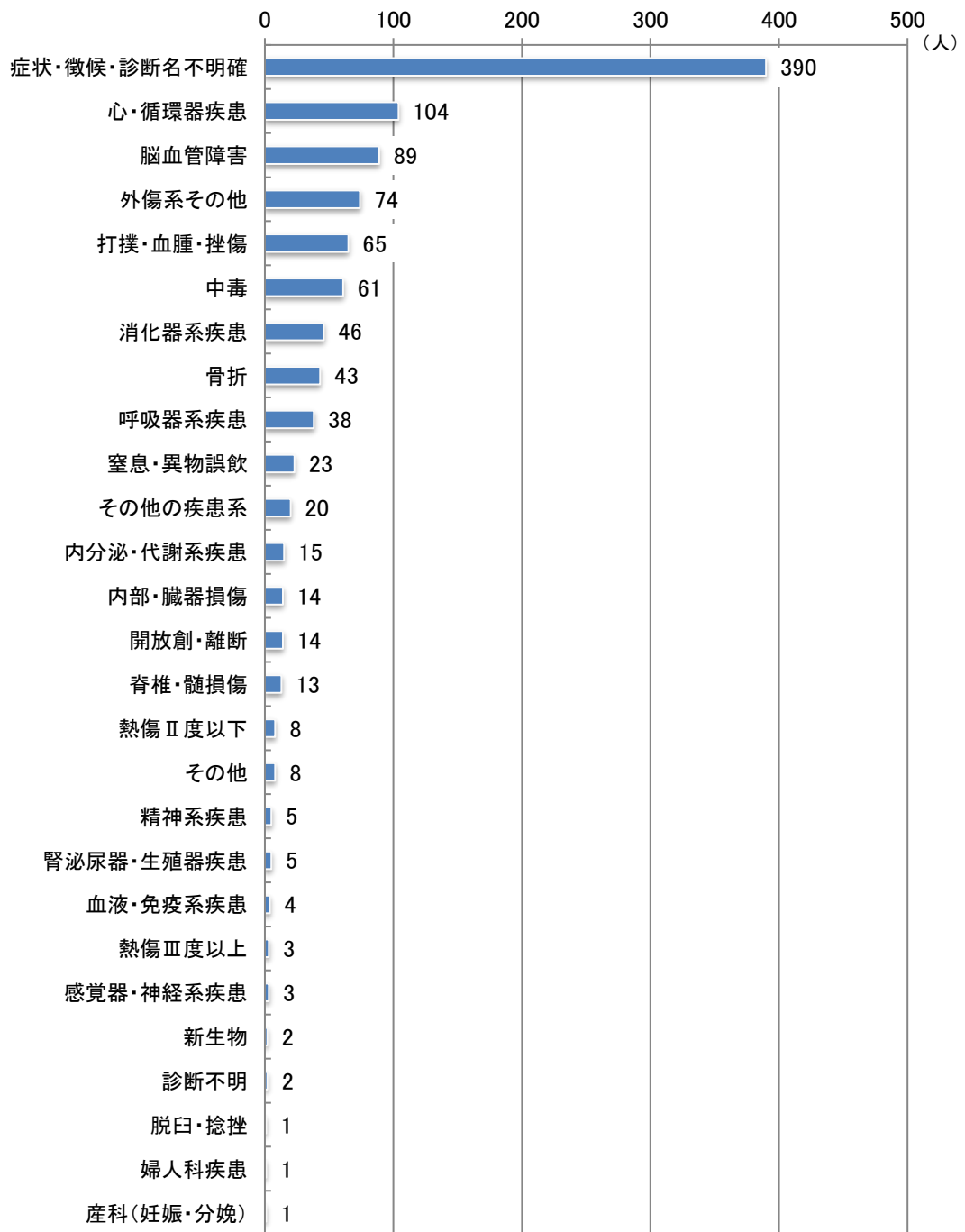
出典：東京消防庁

¹⁵ 救命救急センター…厚生労働大臣の定めを受けて、脳卒中や急性心筋梗塞、多発外傷、全身熱傷等、二次救急病院では対応困難な重篤な患者、複数の専門領域にわたる病状を有する患者に対し、専門的な救急医療を提供する医療機関（三次救急を提供する医療機関）。

(5) 救命救急センターの疾患別搬送件数

・ 区内の患者の救命救急センターへの搬送件数 1,052 件を疾患別に見ると、「診断名不明確」が最も多く、次いで「心・循環器疾患」、「脳血管障害」の順となっています。

図表 26：練馬区内患者の救命救急センター搬送件数（疾患別：平成 26 年（2014 年））



※救急隊は医師の確定診断を待つことなく移動することが多いため、多くは初診時の医師の診断名。

出典：東京消防庁

(6) 救急医療体制について

図表 27：練馬区・二次保健医療圏の救急医療体制

	対象	練馬区	二次保健医療圏 (豊島・北・板橋区)
三次 救急	生命危機を伴う 重症患者	—	【救命救急センター】 ・ 帝京大学医学部附属病院 ・ 日本大学医学部附属板橋 病院
二次 救急	入院を要する 中等症患者	【東京都指定二次救急医療機関】 ・ 浩生会スズキ病院 ・ 練馬総合病院 ・ 練馬光が丘病院 ・ 順天堂大学医学部附属練馬病院 ・ 田中脳神経外科病院 ・ 川満外科 ・ 大泉生協病院	複数の医療機関
初期 救急	入院を要しない 軽症患者	(1) 練馬休日急患診療所 日・祝休日・年末年始 10:00～17:00、18:00～22:00 土 18:00～22:00 (2) 練馬区夜間救急こどもクリニック (小児科のみ) 日・祝休日・年末年始 10:00～17:00、18:00～22:00 土 18:00～22:00 平日 20:00～23:00 (3) 石神井休日急患診療所 日・祝休日・年末年始 10:00～17:00、18:00～22:00 土 18:00～22:00 (4) 休日診療当番医療機関 日・祝休日・年末年始 9:00～19:00 5か所（練馬総合・スズキ・大泉 生協・久保田産婦人科・田中脳神経 外科病院・川満外科6か所の内5か 所で輪番） 《歯科》 (1) 練馬つつじ歯科休日急患診療所 日・祝休日・年末年始 10:00～17:00 (2) 休日診療当番医療機関 ゴールデンウィーク期間中の日・祝日と年末 年始 2か所実施 9:00～17:00	複数の医療機関

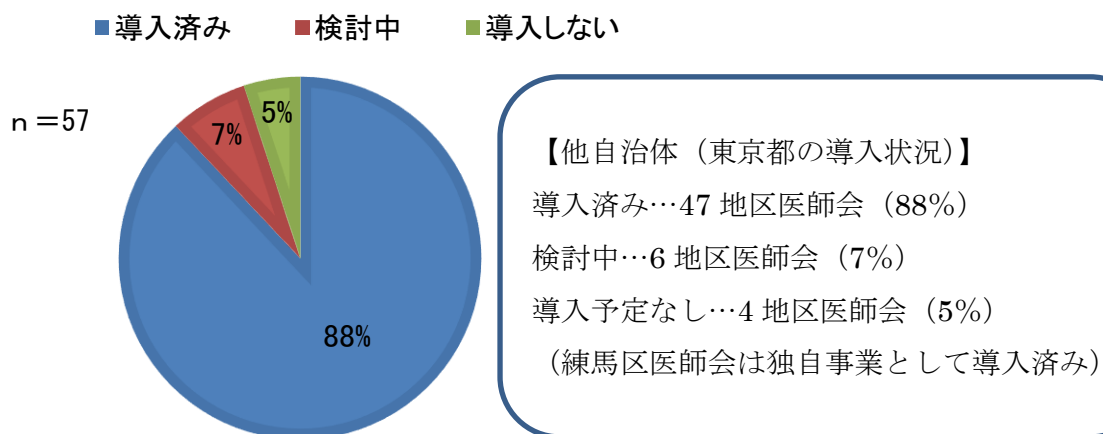
出典：救命救急センター：東京都福祉保健局ホームページ「救命救急センター（平成29年（2017年）4月1日現在）」

東京都指定二次救急医療機関：東京都福祉保健局ホームページ「休日・全夜間診療事業実施医療機関一覧（東京都指定二次救急医療機関一覧）（平成28年（2016年）10月1日現在）」

15 ICT ネットワーク

・ ICT¹⁶ネットワークについては、東京都内の 47 地区医師会（88%）がすでに導入している。

図表 28 : ICT ネットワークの導入状況（平成 29 年 6 月 15 日現在）



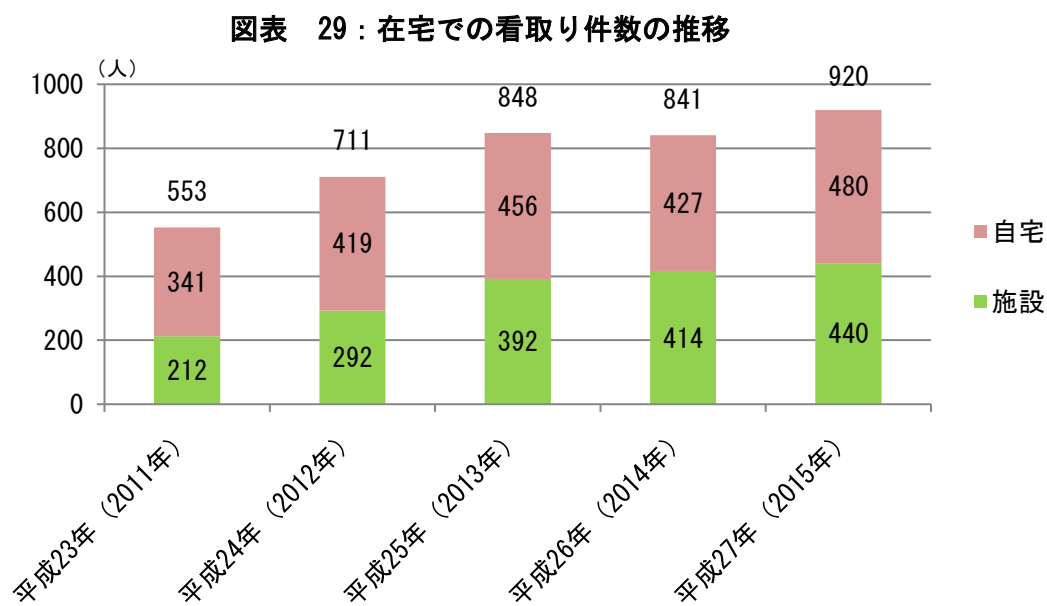
出典：平成 29 年度第 1 回地区医師会・区市町村在宅療養担当者連絡会東京都医師会資料

¹⁶ ICT…情報・通信に関する技術の総称。Information and Communication Technology（インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー）の略。医療や介護の分野では電子カルテ等の情報の共有やコミュニケーションのためのデータのやり取りに ICT を活用している。

16 在宅医療

(1) 看取り件数の推移

・ 在宅での看取り件数は増加傾向にあり、自宅・施設ともに増加しています。

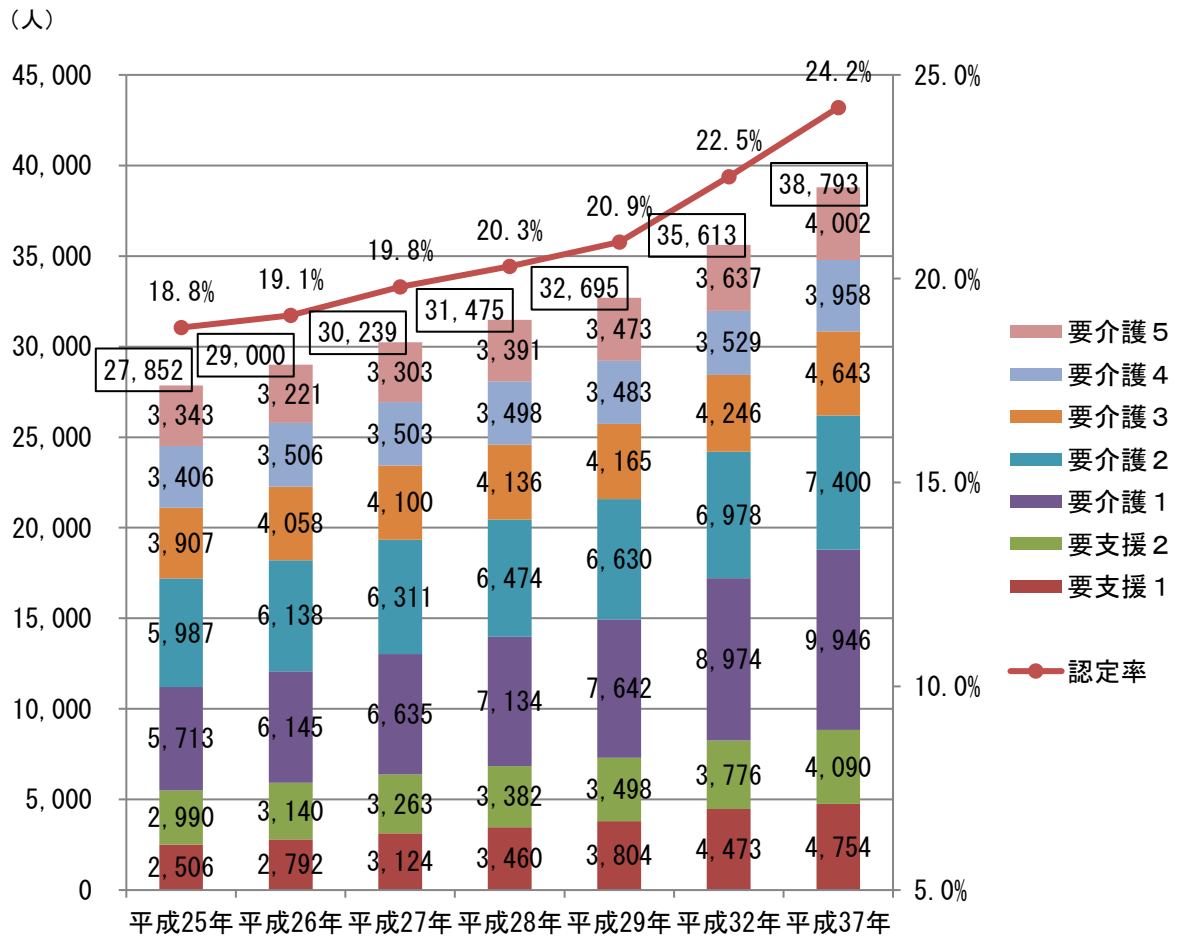


出典：練馬区「死亡小票データ（平成23年（2011年）1月1日～平成27年（2015年）12月31年の5カ年分）」

(2) 要支援・要介護認定者数の将来推計

・ 区の要支援・要介護認定者数は、増加の一途をたどり、平成 37 年（2025 年）には約 39,000 人になると推計されます。

図表 30：要介護認定者数の推移（第 1 号被保険者）



出典：練馬区「第 6 期練馬区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」

(3) 介護関係施設数の状況

・ 介護施設・介護サービス提供事業所の高齢者人口 10 万人あたりの数を比べると、東京都よりも区の方が少ない施設は、介護療養型医療施設、訪問看護、通所介護（デイサービス）、療養通所介護、通所リハビリテーション（デイケア）、認知症対応型通所介護、介護老人福祉施設（地域密着型）であるが、極端に施設数が少ないサービスは少なく、東京都と比べて比較的介護関係施設は充足しています。

図表 31：高齢者人口 10 万人あたり介護関係施設数

(単位：箇所)

サービスの種類	サービスの内容	東京都	練馬区
介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)	常に介護が必要で、自宅では介護ができない方が対象の施設です。食事・入浴など日常生活の介護や健康管理が受けられます。	16.2	17.4
介護老人保健施設	病状が安定し、リハビリに重点をおいた介護が必要な方が対象の施設です。医学的な管理のもとで介護や看護、リハビリが受けられます。	6.4	8.4
介護療養型医療施設	急性期の治療が終わり、病状は安定しているものの、長期間にわたり療養が必要な方が対象の施設です。介護体制の整った医療施設(病院)で、医療や看護が受けられます。	1.8	1.3
居宅介護支援	ケアマネージャーにケアプランを作成してもらうほか、安心して介護サービスを利用できるよう支援してもらいます。	112.8	133.5
訪問介護	ホームヘルパーに自宅を訪問してもらい、身体介護や生活援助を受けます。	98.8	117.4
訪問入浴介護	自宅に浴槽を持ち込んでもらい、入浴の介助を受けます。	5.4	6.4
訪問看護	看護師に訪問してもらい、床ずれの手当てや点滴の管理をしてもらいます。	31.9	31.6
訪問リハビリテーション	リハビリの専門家に訪問してもらい、自宅でリハビリを受けます。	7.1	7.1
通所介護 (デイサービス)	定員 19 名以上のデイサービスセンターで食事・入浴などの介護や機能訓練が日帰りで受けられます。	55.4	51.6
療養通所介護	常に看護師による観察を必要とする方を対象にしたサービスで、デイサービスセンターで、食事・入浴などの介護や機能訓練が日帰りで受けられます。	0.1	0.0
通所リハビリテーション (デイケア)	介護老人保健施設や病院・診療所で日帰りの機能訓練が受けられます。	10.7	10.3
短期入所生活介護 (ショートステイ)	介護老人福祉施設などに短期間入所して、食事・入浴などの介護や機能訓練が受けられます。	18.3	20.6
特定施設入居者生活 介護	有料老人ホームなどに入所している方が受けるサービスです。看護、医学的な管理の必要となる介護や機能訓練などが受けられます。	21.4	34.8
定期巡回・随時対応型 訪問介護看護	介護職員と看護師等の密接な連携による定期的な訪問を受けられます。また、通報や電話などをすることで、随時対応も受けられます。	2.8	3.9

サービスの種類	サービスの内容	東京都	練馬区
夜間対応型訪問介護	夜間に定期的な巡回で介護を受けられる訪問介護、緊急時など、利用者の求めに応じて介護を受けられる随時対応の訪問介護などがあります。	1.2	1.3
地域密着型通所介護	定員 19 名未満の小規模なデイサービスセンターで、食事・入浴などの介護や機能訓練が日帰りで受けられます。	55.2	78.0
認知症対応型通所介護	認知症と診断された方が食事・入浴などの介護や支援、機能訓練を日帰りで受けられます。	14.0	11.0
小規模多機能型居宅介護	小規模な住居型の施設への「通い」や、自宅に来てもらう「訪問」、施設に「泊る」サービスが受けられます。	6.2	9.7
認知症対応型共同生活介護	認知症と診断された方が少人数で共同生活をしながら、食事・入浴などの介護や支援、機能訓練を受けられます。利用者は共同生活のなかで、できる限り今まで暮らしてきた生活を続けることを目指します。	19.2	20.6
介護老人福祉施設(地域密着型)	定員 30 人未満の介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)です。	0.9	0.0
看護小規模多機能型居宅介護	利用者の状況に応じて、小規模な住居型の施設への「通い」、自宅に来てもらう「訪問」、施設に「泊る」サービスに加え、看護職員に自宅に来てもらう「訪問看護」を組み合わせたサービスが受けられます。	0.6	0.6

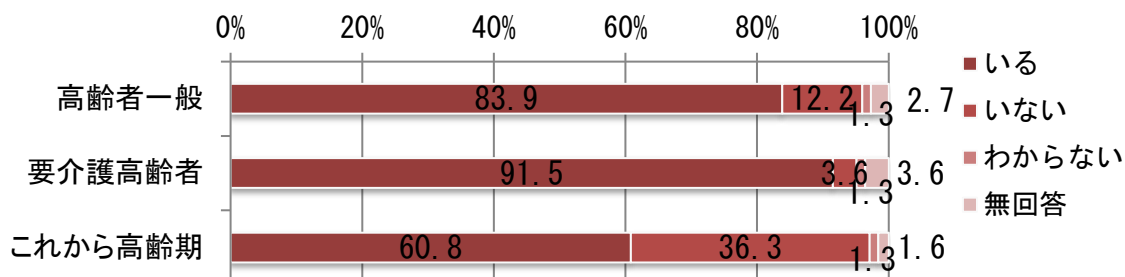
出典：厚生労働省「介護サービス情報公表システム（平成 28 年（2016 年）6 月時点）」、練馬区データ（平成 28 年（2016 年）9 月）、住民基本台帳人口平成 28 年（2016 年）1 月 1 日現在

(4) 高齢者の在宅医療等に関する調査結果

図表 32 : かかりつけ医等の状況

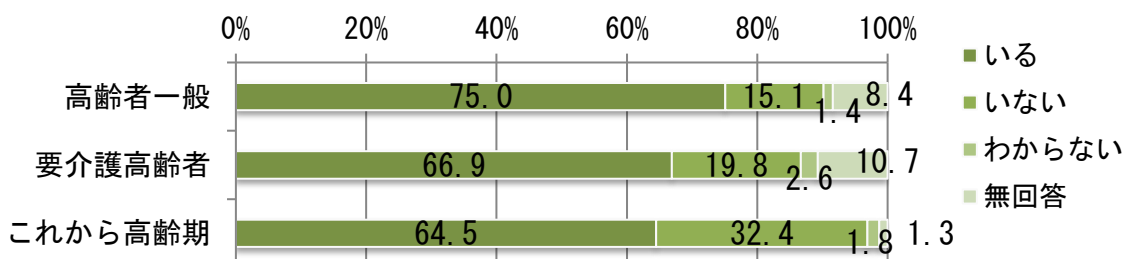
・ かかりつけ医の有無

「いる」は高齢者一般で83.9%、これから高齢期では60.8%であった。



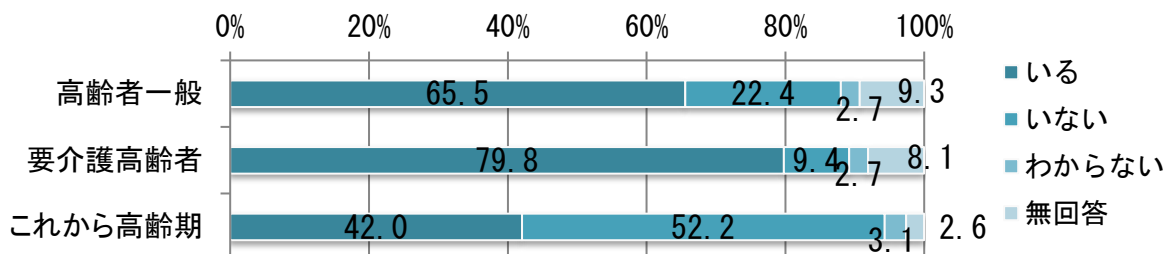
・ かかりつけ歯科医師の有無

「いる」は高齢者一般で75.0%、要介護高齢者が66.9%であった。



・ かかりつけ薬局の有無

「いる」は高齢者一般で65.5%、要介護高齢者が79.8%であった。



※高齢者一般…介護保険の認定を受けていない65歳以上の方

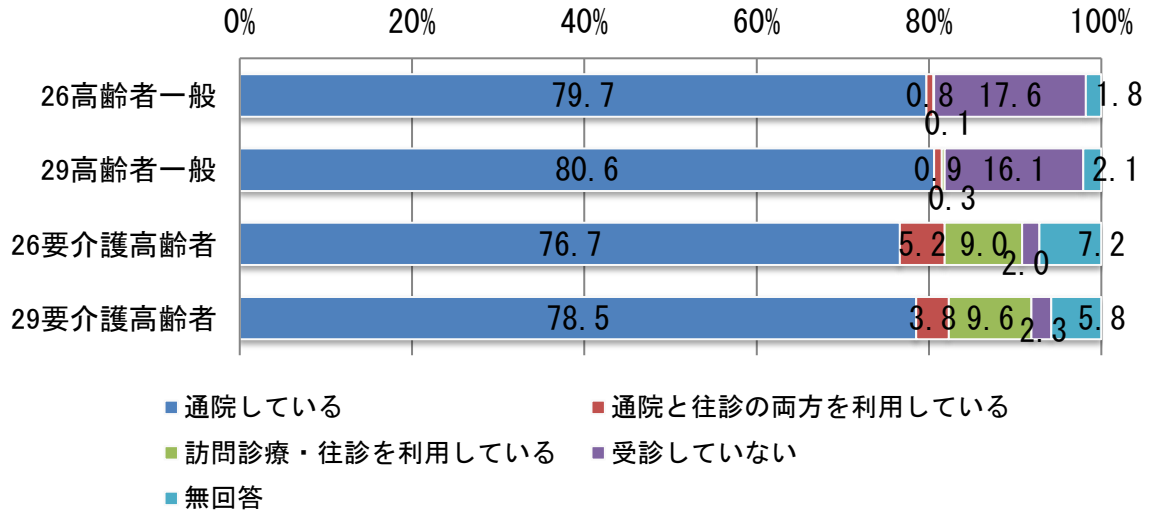
要介護高齢者…介護保険の認定を受けている65歳以上の方

これから高齢期…介護保険の認定を受けていない55～64歳の方

出典：練馬区「高齢者基礎調査報告書（速報）（平成29年（2017年）3月）」

図表 33 : 医療の受診形態

前回調査（平成 26 年（2014 年））に比べ、要介護高齢者の訪問診療・往診を利用しているが 0.6 ポイント増えている。

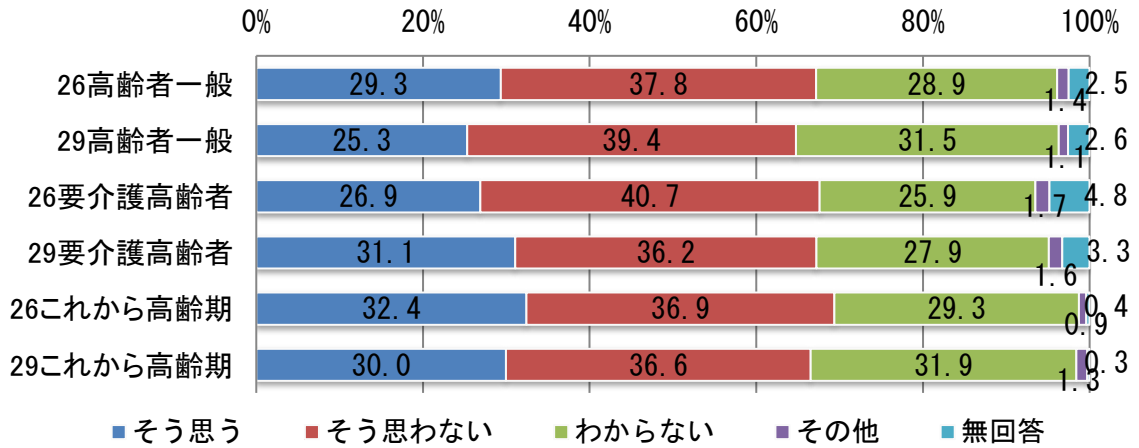


出典：練馬区「高齢者基礎調査報告書（速報）（平成 29 年（2017 年）3 月）」

図表 34 : 在宅療養の希望等

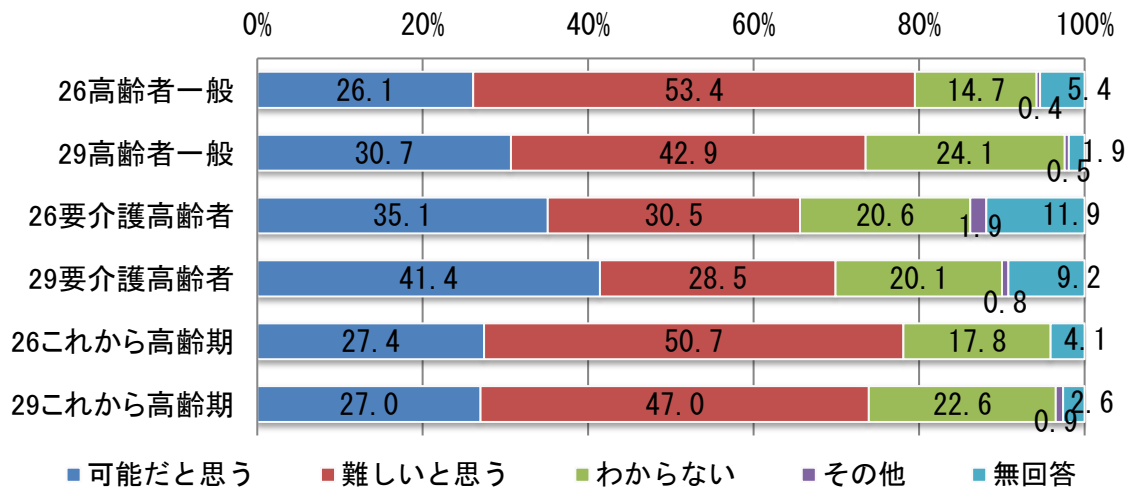
・ 在宅療養の希望

前回調査（平成 26 年（2014 年））に比べ在宅療養を希望する要介護高齢者が 4.2 ポイント増加している。



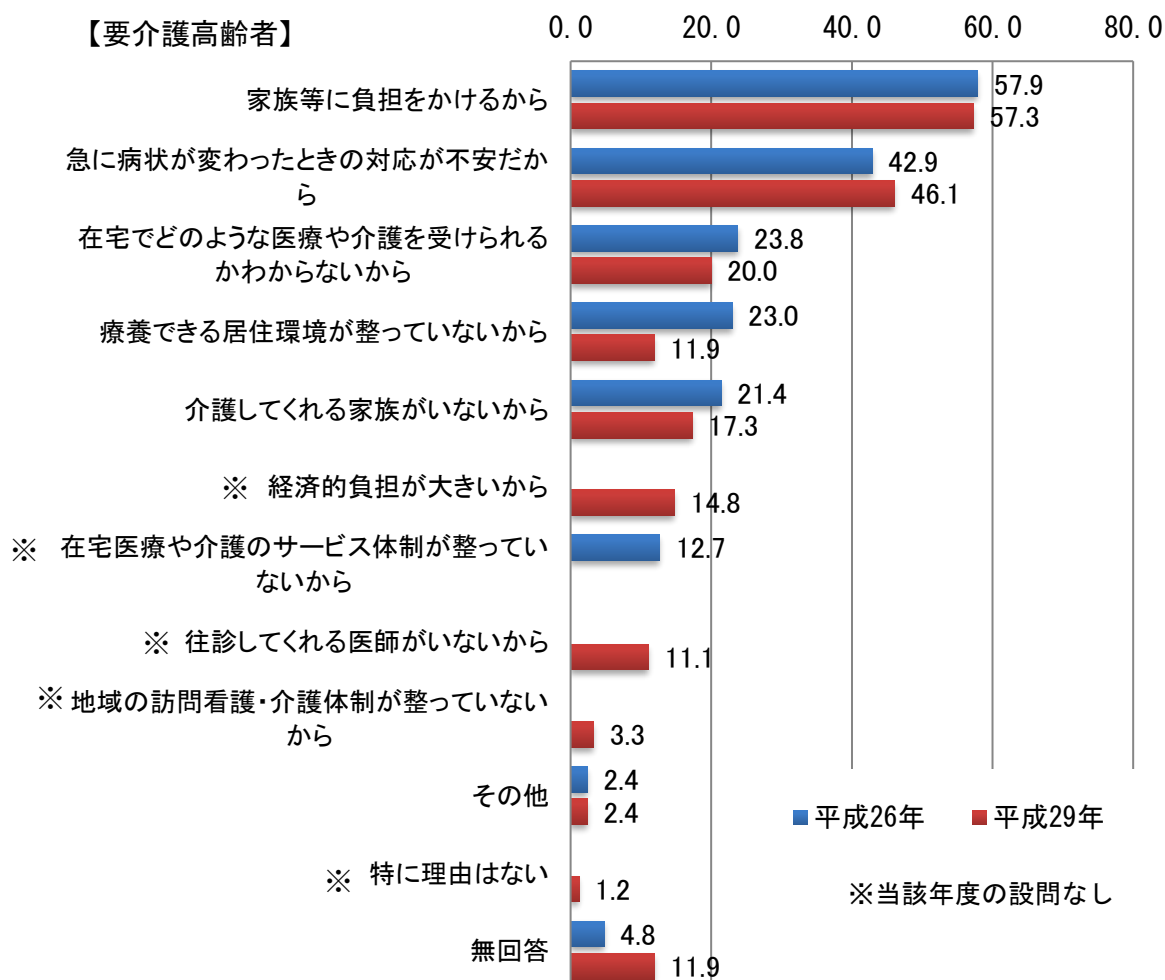
・ 在宅療養の実現可能性

在宅療養を希望すると回答した人の実現可能性については高齢者一般で 4.6 ポイント、要介護高齢者で 6.3 ポイント増加している。



・ 在宅療養が難しいと思う理由（複数回答）

在宅療養を希望しない理由として、「家族への負担」が最も多く、次いで「急変時の対応への不安」であった。また、今回調査で新設した「経済的負担感」、「訪問診療医がない」が1割を超えていた。



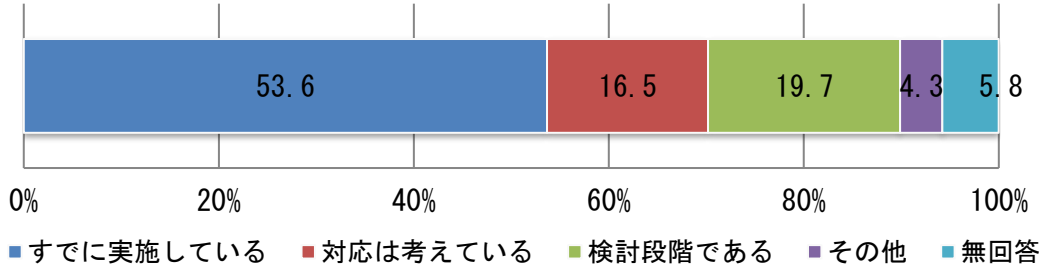
出典：練馬区「高齢者基礎調査報告書（速報）（平成29年3月）」

図表 35：介護サービス事業者調査

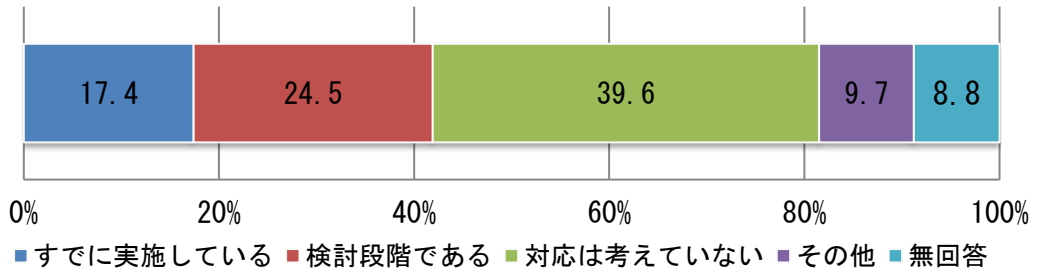
・ターミナルケアへの対応等

ターミナルのケアへの対応は 53.6%がすでに実施している。たん吸引等は 39.6%の事業者が対応は考えていないと回答している。

・ターミナルケアへの対応



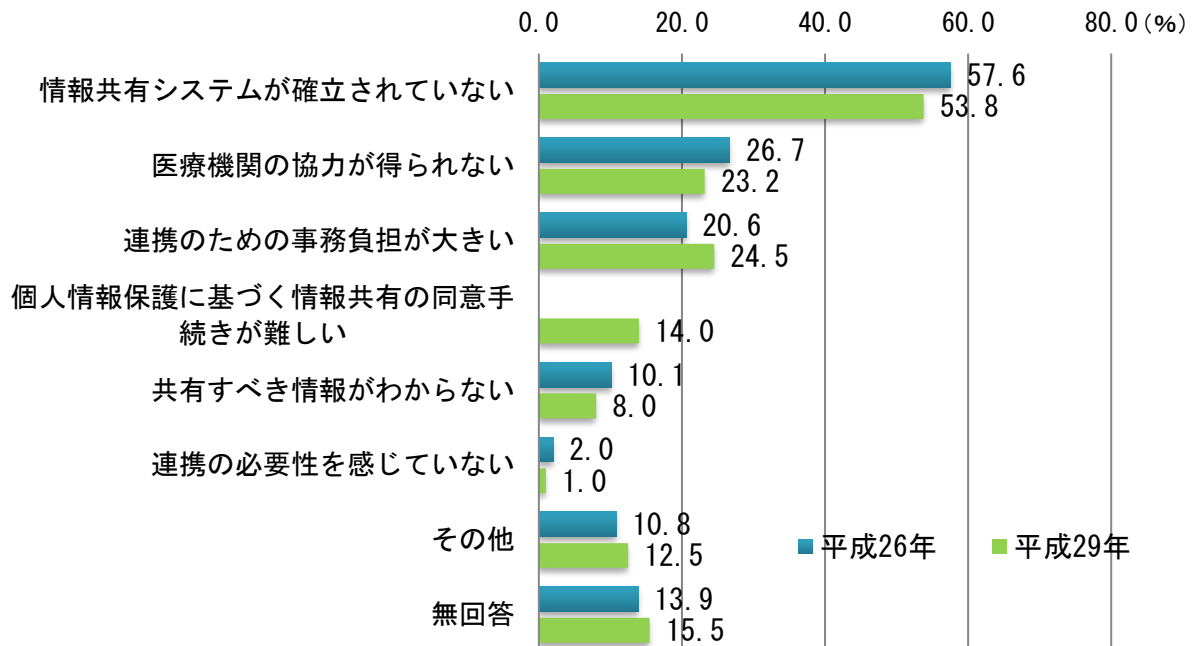
・介護職員によるたんの吸引等医療的ケアへの対応



・医療機関との連携

・医療機関と連携を進める上での課題（複数回答）

半数の事業者が情報共有システムの確立が必要と答えているが、2割以上の事業者が連携のための事務に負担を感じている。



出典：練馬区「高齢者基礎調査報告書（速報）（平成 29 年（2017 年）3 月）」

(5) 区における在宅医療・介護連携推進事業の状況

図表 36：区における在宅医療・介護連携推進事業について

- 1 地域の医療・介護の支援の把握
 - (1) 医療と介護の情報サイトの開設 (平成 29 年 1 月～)
 - (2) 介護サービス事業者ガイドブック (ハートページ) の発行 (各年)
 - (3) 練馬区内医療機関名簿の発行 (各年)
- 2 在宅医療・介護連携の課題抽出と対応策の検討
 - (1) 練馬区在宅療養推進協議会、在宅療養専門部会、認知症専門部会
(平成 25 年度～)
- 3 切れ目のない在宅療養と在宅介護の提供体制の構築推進
 - (1) 後方支援病床の確保 (平成 26 年度～)
 - (2) 退院連携推進事業 (退院支援の課題抽出) の実施 (平成 28 年度～)
- 4 医療・介護関係者の情報共有の支援
 - (1) 医療・介護連携シートの配布 (平成 27 年 11 月～)
 - (2) ICTを活用した情報共有の試行 (平成 28 年度～)
- 5 在宅医療・介護連携に関する相談支援
 - (1) 医療と介護の相談窓口の設置 (平成 27 年度～)
 - (2) 医療・介護連携推進員の配置 (平成 27 年度～)
- 6 医療・介護関係者の研修
 - (1) 事例検討会・多職種交流会の開催 (平成 26 年度～)
 - (2) 訪問看護同行研修の開催 (平成 26 年度～)
 - (3) コーディネート能力向上研修の開催 (平成 26 年度～)
 - (4) 地域カンファレンス (平成 28 年度～)
- 7 地域住民への普及啓発
 - (1) 在宅療養講演会の開催 (平成 26 年度～)
 - (2) 認知症講演会 (平成 26 年度～)
 - (3) 在宅療養ガイドブック「わが家で生きる」の発行 (平成 27 年度～)
 - (4) 認知症ガイドブックの発行 (平成 27 年度～)
- 8 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携
 - (1) 在宅療養の推進に関する二次保健医療圏における意見交換会
(平成 27 年度～)

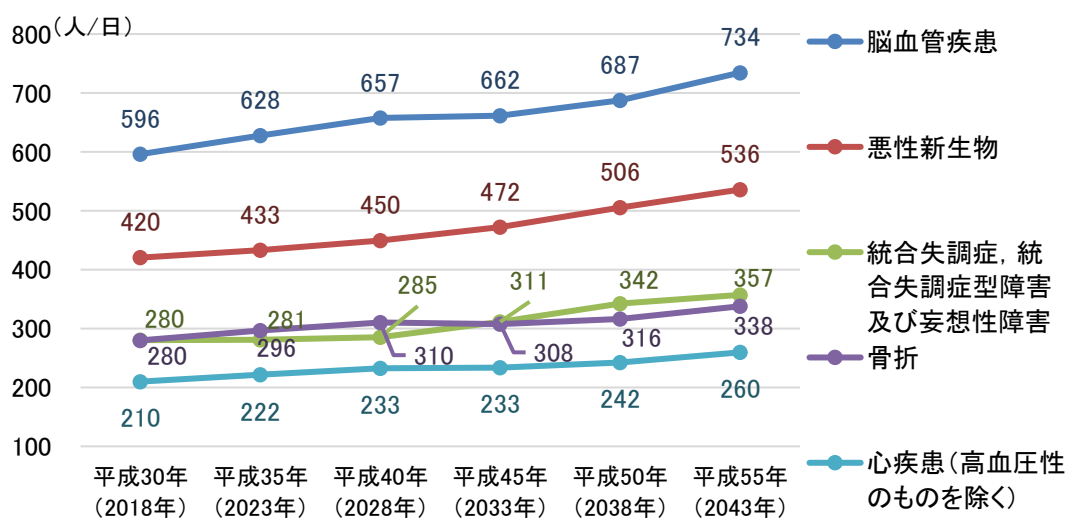
17 年齢階層別入院患者数の推計

(1) 上位 5 疾患の年齢階層別・疾患別入院患者数の推計

ア 65 歳以上（高齢者全般）

・ 高齢者の入院患者数の多い上位 5 疾患は、「脳血管疾患¹⁷」「悪性新生物¹⁸」「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害¹⁹」「骨折²⁰」「心疾患（高血圧性のものを除く）²¹」であり、5 疾病で約 5 割を占めます。高齢者人口の増加に伴い、入院患者数も増加していきます。

図表 37：65 歳以上の入院患者推計（患者住所地ベース）



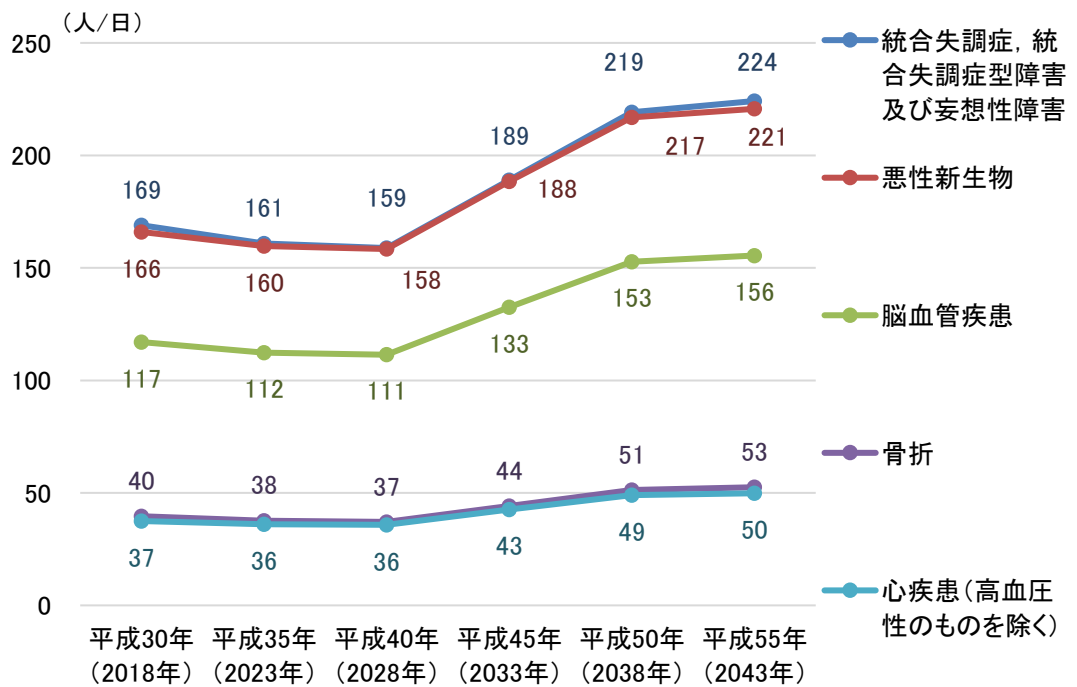
出典：厚生労働省「平成 26 年（2014 年）患者調査」、練馬区企画課資料（平成 30 年（2018 年）1 月推計）を参考に練馬区医療環境整備課推計

- ¹⁷ 脳血管疾患…脳の血管の異常によって脳細胞が障害を受ける病気の総称。主なものには、脳卒中がある。脳卒中は特に後遺症が残りやすい疾患で、その多くは脳梗塞といわれており、脳の血管内に血栓（血のかたまり）が詰まることで引き起こされる病気。
- ¹⁸ 悪性新生物…細胞が何らかの原因で変異して増殖を続け、周囲の正常な組織を破壊する腫瘍。がんや肉腫などがこれに入る。
- ¹⁹ 統合失調症、統合失調症障害及び妄想性障害…幻覚や妄想という症状が特徴的な精神疾患。
- ²⁰ 骨折…直接あるいは間接的に加わった強い外力により、骨のつながりが途絶えてしまう状態。
- ²¹ 心疾患（高血圧性のものを除く）…心臓に起こる病気の総称。心疾患の大部分を占めているのが「虚血性心疾患」。虚血性心疾患は、心臓の筋肉（心筋という）へ血液を送る冠動脈の血流が悪くなり、心筋が酸素不足・栄養不足に陥るものをいう。この中で最も致命的なものが「急性心筋梗塞」。急性心筋梗塞は、冠動脈に血栓（血のかたまり）が詰まることで引き起こされる病気。概ね 30 分以内の治療（カテーテル治療等）開始が一つの目安となっており、一刻も早く CCU（冠疾患集中治療室：心臓疾患の患者を専門的に管理する治療室）を有する病院で治療を受けることが重要。

イ 65～74 歳（前期高齢者）

- 65～74 歳（前期高齢者）の入院患者数の多い上位 5 疾患は、「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」「悪性新生物」「脳血管疾患」「骨折」「心疾患（高血圧性のものを除く）」です。団塊の世代が後期高齢者に移行することに伴い、平成 30 年（2018 年）代後半まで患者数は減少しますが、その後増加に転じると見込まれます。

図表 38：65～74 歳の入院患者数の推計（患者住所地ベース）

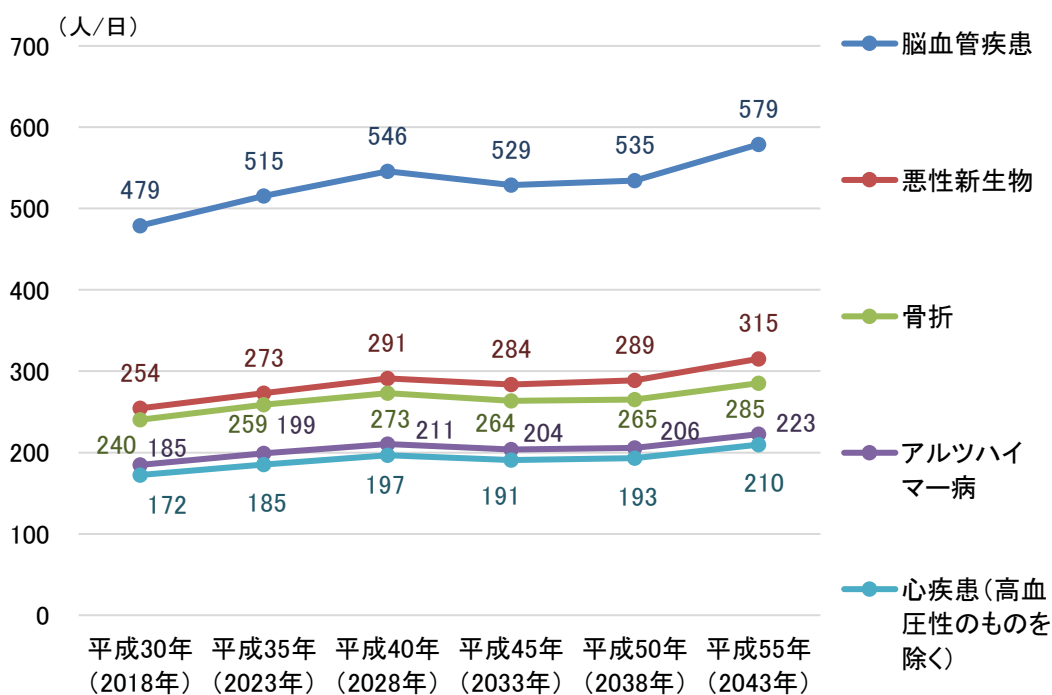


出典：厚生労働省「平成 26 年（2014 年）患者調査」、練馬区企画課資料（平成 30 年（2018 年）1 月推計）を参考に練馬区医療環境整備課推計

ウ 75 歳以上（後期高齢者）

- 75 歳以上（後期高齢者）の入院患者数の多い上位 5 疾患は、「脳血管疾患」「悪性新生物」「骨折」「アルツハイマー病²²」「心疾患（高血圧性のものを除く）」です。前期高齢者では 3 位であった脳血管疾患が 1 位になっています。また、アルツハイマー病が 4 位となっています。

図表 39：75 歳以上の入院患者数の推計（患者住所地ベース）



出典：厚生労働省「平成 26 年（2014 年）患者調査」、練馬区企画課資料（平成 30 年（2018 年）1 月推計）を参考に練馬区医療環境整備課推計

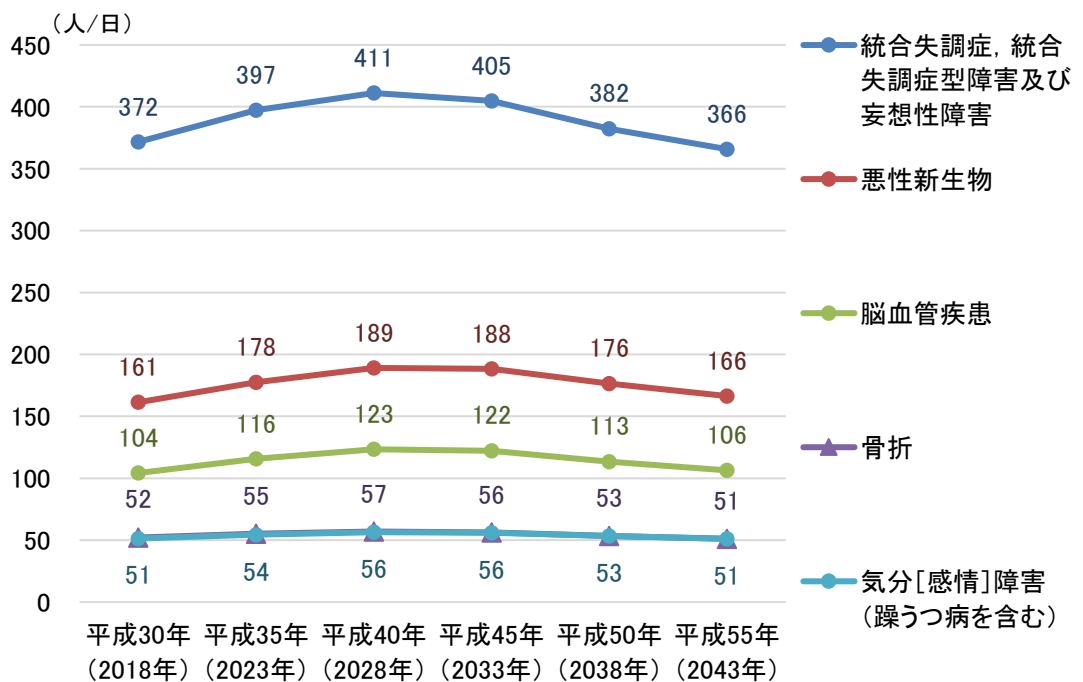
※図表 37 65 歳以上の入院患者数と、図表 38 65～74 歳の入院患者数と図表 39 75 歳以上の入院患者数の合計は、小数点以下の処理の関係で数値が合致しない場合がある。

²² アルツハイマー病…認知機能の低下や人格の変化が主な症状である認知症の一種。ほとんどのアルツハイマー病の患者は、60 歳以降に初めて症状が現れる。

エ 15～64 歳

・ 15～64 歳の入院患者数の多い上位 5 疾患は、「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」「悪性新生物」「脳血管疾患」「骨折」「気分 [感情] 障害 (躁うつ病を含む) ²³」であり、5 疾病で約 5 割を占めます。いずれも、平成 40 年 (2028 年) まで微増し、以降減少に転じます。平成 55 年 (2043 年) には平成 30 年 (2018 年) と同程度と推計されます。

図表 40 : 15～64 歳の入院患者数の推計 (患者住所地ベース)



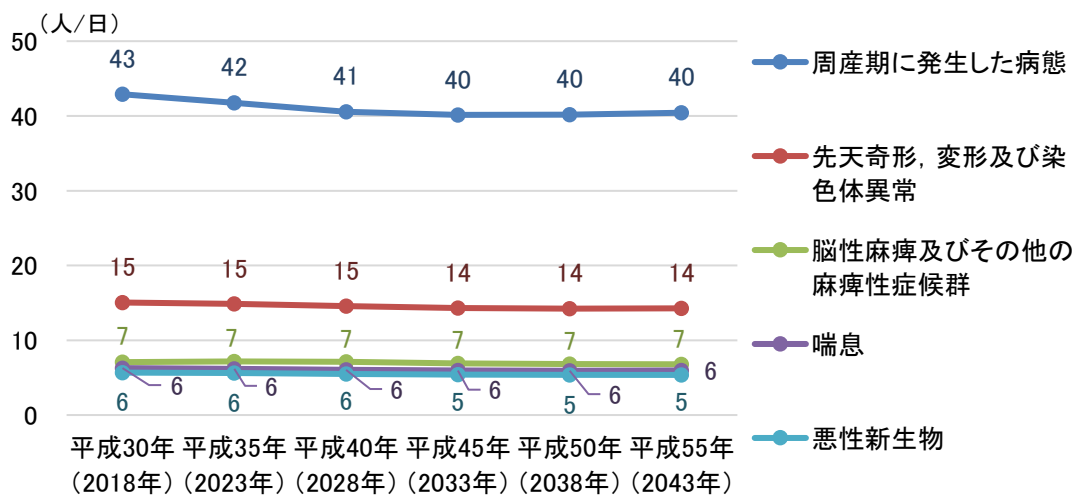
出典：厚生労働省「平成 26 年 (2014 年) 患者調査」、練馬区企画課資料 (平成 30 年 (2018 年) 1 月推計) を参考に練馬区医療環境整備課推計

²³ 気分 [感情] 障害 (躁うつ病を含む) …感情や意欲の面で極端な上昇や落ち込みが現れる精神疾患。気分障害はうつ病のみを繰り返すものと、躁状態とうつ状態を繰り返す躁うつ病があり、自殺リスクが高いことが特徴。

オ 0～14 歳

- ・ 0～14 歳の入院患者数の多い上位 5 疾患は、「周産期に発生した病態²⁴」「先天奇形、変形及び染色体異常²⁵」「脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群²⁶」「喘息²⁷」「悪性新生物」であり、5 疾病で約 5 割を占めます。いずれも減少し横ばい傾向になると見込まれます。

図表 41：0～14 歳の入院患者数の推計（患者住所地ベース）



出典：厚生労働省「平成 26 年（2014 年）患者調査」、練馬区企画課資料（平成 30 年（2018 年）1 月推計）を参考に練馬区医療環境整備課推計

²⁴ 周産期に発生した病態…早産による低出生体重児や分娩時の新生児仮死などが発生している状態。

²⁵ 先天奇形、変形及び染色体異常…先天的に確認される異常の 1 つ。先天異常は形態的なものや内分泌系、神経、知能の発達など様々なものがある。疾患名では、無脳症や二分脊椎症、ダウン症、口唇裂・口蓋裂、小眼症などが挙げられる。

²⁶ 脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群…受精後から生後 4 週以内に何らかの原因で脳に損傷を受けることで引き起こされる運動機能の障害をさす症候群。

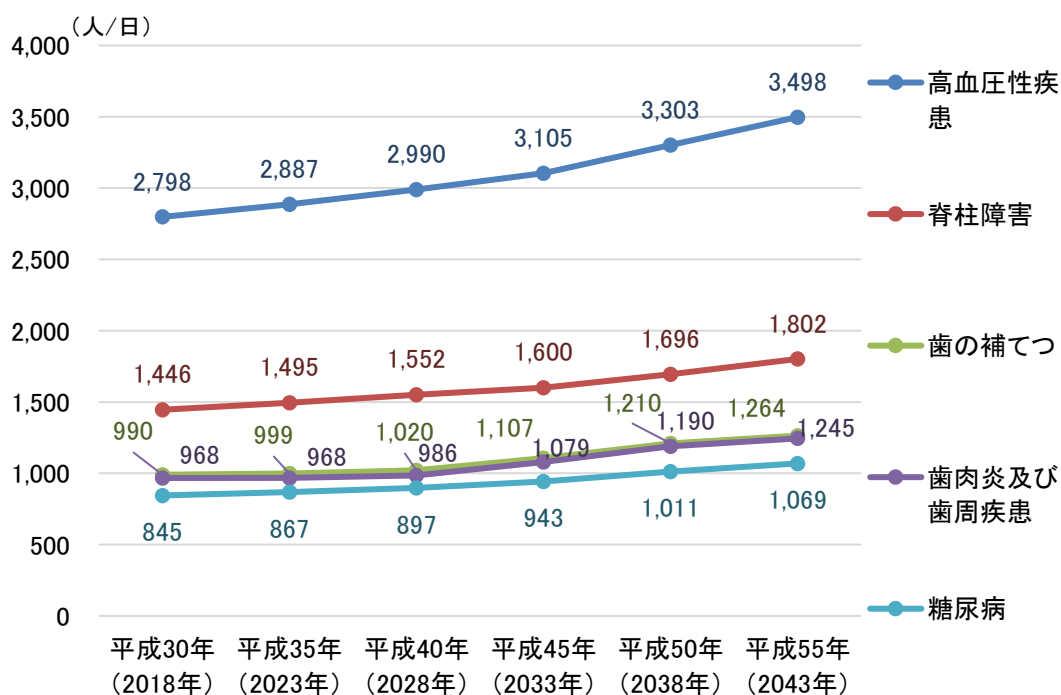
²⁷ 喘息…気管支が急激に収縮し、呼吸困難の発作を繰り返す病気。特に小児の喘息は、ハウスダストやダニ、花粉のアレルギーで起こることが多いといわれている。

(2) 上位 5 疾患の年齢階層別・疾患別外来患者数の推計

ア 65 歳以上（高齢者全般）

・高齢者の外来患者数の多い上位 5 疾患は、「高血圧性疾患²⁸」「脊柱障害²⁹」「歯の補てつ³⁰」「歯肉炎及び歯周疾患³¹」「糖尿病³²」です。高齢化の進展に伴って、患者数は増加します。特に高血圧性疾患の患者数は約 700 人増加します。

図表 42：65 歳以上の外来患者数の推計（患者住所地ベース）



出典：厚生労働省「平成 26 年（2014 年）患者調査」、練馬区企画課資料（平成 30 年（2018 年）1 月推計）を参考に練馬区医療環境整備課推計

²⁸ 高血圧性疾患…高血圧が原因で心臓に障害の起きた状態。

²⁹ 脊柱障害…何らかの原因で脊柱が曲がったり、脊柱管内のスペースがつぶれたりすることで、しびれや麻痺等が発生する障害。

³⁰ 歯の補てつ…見た目やかみ合わせを被せ物（クラウン）や入れ歯等人工の歯で補う治療法。

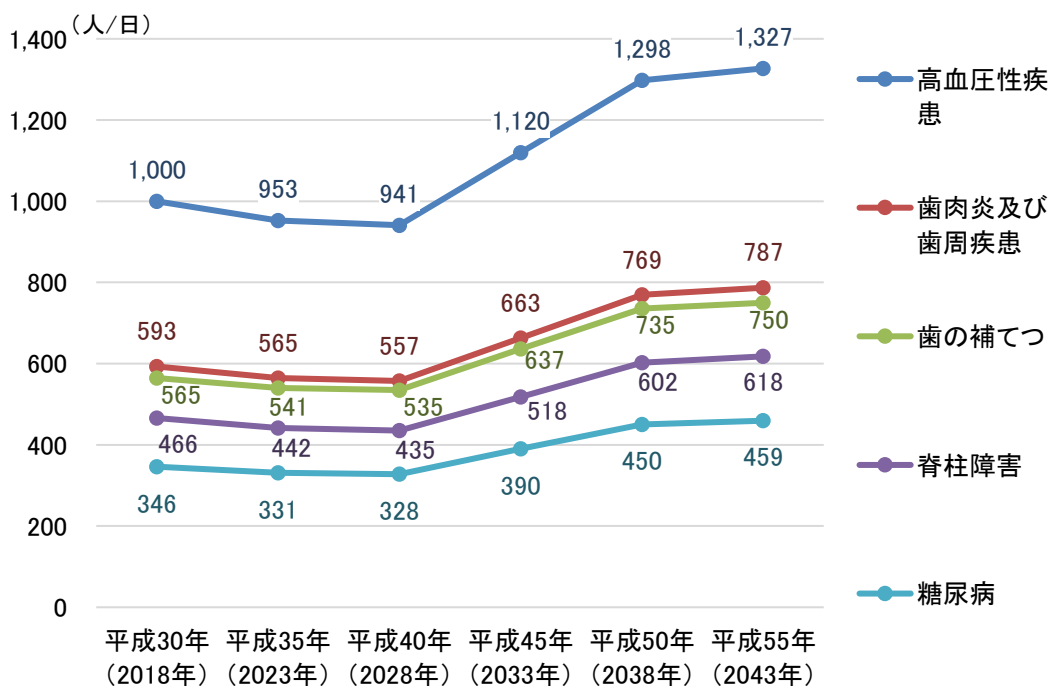
³¹ 歯肉炎及び歯周疾患…歯肉炎は、歯肉が赤くなる、炎症や腫れ、歯肉出血などが起きた状態。歯周疾患は、歯肉、歯槽骨（歯を支えている骨）などの歯周組織におこる病気の総称。

³² 糖尿病…糖尿病は、国民の 5 人に 1 人以上が糖尿病患者または予備群といわれるほど患者数が多い疾病。適切な治療をせずに重症化すると、糖尿病性昏睡等の急性合併症や大血管の動脈硬化による虚血性心疾患・脳梗塞、神経や目や腎臓などにさまざまな障害を起こす慢性合併症、歯周病等、全身におよぶ合併症を引き起こす。

イ 65～74 歳（前期高齢者）

・65～74 歳（前期高齢者）の外来患者数の多い上位 5 疾患は、「高血圧性疾患」「歯肉炎及び歯周疾患」「歯の補てつ」「脊柱障害」「糖尿病」です。団塊の世代が後期高齢者に移行することに伴い、平成 30 年（2018 年）～40 年（2028 年）にかけて患者数は減少しますが、その後増加に転じると見込まれます。

図表 43：65～74 歳の外来患者数の推計（患者住所地ベース）

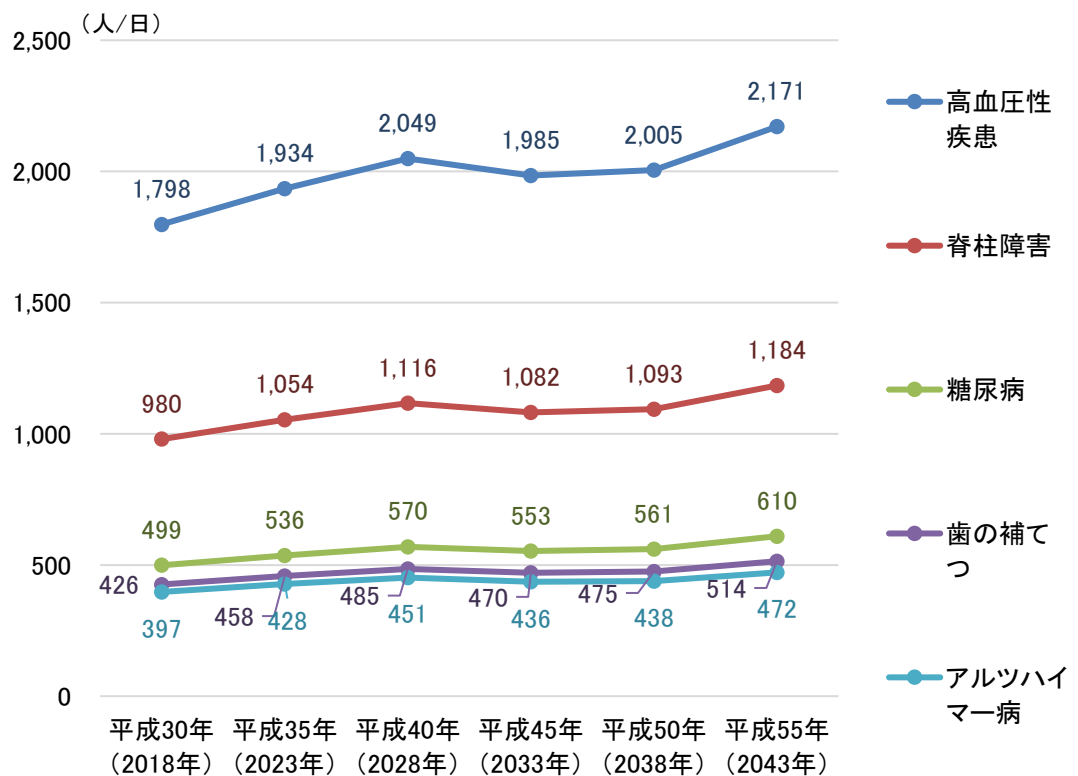


出典：厚生労働省「平成 26 年（2014 年）患者調査」、練馬区企画課資料（平成 30 年（2018 年）1 月推計）を参考に練馬区医療環境整備課推計

ウ 75 歳以上（後期高齢者）

- 75 歳以上（後期高齢者）の外来患者数の多い上位 5 疾患は、「高血圧性疾患」「脊柱障害」「糖尿病」「歯の補てつ」「アルツハイマー病」です。前期高齢者より患者数が多く、増加傾向が続きます。また、入院患者の場合と同様、前期高齢者にはなかったアルツハイマー病が入っています。

図表 44：75 歳以上の外来患者数の推計（患者住所地ベース）



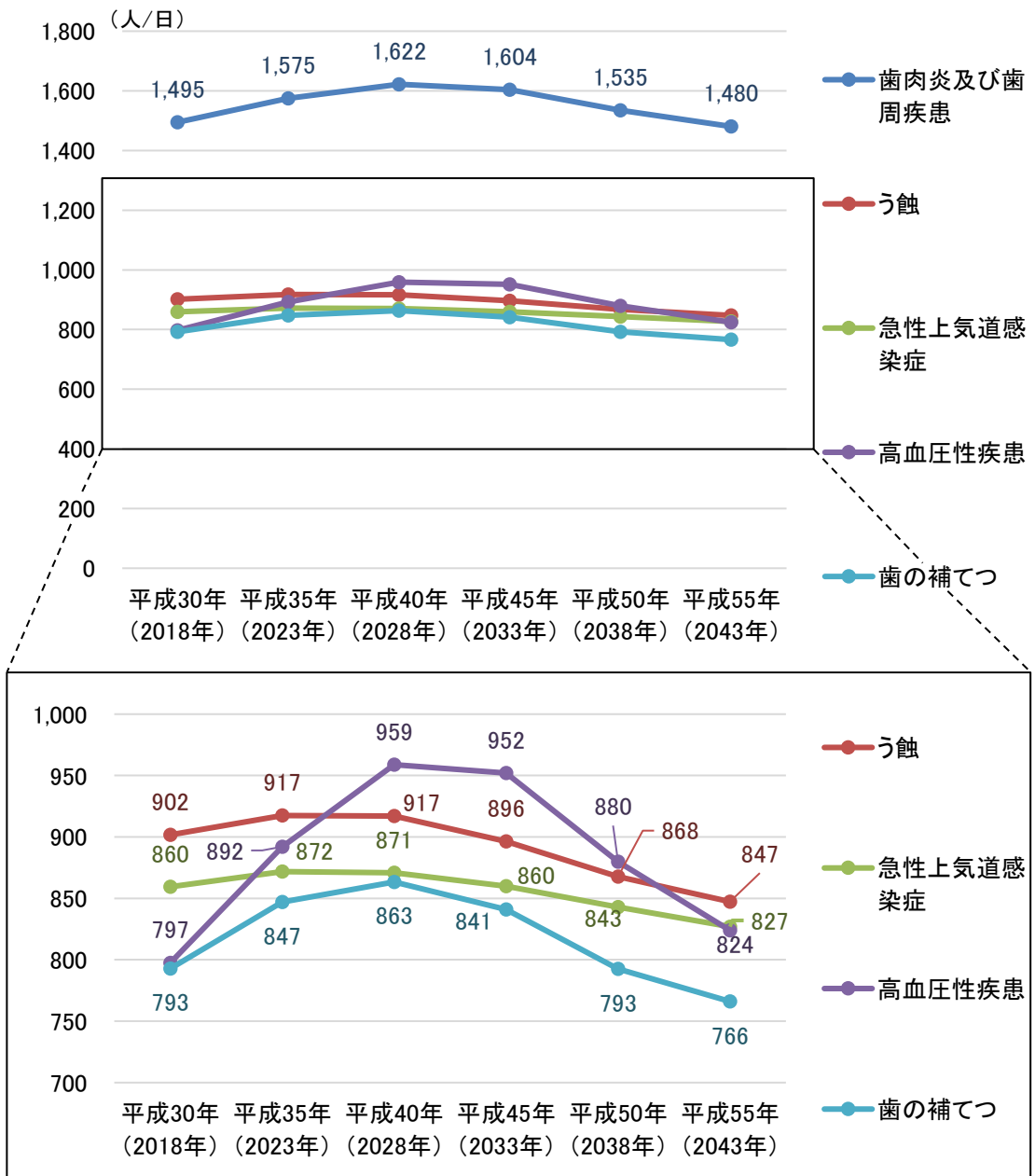
出典：厚生労働省「平成 26 年（2014 年）患者調査」、練馬区企画課資料（平成 30 年（2018 年）1 月推計）を参考に練馬区医療環境整備課推計

※図表 42 65 歳以上の外来患者数と、図表 43 65～74 歳の外来患者数と図表 44 75 歳以上の外来患者数の合計は、小数点以下の処理の関係で数値が合致しない場合がある。

エ 15～64 歳

・15～64歳の外来患者数の多い上位5疾患は、「歯肉炎及び歯周疾患」「う蝕³³」「急性上気道感染症³⁴」「高血圧性疾患」「歯の補てつ」です。平成30年（2018年）代前半から40年（2028年）にかけて増加し、その後減少すると見込まれます。

図表 45：15～64歳の外来患者数の推計（患者住所地ベース）



出典：厚生労働省「平成26年（2014年）患者調査」、練馬区企画課資料（平成30年（2018年）1月推計）を参考に練馬区医療環境整備課推計

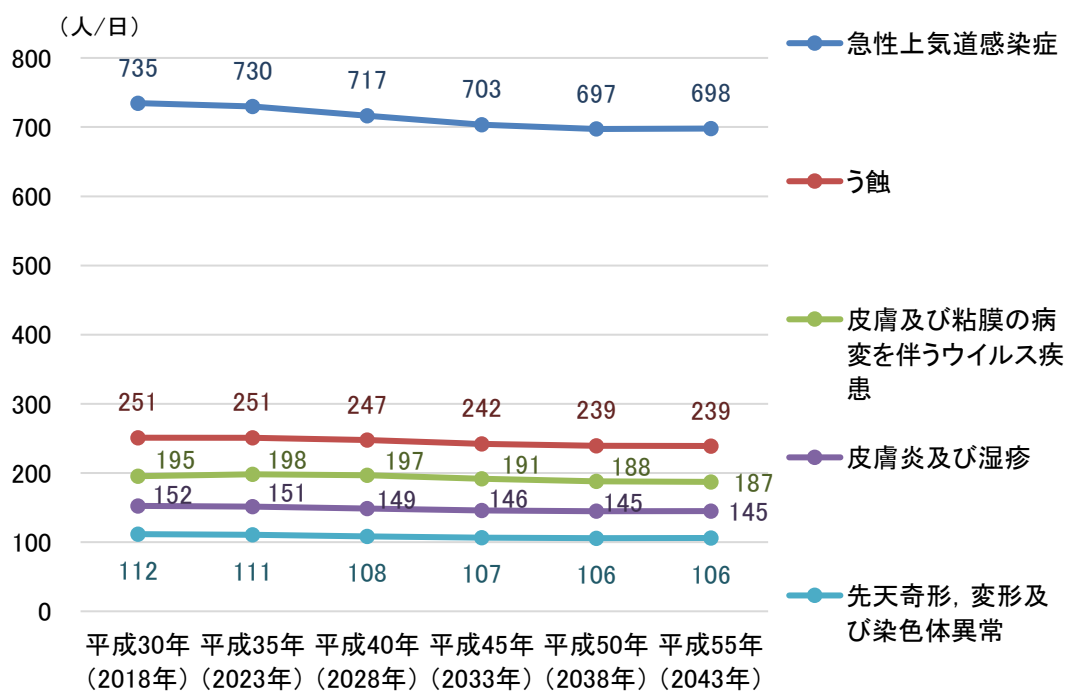
³³ う蝕…口腔内の細菌が糖質から作った酸によって、歯質が脱灰されて起こる、歯の実質欠損のこと（虫歯）。

³⁴ 急性上気道感染症…鼻やのど（上気道）が炎症を起こしている状態の総称。

オ 0～14 歳

・0～14歳の外来患者数の多い上位5疾患は、「急性上気道感染症」「う蝕」「皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス疾患³⁵」「皮膚炎及び湿疹³⁶」「先天奇形、変形及び染色体異常」です。年少人口の減少に伴い、患者数も減少し横ばい傾向となります。

図表 46：0～14歳の外来患者数の推計（患者住所地ベース）



出典：厚生労働省「平成26年（2014年）患者調査」、練馬区企画課資料（平成30年（2018年）1月推計）を参考に練馬区医療環境整備課推計

³⁵ 皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス疾患…小児患者の手足口病や原因不明の発疹が主な疾患。

³⁶ 皮膚炎及び湿疹…皮膚表面に起こる炎症のこと。

図表 47：主要疾病に係る医療提供体制

区分		施設名	
		練馬区	二次医療圏（豊島区・北区・板橋区）
がん医療	がん診療連携拠点病院	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本大学医学部附属板橋病院 ・ 帝京大学医学部附属病院
	東京都がん診療連携拠点病院	<ul style="list-style-type: none"> ・ 順天堂大学医学部附属練馬病院 	—
	化学療法 外来化学療法加算 1・2 取得医療機関数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関町病院 ・ 大泉生協病院 ・ 順天堂大学医学部附属練馬病院 ・ 練馬総合病院 ・ 練馬光が丘病院 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東京都立大塚病院 ・ 大塚北口診療所 ・ 白報会王子病院 ・ 赤羽中央総合病院 ・ 東京北医療センター ・ 明理会中央総合病院 ・ 花と森の東京病院 ・ 北部セントラル病院 ・ 日本大学医学部附属板橋病院 ・ 小豆沢病院 ・ 板橋中央総合病院 ・ 帝京大学医学部附属病院 ・ 板橋区医師会病院 ・ 新板橋クリニック ・ 東京都健康長寿医療センター ・ 東京都保健医療公社 豊島病院 ・ 高島平中央総合病院
	高エネルギー放射線治療	<ul style="list-style-type: none"> ・ 順天堂大学医学部附属練馬病院 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東京都立大塚病院 ・ 日本大学医学部附属板橋病院 ・ 板橋中央総合病院 ・ 帝京大学医学部附属病院 ・ 東京都健康長寿医療センター ・ 豊島病院
	強度変調放射線治療（IMRT）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 順天堂大学医学部附属練馬病院 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本大学医学部附属板橋病院 ・ 板橋中央総合病院 ・ 帝京大学医学部附属病院
	定位放射線治療	<ul style="list-style-type: none"> ・ 順天堂大学医学部附属練馬病院 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本大学医学部附属板橋病院 ・ 板橋中央総合病院 ・ 帝京大学医学部附属病院 ・ 東京都健康長寿医療センター
	緩和ケア病床	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ 王子生協病院（25床） ・ 東京都健康長寿医療センター（20床） ・ 豊島病院（20床）
脳卒中	東京都脳卒中急性期医療機関	<ul style="list-style-type: none"> ・ 順天堂大学医学部附属練馬病院 ・ 田中脳神経外科病院 ・ 練馬光が丘病院 ・ 練馬総合病院 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東京都立大塚病院 ・ 長汐病院 ・ 東京北医療センター ・ 明理会中央総合病院 ・ 小豆沢病院 ・ 板橋区医師会病院 ・ 板橋中央総合病院 ・ 金子病院 ・ 小林病院 ・ 帝京大学医学部附属病院 ・ 東京都健康長寿医療センター ・ 常盤台外科病院 ・ 豊島病院 ・ 日本大学医学部附属板橋病院 ・ 安田病院 ・ 高島平中央総合病院

区分	施設名	
	練馬区	二次医療圏（豊島区・北区・板橋区）
脳卒中对応医療機関 （回復期・維持期）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 桜台病院 ・ 東京聖徳病院 ・ 大泉生協病院 ・ 慈雲堂病院 ・ 関町病院 ・ 島村記念病院 ・ 東大泉病院 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合病院一心病院 ・ 東京都立大塚病院 ・ 池袋病院 ・ 山川病院 ・ 高田馬場病院 ・ 長汐病院 ・ 豊島中央病院 ・ 関野病院 ・ 岡本病院 ・ 山口病院 ・ 要町病院 ・ 東京都立北療育医療センター ・ 神谷病院 ・ 八木病院 ・ 王子生協病院 ・ 岸病院 ・ 白報会王子病院 ・ 大橋病院 ・ 赤羽中央総合病院 ・ 赤羽病院 ・ 浮間中央病院 ・ 赤羽岩淵病院 ・ 北部セントラル病院 ・ 花と森の東京病院 ・ 滝野川病院 ・ 富士見病院 ・ 木村牧角病院 ・ 田崎病院 ・ 飯沼病院 ・ 金子病院 ・ 慈誠会徳丸リハビリテーション病院 ・ 慈誠会若木原病院 ・ 小林病院 ・ 高島平中央総合病院 ・ 竹川病院 ・ 小豆沢病院 ・ 舟渡病院 ・ 尾泉病院 ・ 慈誠会前野病院 ・ 常盤台病院 ・ 誠志会病院
t-PA 治療	<ul style="list-style-type: none"> ・ 順天堂大学医学部附属練馬病院 ・ 練馬光が丘病院 ・ 練馬総合病院 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東京都立大塚病院 ・ 東京北医療センター ・ 明理会中央総合病院 ・ 板橋中央総合病院 ・ 帝京大学医学部附属病院 ・ 東京都健康長寿医療センター ・ 常盤台外科病院 ・ 豊島病院 ・ 日本大学医学部附属板橋病院 ・ 高島平中央総合病院
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ～Ⅲ）算定医療機関 （※）「回復期リハビリテーション病棟」を有する病院	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大角医院 ・ 辻内科循環器科歯科クリニック ・ 北町整形外科医院 ・ 池内整形外科 ・ 大川整形外科 ・ 錦クリニック 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区西北部：56 医療機関（回復期リハビリテーション病棟を有するのは 14 病院）

区分	施設名		
	練馬区	二次医療圏（豊島区・北区・板橋区）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・大泉学園ふれあいクリニック ・まつだ整形外科・リウマチ科 ・関町病院 ・大泉生協病院 ・順天堂大学医学部附属練馬病院 ・練馬総合病院 ・島村記念病院 ・練馬光が丘病院 ・練馬駅リハビリテーション病院（※） 		
急性 心筋 梗塞	CCU ネットワーク加盟 医療施設	<ul style="list-style-type: none"> ・順天堂大学医学部附属練馬病院 ・練馬光が丘病院 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京北医療センター ・明理会中央総合病院 ・日本大学医学部附属板橋病院 ・帝京大学医学部附属病院 ・板橋中央総合病院 ・東京都保健医療公社豊島病院 ・東京都健康長寿医療センター
	心大血管疾患リハビリ テーション料（Ⅰ、 Ⅱ）算定医療機関	<ul style="list-style-type: none"> ・辻内科循環器科歯科クリニック ・練馬光が丘病院 	<ul style="list-style-type: none"> ・関野病院 ・浮間中央病院 ・東京北医療センター ・明理会中央総合病院 ・日本大学医学部附属板橋病院 ・板橋中央総合病院 ・帝京大学医学部附属病院 ・東京都健康長寿医療センター ・豊島病院 ・イムス板橋リハビリテーション病院
糖尿 病医 療	糖尿病地域連携の登 録医療機関	・100 医療機関、82 歯科医療機関が登録	・複数の医療機関が登録
精神	精神科二次救急指定 医療機関 （平成 28 年（2016 年） 3 月 31 日現在）	<ul style="list-style-type: none"> ・陽和病院 ・大泉病院 ・慈雲堂病院 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京武蔵野病院 ・成増厚生病院 ・飯沼病院

出典：がん診療連携拠点病院；厚生労働省ホームページ「がん診療連携拠点病院等の一覧表（平成 28 年（2016 年）10 月 1 日現在）」
東京都がん診療連携拠点病院；東京都福祉保健局ホームページ「東京都がん診療連携拠点病院の情報の概要（平成 27 年（2015 年）9 月 1 日時点）」
外来化学療法加算 1・2 取得医療機関数；関東厚生局「平成 28 年（2016 年）9 月 1 日現在の届出」
高エネルギー放射線治療；関東厚生局「平成 28 年（2016 年）9 月 1 日現在の届出」
強度変調放射線治療（IMRT）；関東厚生局「平成 28 年（2016 年）9 月 1 日現在の届出」
定位放射線治療；関東厚生局「平成 28 年（2016 年）9 月 1 日現在の届出」
緩和ケア病床；東京都福祉保健局ホームページ「東京都における医療機能ごとの病床の状況（許可病床）（平成 27 年（2015 年）報告）」
東京都脳卒中急性期医療機関；東京都福祉保健局ホームページ「東京都脳卒中急性期医療機関リスト（平成 29 年（2017 年）1 月 1 日現在）」
脳卒中对応医療機関（回復期・維持期）；東京都福祉保健局ホームページ「脳卒中对応医療機関（回復期・維持期）（平成 28 年（2016 年）6 月現在）」
t-PA 治療；東京都福祉保健局ホームページ「東京都脳卒中急性期医療機関リスト（平成 29 年（2017 年）1 月 1 日現在）」
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ～Ⅲ）算定医療機関；関東厚生局「平成 28 年（2016 年）9 月 1 日現在の届出」
CCU ネットワーク加盟医療施設；東京都福祉保健局ホームページ「東京都 CCU ネットワーク参画施設一覧（平成 26 年（2014 年）4 月 1 日現在）」
心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ、Ⅱ）算定医療機関；関東厚生局「平成 28 年（2016 年）9

月 1 日現在の届出」

糖尿病地域連携の登録医療機関；東京都福祉保健局ホームページ「地域の「糖尿病地域連携の登録医療機関」(平成 28 年(2016 年)10 月現在)」

精神科二次救急指定医療機関；東京都福祉保健局ホームページ「精神科二次救急指定医療機関一覧(平成 28 年(2016 年)3 月 31 日現在)」

19 区と医療圏の小児救急医療の提供体制

・夜間や休日に対応している小児二次救急医療機関は、区内に2か所あります。区内に東京都こども救命センター³⁷の配置はなく、医療圏では、日本大学医学部附属板橋病院の1か所です。

図表 48：小児救急医療の提供体制

区分		施設名	
		練馬区	医療圏（豊島区・北区・板橋区）
小児救急医療	東京都こども救命センター	—	・日本大学医学部附属板橋病院
	夜間や休日に対応している東京都内の小児二次救急医療機関	・練馬光が丘病院 ・順天堂大学医学部附属練馬病院	・東京都立大塚病院 ・東京北医療センター ・日本大学医学部附属板橋病院 ・豊島病院 ・帝京大学医学部附属病院
	夜間や休日に対応している東京都内の小児初期救急医療機関	・練馬休日急患診療所（練馬区夜間救急こどもクリニック） ・石神井休日急患診療所 ・※練馬区は上記の他に「練馬区小児初期救急医療事業」を実施し、順天堂大学医学部附属練馬病院、練馬光が丘病院、島村記念病院に委託している	・豊島区池袋休日診療所 ・豊島（平日準夜間）こども救急 ・豊島区長崎休日診療所 ・北区休日診療所 ・東京北医療センター ・板橋区平日夜間応急こどもクリニック

練馬区の小児救急患者推移

(人)

医療機関	平成26年度	平成27年度	平成28年度
練馬区夜間救急こどもクリニック	4,511	4,305	4,073
練馬休日急患診療所	3,066	2,986	2,767
石神井休日急患診療所	4,295	3,996	3,934
順天堂大学医学部附属練馬病院	3,729	3,512	3,478
練馬光が丘病院	4,528	5,392	5,104
島村記念病院	520	501	264
計	20,649	20,692	19,620

出典：東京都こども救命センター：東京都福祉保健局ホームページ「三次救急医療（東京都こども救命センター）」

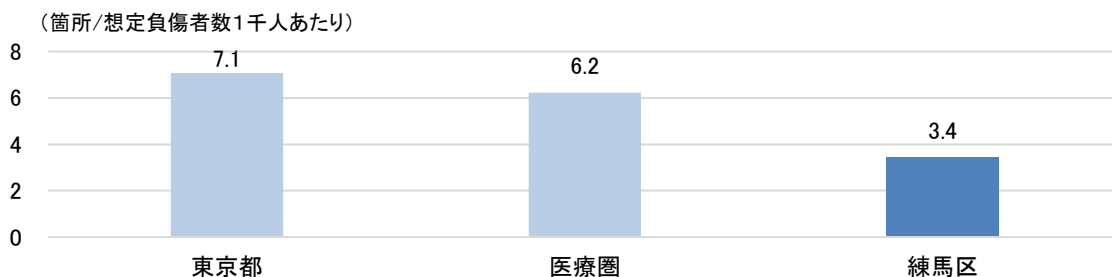
夜間や休日に対応している東京都内の小児二次救急医療機関：東京都福祉保健局ホームページ「二次救急医療（休日・全夜間診療事業（小児科）参画医療機関）（平成28年（2016年）4月現在）」

夜間や休日に対応している東京都内の小児初期救急医療機関：東京都福祉保健局ホームページ「夜間や休日に対応している東京都内の小児初期救急医療機関一覧（平成28年（2016年）7月現在）」

³⁷ 東京都こども救命センター…東京都において、他の医療機関では救命治療の継続が困難な小児重篤患者の受入要請があった場合に、患者を必ず受け入れ、迅速かつ適切な救命治療を行う施設。

- ・ 災害時の想定負傷者あたりの東京都災害拠点病院指定医療機関³⁸の数を、東京都・医療圏と比べると、区の医療機関は約半数の状況です。

図表 49：想定負傷者1千人あたりの東京都災害拠点病院指定医療機関数



図表 50：東京都災害拠点病院一覧

二次保健医療圏	施設名	病床数
区西北部	東京都立大塚病院	508
	東京北医療センター	280
	日本大学医学部附属板橋病院	1,037
	帝京大学医学部附属病院 (地域災害拠点中核病院)	1,154
	東京都健康長寿医療センター	550
	東京都保健医療公社豊島病院	470
	練馬光が丘病院	342
	順天堂大学医学部附属練馬病院	400

出典：東京都防災ホームページ「首都直下地震等による東京の被害想定（平成24年（2012年）4月18日公表）」東京都災害拠点病院：東京都福祉保健局ホームページ「東京都災害拠点病院（平成26年（2014年）9月15日）」

図表 51：多摩直下地震（M7.3） 冬5時、風速8m/秒時の想定負傷者数

	東京都	医療圏	練馬区
負傷者	114,658人	14,512人	5,389人
うち重傷者	11,319人	1,284人	585人

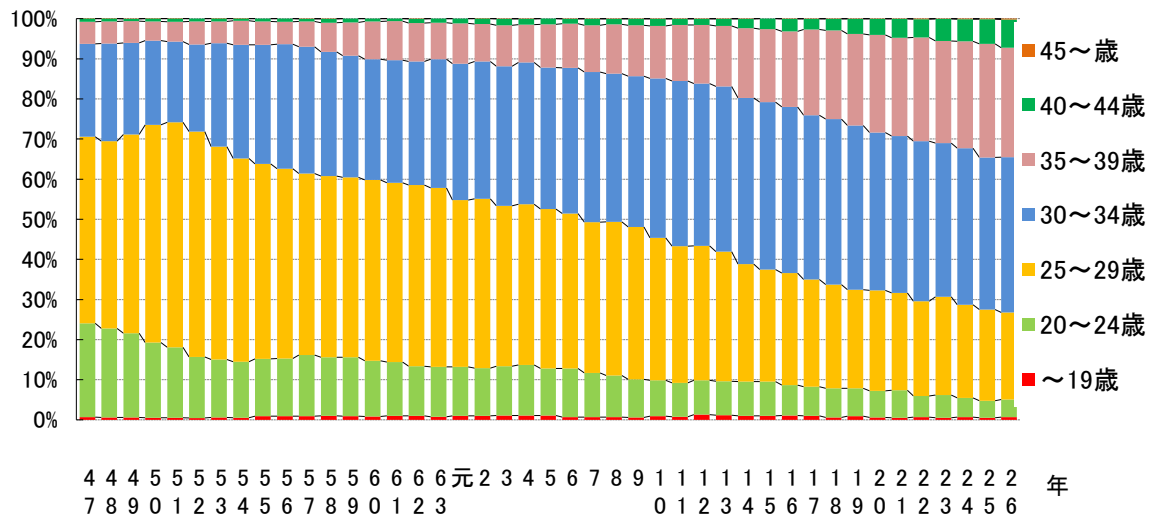
出典：東京都防災ホームページ「首都直下地震等による東京の被害想定（平成24年（2012年）4月18日公表）」

³⁸ 災害拠点病院指定医療機関…災害時において主に重症者の収容・治療を行う病院

21 母親の年齢階級別出生数に関する構成比

・ 母親の年齢階層別出席数の構成比の推移をみると、年齢層の高い母親の出生数の割合が増加しています。

図表 52：母親の年齢階級別出生数に関する構成比の推移（練馬区）

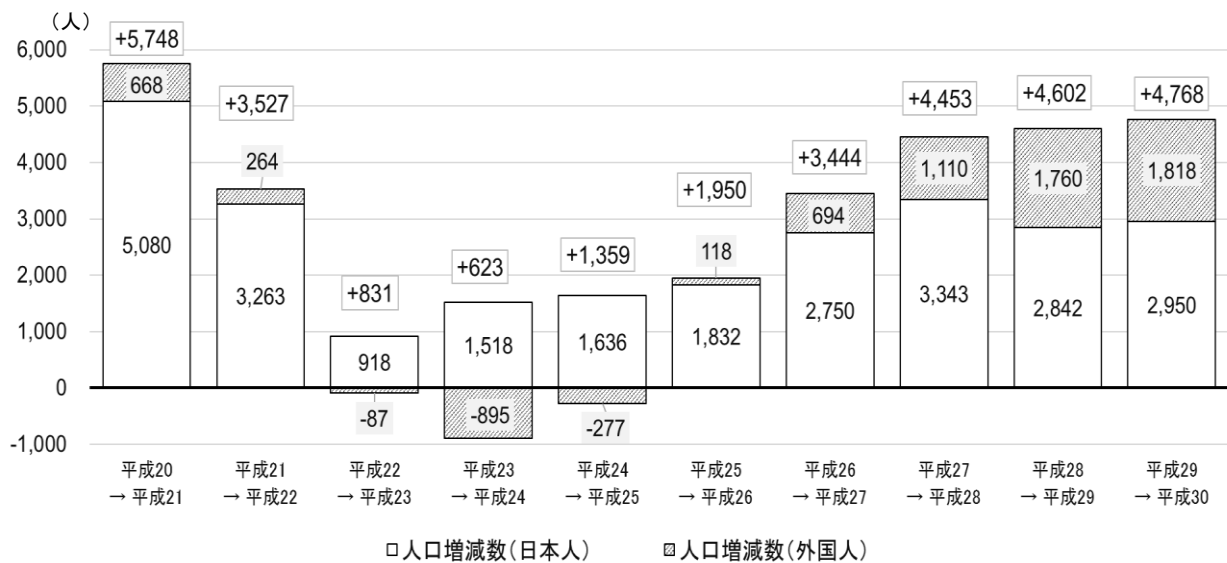


出典：練馬区人口ビジョン（平成 27 年（2015 年）12 月）

22 外国人の増減数

・外国人の転入者数は、平成20年(2008年)から減少していましたが、平成25年(2013年)からは一転して増加傾向となり、平成29年(2017年)から平成30年(2018年)の人口増の約4割は外国人の転入によるものです。

図表 53：年間の人口増減数（日本人、外国人別、各年1月1日時点の人口間で比較）



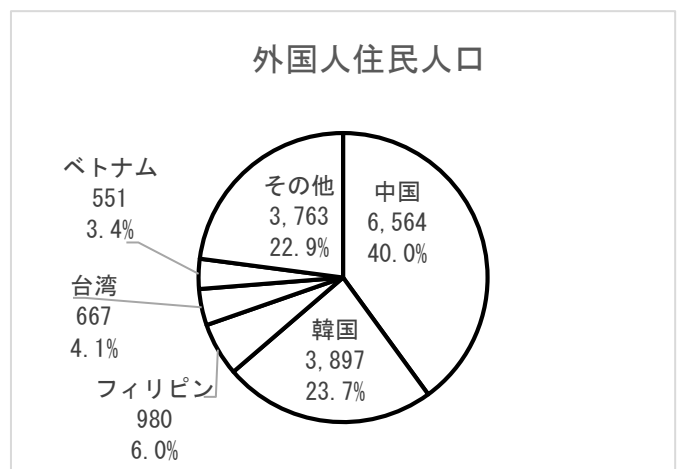
出典：みどりの風吹くまちビジョンアクションプラン【素案】

図表 54：外国人の人口推移

(単位：人)

年(平成)	総数	男	女
20年	13,067	5,825	7,242
21年	13,735	6,145	7,590
22年	13,999	6,202	7,797
23年	13,912	6,035	7,877
24年	13,017	5,679	7,338
25年	12,740	5,613	7,127
26年	12,858	5,741	7,117
27年	13,552	6,138	7,414
28年	14,662	6,659	8,003
29年	16,422	7,566	8,856

国籍別割合



出典：練馬区勢概要（平成29年版）

図表 55：特定健康診査の実施率①

特定健康診査の実施率は上がっているが、目標値とは大きな差が生じている。

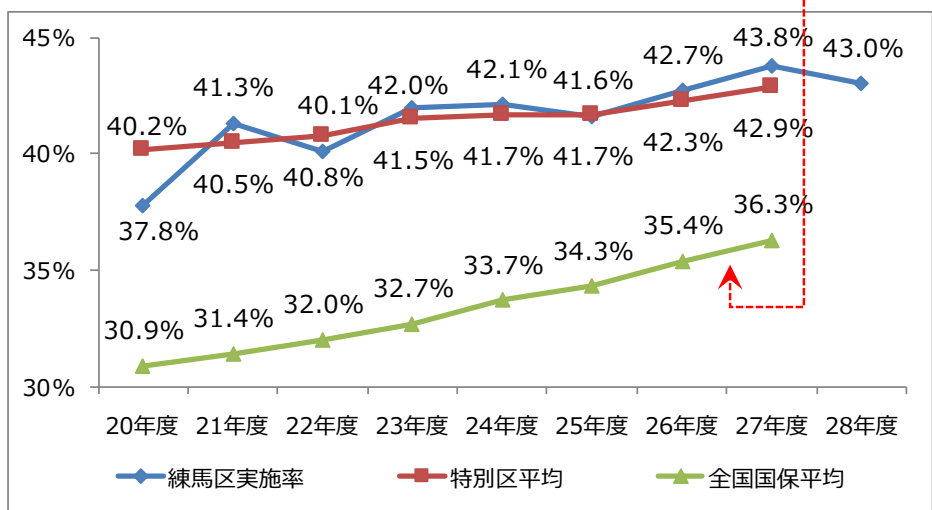
① 特定健康診査の実績および目標の推移

● 第二期特定健康診査等実施計画では、**29年度まで60%を目指すこととし、28年度は「55%」に設定しているが、目標値とは大きな差が生じている。**

年度	対象者	実施者	目標値 (※)	実施率	特別区 平均	全国国保 平均
20年度	116,594	44,021	45%	37.8%	40.2%	30.9%
21年度	114,187	47,216	50%	41.3%	40.5%	31.4%
22年度	113,606	45,533	55%	40.1%	40.8%	32.0%
23年度	113,541	47,634	60%	42.0%	41.5%	32.7%
24年度	112,707	47,494	65%	42.1%	41.7%	33.7%
25年度	111,697	46,503	45%	41.6%	41.7%	34.3%
26年度	109,746	46,834	47.5%	42.7%	42.3%	35.4%
27年度	106,468	46,647	50%	43.8%	42.9%	36.3%
28年度	100,683	43,333	55%	43.0%	—	—

(※) 目標値は、国が定める基準に基づき、特定健康診査等実施計画により区が定めたもの。

● 練馬区の実施率は、**全国平均よりも高いが、特別区平均とはほぼ同水準**となっている。21年度以降の実施率は、4割以上で推移している。
 ● 全国で見ても、制度開始以降、着実に実施率が向上している。



出典：練馬区国民健康保険データヘルス計画素案

図表 56：特定健康診査の実施率②

特定保健指導の実施率は横ばい状態であり、目標値とは大きな差が生じている。

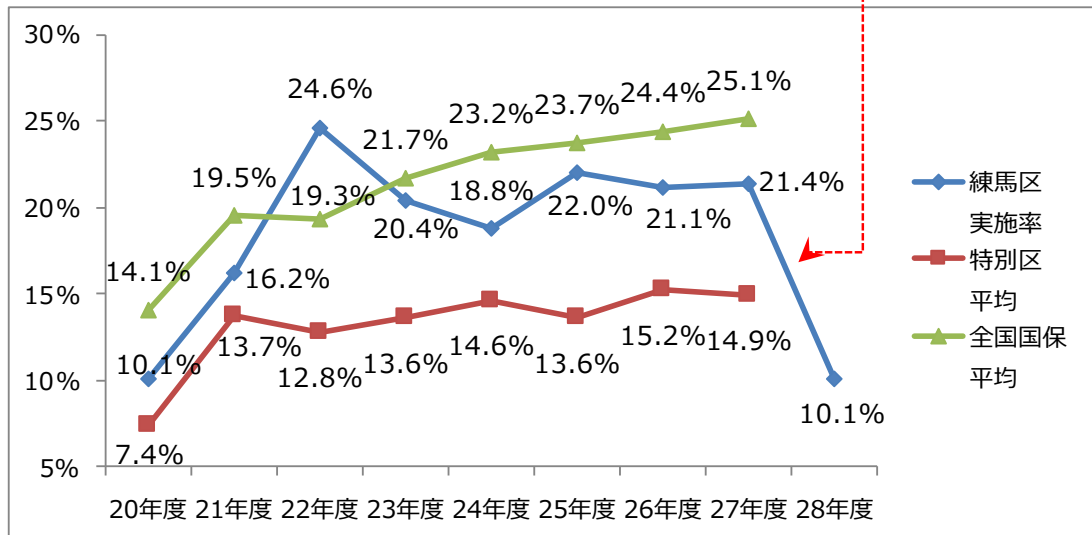
① 特定保健指導の実績および目標の推移

- 第二期特定健康診査等実施計画では、**29年度まで60%を目指すこととし、28年度は「55%」に設定しているが、目標値とは大きな差が生じている。**

年度	対象者	実施者	目標値 (※)	実施率	特別区 平均	全国国保 平均
20年度	6,147	618	25%	10.1%	7.4%	14.1%
21年度	6,083	986	30%	16.2%	13.7%	19.5%
22年度	5,361	1,321	35%	24.6%	12.8%	19.3%
23年度	5,673	1,158	40%	20.4%	13.6%	21.7%
24年度	5,479	1,030	45%	18.8%	14.6%	23.2%
25年度	5,009	1,102	40%	22.0%	13.6%	23.7%
26年度	5,485	1,155	45%	21.1%	15.2%	24.4%
27年度	5,358	1,146	50%	21.4%	14.9%	25.1%
28年度	5,035	509	55%	10.1%	—	—

(※) 目標値は、国が定める基準に基づき、特定健康診査等実施計画により区が定めたもの。

- 練馬区の実施率は、27年度までは2割程度で推移しており、**全国平均と同水準**となっているが、28年度は大きく低下している。



出典：練馬区国民健康保険データヘルス計画素案

図表 57：がん検診の状況

がん検診の受診率は、高いもので 20%台にとどまっている。

① がん検診の受診状況

● 各がん検診の受診者数は、いずれも横ばいとなっている。

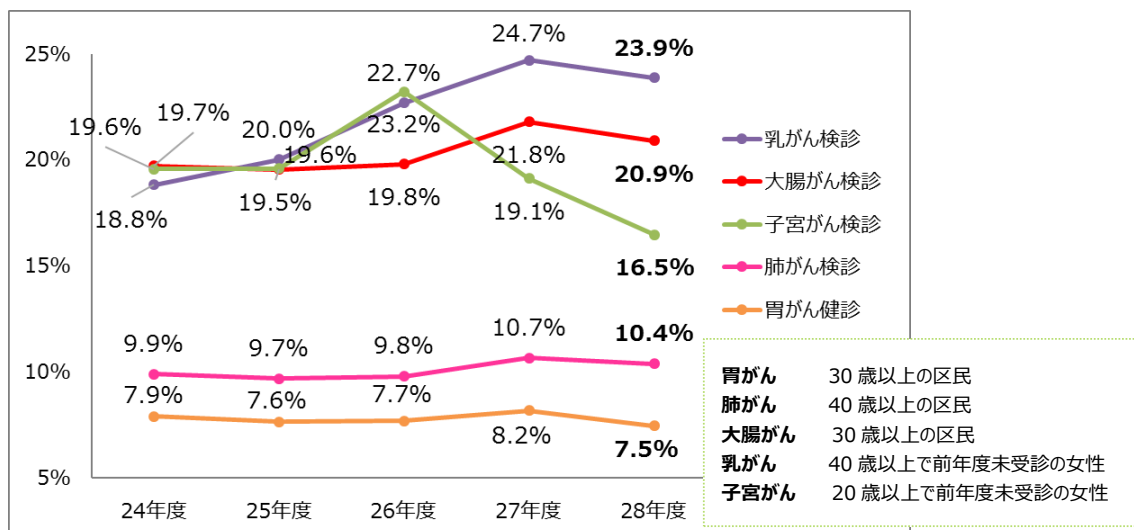
検診の種類（※1）		胃がん	肺がん	大腸がん	乳がん	子宮がん
24 年度	対象者数(※2)	301,750	257,032	330,679	72,974	96,416
	受診者数	23,787	25,415	65,169	13,738	18,860
	受診率	7.9%	9.9%	19.7%	18.8%	19.6%
25 年度	対象者数(※2)	303,794	261,195	332,918	74,161	96,952
	受診者数	23,197	25,275	65,060	14,833	18,978
	受診率	7.6%	9.7%	19.5%	20.0%	19.6%
26 年度	対象者数(※2)	306,100	264,872	335,446	75,236	97,775
	受診者数	23,529	25,936	66,437	17,062	22,703
	受診率	7.7%	9.8%	19.8%	22.7%	23.2%
27 年度	対象者数(※2)	296,487	263,954	317,373	69,873	102,671
	受診者数	24,268	28,137	69,154	17,254	19,625
	受診率	8.2%	10.7%	21.8%	24.7%	19.1%
28 年度	対象者数(※2)	296,487	263,954	317,373	69,873	102,671
	受診者数	22,108	27,413	66,340	16,673	16,903
	受診率	7.5%	10.4%	20.9%	23.9%	16.5%

(※1) 国の指針に基づく 5 つのがん検診を記載している。

(※2) 対象者数は、24～27 年度は翌年度 4 月 1 日現在の人数、28 年度からは当該年度 4 月 1 日現在の人数

② がん検診の受診率の推移

● がん検診の受診率は、低調で横ばい傾向。いずれも 27 年度から 28 年度にかけて低下した。



出典：練馬区国民健康保険データヘルス計画素案

図表 58 : 成人歯科健康診査の状況

成人歯科健康診査の受診率は低調で、若い世代になるほど低い傾向にある。

【成人歯科健康診査】

歯周疾患を早期に発見・予防するために、30・40・45・50・60・70歳の区民を対象に実施している。

① 成人歯科健康診査の受診状況【図表6-4①】

- 成人歯科健診の受診率は、若い世代ほど受診率が低くなる傾向がみられ、70歳を除くと、ほぼ5%前後と低調に推移している。

		30歳	40歳	45歳	50歳	60歳	70歳	合計
24年度	対象者数	10,781	12,602	12,105	9,721	7,522	7,423	60,154
	受診者数	449	595	563	547	507	625	3,286
	受診率	4.2%	4.7%	4.7%	5.6%	6.7%	8.4%	5.5%
25年度	対象者数	10,690	12,713	12,571	10,355	7,216	7,770	61,315
	受診者数	395	567	531	552	401	638	3,084
	受診率	3.7%	4.5%	4.2%	5.3%	5.6%	8.2%	5.0%
26年度	対象者数	10,839	11,994	12,050	11,046	7,143	6,442	59,514
	受診者数	367	493	494	624	475	539	2,992
	受診率	3.4%	4.1%	4.1%	5.6%	6.6%	8.4%	5.0%
27年度	対象者数	9,975	11,422	12,257	11,156	7,190	5,297	57,297
	受診者数	325	475	473	615	500	426	2,814
	受診率	3.3%	4.2%	3.9%	5.5%	7.0%	8.0%	4.9%
28年度	対象者数	9,975	11,115	12,295	10,211	7,392	7,281	58,269
	受診者数	285	405	487	476	439	546	2,638
	受診率	2.9%	3.6%	4.0%	4.7%	5.9%	7.5%	4.5%

② 成人歯科健康診査の判定状況(28年度)【図表6-4②】

- 成人歯科健康診査の判定状況は、いずれの年代も「要精密」と判定される割合が最も多く、「異常なし」と判定される割合が最も低い。

年齢	受診者数	判定		
		異常なし	要指導	要精密
30歳	285	27 (9.5%)	30 (10.5%)	228 (80.0%)
40歳	405	31 (7.7%)	71 (17.5%)	303 (74.8%)
45歳	487	33 (6.8%)	67 (13.8%)	387 (79.5%)
50歳	476	32 (6.7%)	63 (13.2%)	381 (80.0%)
60歳	439	28 (6.4%)	47 (10.7%)	364 (82.9%)
70歳	546	32 (5.9%)	50 (9.2%)	464 (85.0%)
合計	2,638	183 (6.9%)	328 (12.4%)	2,127(80.6%)

出典：練馬区国民健康保険データヘルス計画素案

図表 59：重点医療に係る医療提供体制

区分		施設名	
		練馬区	二次医療圏（豊島区・北区・板橋区）
救急医療	救命救急センター	—	・ 帝京大学医学部附属病院（30床） ・ 日本大学医学部附属板橋病院（24床）
	東京都指定二次救急医療機関	・ 浩生会スズキ病院 ・ 練馬総合病院 ・ 練馬光が丘病院 ・ 順天堂大学医学部附属練馬病院 ・ 田中脳神経外科病院 ・ 川満外科 ・ 大泉生協病院	複数の医療機関
災害医療	東京都災害拠点病院	・ 練馬光が丘病院 ・ 順天堂大学医学部附属練馬病院	・ 東京都立大塚病院 ・ 東京北医療センター ・ 日本大学医学部附属板橋病院 ・ 帝京大学医学部附属病院 ・ 東京都健康長寿医療センター ・ 豊島病院
	東京DMAT指定病院	—	・ 帝京大学医学部附属病院 ・ 日本大学医学部附属板橋病院
周産期医療	総合周産期母子医療センター	—	・ 東京都立大塚病院 総合周産期特定集中治療室管理料算定病床（21床） 新生児治療回復室入院医療管理料算定病床（30床） ・ 帝京大学医学部附属病院 総合周産期特定集中治療室管理料算定病床（22床） 新生児治療回復室入院医療管理料算定病床（24床） ・ 日本大学医学部附属板橋病院 総合周産期特定集中治療室管理料算定病床（64床） 新生児治療回復室入院医療管理料算定病床（24床）
	周産期連携病院	・ 順天堂大学医学部附属練馬病院	・ 東京北医療センター ・ 豊島病院
小児医療	東京都子ども救命センター	—	・ 日本大学医学部附属板橋病院
	夜間や休日に対応している東京都内の小児二次救急医療機関一覧	・ 練馬光が丘病院 ・ 順天堂大学医学部附属練馬病院	・ 東京都立大塚病院 ・ 東京北医療センター ・ 日本大学医学部附属板橋病院 ・ 豊島病院 ・ 帝京大学医学部附属病院

出典：救命救急センター；東京都福祉保健局ホームページ「東京都における救急医療体制（平成30年（2018年）1月1日現在）」
 東京都指定二次救急医療機関；東京都福祉保健局ホームページ「休日・全夜間診療事業実施医療機関一覧（東京都指定二次救急医療機関一覧）（平成28年（2016年）10月1日現在）」
 東京都災害拠点病院；東京都福祉保健局ホームページ「東京都災害拠点病院（平成26年（2014年）9月15日）」
 東京DMAT指定病院；東京都福祉保健局ホームページ「東京DMAT指定病院（日付記載なし）」
 総合周産期母子医療センター；東京都福祉保健局ホームページ「東京都周産期母子医療センター及び周産期連携病院の現況（平成28年（2016年）5月1日現在）」
 周産期連携病院；東京都福祉保健局ホームページ「東京都周産期母子医療センター及び周産期連携病院の現況（平成28年（2016年）5月1日現在）」

東京都こども救命センター;東京都福祉保健局ホームページ「三次救急医療(東京都こども救命センター)(日付記載なし)」
夜間や休日に対応している東京都内の小児二次救急医療機関一覧;東京都福祉保健局ホームページ「二次救急医療(休日・全夜間診療事業(小児科)参画医療機関)(平成 28 年(2016 年)4 月現在)」
東京都「保健医療計画」、練馬区「地域医療計画」、関東厚生局「平成 28 年(2016 年)6 月 1 日現在の届出」、国勢調査「平成 22 年(2010 年)人口」

25 医療環境に関するアンケート集計結果

調査概要

練馬区の医療提供体制を整備するための参考として、練馬区民に医療環境に関するアンケート調査を実施した。

対象：練馬区に住民票のある成人区民から無作為抽出した 3,000 人

方法：郵送による

期間：平成 29 年 7 月 18 日～8 月 2 日

※調査結果には 8 月 8 日までに回答のあったものを含む

有効回答数・有効回答率

送付件数	有効回答数	有効回答率
3,000 件	1,207 件	40.2%

集計について：通常、未回答の設問がある回答者を集計対象から除き（欠損処理）集計を行うが、集計対象者数が少なくなることを鑑み、欠損処理を行わずに各設問で集計を実施した。そのため、各設問で不明・無回答者数が異なる。

問1. あなたの年齢、性別、お住まいについておたずねします。

(1) 年齢

選択肢	人数(人)	パーセント(%) n=1,207
20 歳代	85	7.0
30 歳代	171	14.2
40 歳代	191	15.8
50 歳代	183	15.2
60 歳代	193	16.0
70 歳代	204	16.9
80 歳代	148	12.3
90 歳以上	23	1.9
不明・無回答	9	0.8
合計	1,207	100.0

(2) 性別

選択肢	人数(人)	パーセント(%) n=1,207
男性	488	40.4
女性	700	58.0
不明・無回答	19	1.6
合計	1,207	100.0

(3) 居住地区

項目	人数(人)	パーセント(%) n=1,207
練馬地域	273	22.6
光が丘地域	334	27.7
石神井地域	355	29.4
大泉地域	236	19.6
不明・無回答	9	0.7
合計	1,207	100.0

受診・通院について

問2.あなたは最近の1年間に、医療機関を受診・通院したことがありますか。または、現在受診・通院していますか。(単数回答)

医療機関への受診・通院の状況は「受診・通院したことがある、または受診・通院している」(89.3%)が、約90%を占めている。

選択肢	パーセント(%) n=1,207
受診・通院したことがある、または受診・通院している	89.3
受診・通院していない	10.4
不明・無回答	0.3

問3.あなたが、最近の1年間に受診・通院した、または受診・通院している医療機関はどこにありますか。(単数回答)

最近の1年間に受診・通院した、または受診・通院している医療機関の場所は「練馬区内」(72.4%)が、約70%を占めており、次いで「その他」(12.7%)が続いている。

※問2で「受診・通院したことがある、または受診・通院している」と回答した1,078人の回答を集計した。

選択肢	パーセント(%) n=1,078
練馬区内	72.4
その他	12.7
中野区・杉並区・武蔵野市・西東京市	7.4
豊島区・北区・板橋区	6.5
朝霞市・和光市・新座市	0.6
不明・無回答	0.5

問4.問3でお答えになった医療機関はどこですか。(単数回答)

最近の1年間に受診・通院した、または受診・通院している医療機関は「診療所(医院、クリニック)」(53.7%)が50%以上を占めており、次いで「その他の病院」(28.4%)となっている。

※問4は調査票の設問では1つだけ答える単数回答としたが、複数回答した方がいたため、複数回答も集計することとした。

※問3の「不明・無回答」以外を回答した1,073人の回答を集計した。

選択肢	パーセント(%) n=1,073
診療所(医院、クリニック)	53.7
その他の病院	28.4
順天堂大学医学部附属練馬病院	6.2
練馬光が丘病院	2.6
練馬総合病院	2.5
大泉生協病院	1.7
島村記念病院	1.0
田中脳神経外科病院	0.7
久保田産婦人科病院	0.5
高松病院	0.5
スズキ病院	0.4
関町病院	0.4
大泉病院	0.3
慈雲堂病院	0.3
保谷病院	0.3
陽和病院	0.3
桜台病院	0.2
東海病院	0.2
東大泉病院	0.2
練馬駅リハビリテーション病院	0.1
東京聖徳病院	0.0
ねりま健育会病院	0.0
不明・無回答	3.5

【参考】「その他の病院」の自由記述で多い回答

- ・日本大学医学部附属板橋病院(板橋区)
- ・東京医科大学病院(新宿区)
- ・総合東京病院(中野区)
- ・荻窪病院(杉並区)

※5人以上回答のあったものを抽出

※自由記述を記入いただいていないものがあるため参考値とする。

問5.問 3 でお答えになった医療機関で受診・通院している主な診療科を教えてください。(単数回答)

最近の1年間に受診・通院した、または受診・通院している医療機関の主な診療科は「内科」(37.9%)の割合が多く、次いで「整形外科」(10.1%)、「歯科(歯科口腔外科)」(7.5%)となっている。

※問5は、設問では単数回答としたが複数回答があり、複数回答も集計した。

※問3の「不明・無回答」以外を回答した1,073人の回答を集計した。

選択肢	パーセント(%) n=1,073
内科	37.9
整形外科	10.1
歯科(歯科口腔外科)	7.5
循環器内科	6.2
皮膚科	6.1
耳鼻いんこう科	5.2
眼科	4.4
消化器内科(胃腸内科)	3.5
泌尿器科	2.7
婦人科	2.5
糖尿病内科(代謝内科)	2.4
呼吸器内科	2.3
脳神経外科	2.2
その他	2.2
精神科	1.6
産婦人科	1.4
心療内科	1.3
外科	1.3
乳腺外科	1.3
産科	1.1
神経内科	1.0
消化器外科(胃腸外科)	0.9
腎臓内科	0.8
血液内科	0.7
心臓血管外科	0.7
リハビリテーション科	0.7
リウマチ科	0.6
呼吸器外科	0.5
肛門外科	0.5
小児科	0.4
形成外科	0.3
アレルギー科	0.2
麻酔科	0.2
放射線科	0.1

選択肢	パーセント(%) n=1,073
感染症内科	0.0
気管食道外科	0.0
美容外科	0.0
小児外科	0.0
不明・無回答	1.3

問6. 問3でお答えになった医療機関を受診・通院する際の主な交通手段を教えてください。(単数回答)

医療機関を受診・通院する際の主な交通手段は「徒歩」(33.9%)が約30%を占め、次いで「自転車」(26.5%)が続いている。

※問3で「不明・無回答」以外を回答した1,073人の回答を集計した。

選択肢	パーセント(%) n=1,073
徒歩	33.9
自転車	26.5
電車	17.7
自家用車	9.4
バス	7.2
タクシー	2.7
その他	1.7
不明・無回答	0.9

問7. 問3でお答えになった医療機関を選んだ理由を教えてください。(複数回答3つまで)

最近の1年間に受診・通院した、または受診・通院している医療機関を選んだ理由は「自宅や家族の住居に近い」(44.5%)の割合が多く、次いで「交通の便がよい」(16.9%)と続いている。

※問3で「不明・無回答」以外を回答した1,073人の回答を集計した。

選択肢	パーセント(%) n=1,073
自宅や家族の住居に近い	44.5
交通の便がよい	16.9
かかりつけ医がいる	16.0
医療機関や医師から紹介された	14.4
専門性が高い医療を提供している	12.2
診療、治療の評判がよい	10.6
家族・知人・友人からのすすめ	10.4
診療日・診療時間が受診しやすい	9.3
診療の待ち時間が短い	7.4

受診・通院について

選択肢	パーセント(%) n=1,073
医療機関の設備が整っているため	6.6
希望する診療科があるため	5.8
その他	5.8
医療機関の規模が大きいため(総合病院)	5.7
職場や学校に近い	5.4
複数の診療科を受診できるため	5.3
不明・無回答	1.3

入院について

入院について

問8.あなたは、練馬区にお住まいになってから今までに、医療機関に入院されたことがありますか。(単数回答)

医療機関への入院の状況は「入院したことがある」(48.5%)が約50%を占めている。

項目	パーセント(%) n=1,207
入院したことがある	48.5
入院したことはない	50.2
不明・無回答	1.3

問9.あなたが、練馬区にお住まいになってから今までで、一番最近に入院された医療機関は、どこにありますか。(単数回答)

一番最近に入院した医療機関の場所は「練馬区内」(39.8%)が約40%を占めており、次いで「その他」(25.6%)と続いている。

※問8で「入院したことがある」を回答した585人の回答を集計した。

選択肢	パーセント(%) n=585
練馬区内	39.8
その他	25.6
豊島区・北区・板橋区	15.9
中野区・杉並区・武蔵野市・西東京市	14.0
朝霞市・和光市・新座市	3.1
不明・無回答	1.5

問10. 問9でお答えになった医療機関はどちらですか。(単数回答)

一番最近に入院した医療機関は「その他」(57.8%)が、約60%を占めており、次いで「順天堂大学医学部附属練馬病院」(11.6%)、「練馬総合病院」(7.3%)が続いている。

※問9で「不明・無回答」以外を回答した576人の回答を集計した。

選択肢	パーセント(%) n=576
その他	57.8
順天堂大学医学部附属練馬病院	11.6
練馬総合病院	7.3
練馬光が丘病院	5.6
診療所(医院、クリニック)	4.2
スズキ病院	1.7
田中脳神経外科病院	1.6
久保田産婦人科病院	1.4
大泉生協病院	1.0
島村記念病院	0.7
関町病院	0.7
高松病院	0.7
陽和病院	0.5
大泉病院	0.3
慈雲堂病院	0.3
東海病院	0.2
練馬駅リハビリテーション病院	0.2
不明・無回答	4.2

【参考】「その他」の自由記述で多い回答

- ・日本大学医学部附属板橋病院(板橋区)
- ・荻窪病院(杉並区)
- ・東京女子医科大学病院(新宿区)
- ・総合東京病院(中野区)

※10人以上回答のあったものを抽出

※自由記述を記入いただいていないものがあるため参考値とする。

問11. 問9でお答えになった医療機関で受診した主な診療科を教えてください。(単数回答)

一番最近に入院した医療機関の診療科は「整形外科」(11.1%)であり、次いで「内科」(8.0%)、「産婦人科」(7.5%)、「産科」(6.8%)が続いている。

※問11は調査票の設問では1つだけ答える単数回答としたが、複数回答した方がいたため、複数回答も集計をした。

※問9で「不明・無回答」以外を回答した576人の回答を集計した。

選択肢	パーセント(%) n=576
整形外科	11.1
内科	8.0
産婦人科	7.5
産科	6.8
婦人科	6.1
消化器外科(胃腸外科)	5.7
循環器内科	5.6
外科	5.2
泌尿器科	5.2
脳神経外科	5.2
眼科	4.9
消化器内科(胃腸内科)	4.2
その他	3.6
乳腺外科	2.8
肛門外科	2.6
呼吸器内科	2.1
耳鼻いんこう科	2.1
心臓血管外科	1.9
腎臓内科	1.7
呼吸器外科	1.7
精神科	1.6
糖尿病内科(代謝内科)	1.4
皮膚科	1.4
形成外科	0.9
神経内科	0.5
血液内科	0.5
小児科	0.5
心療内科	0.3
リハビリテーション科	0.3
歯科(歯科口腔外科)	0.3
アレルギー科	0.2
リウマチ科	0.2
放射線科	0.2
感染症内科	0.0
気管食道外科	0.0
美容外科	0.0
小児外科	0.0
麻酔科	0.0
不明・無回答	1.9

問12. 問9でお答えになった医療機関を、入院先として選択した理由を教えてください。
(複数回答3つまで)

入院先として医療機関を選択した理由は「医療機関や医師から紹介されたため」(36.1%)が約40%を占めており、次いで「自宅や家族の住居に近い」(18.2%)、「専門性が高い医療を提供しているため」(17.9%)と続いている。

※問9で「不明・無回答」以外を回答した576人の回答を集計した。

選択肢	パーセント(%) n=576
医療機関や医師から紹介されたため	36.1
自宅や家族の住居に近い	18.2
専門性が高い医療を提供しているため	17.9
医療機関の規模が大きい(総合病院)	17.0
交通の便がよい	13.5
救急車で搬送されたため	12.3
診療、治療の評判がよい	11.5
医療機関の設備が整っている	10.2
かかりつけ医がいる	8.2
家族・知人・友人からのすすめ	7.3
その他	7.1
複数の診療科を受診できる	5.6
希望する診療科がある	5.4
職場や学校に近い	1.9
不明・無回答	0.9

問13. 問9でお答えになった医療機関から退院した後の状況を教えてください。(単数回答)

医療機関から退院した後の状況は「完治した」(49.7%)が、約50%を占めており、次いで「自宅に戻り、自宅から医療機関に通院した」(38.0%)が続いている。

※問9で「不明・無回答」以外を回答した576人の回答を集計した。

選択肢	パーセント(%) n=576
完治した	49.7
自宅に戻り、自宅から医療機関に通院した	38.0
他の医療機関(練馬区内)に転院した	2.8
他の医療機関(練馬区外)に転院した	2.8
自宅に戻り、介護サービスを受けた	1.9
介護施設に移った	1.4
自宅に戻り、医師や看護師の定期的な訪問治療を受けた	0.7
不明・無回答	2.8

問14. 問 9 でお答えになった医療機関から退院する際に、困ったことについて教えてください。(複数回答)

医療機関から退院する際に困ったことは「特に苦勞したことはなかった」(71.5%)が約70%を占めている。

※問9で「不明・無回答」以外を回答した576人の回答を集計した。

選択肢	パーセント(%) n=576
特に苦勞したことはなかった	71.5
その他	9.5
自宅の近くに移りたい医療機関がなかった	3.6
自分や家族が退院後どのようにすればよいか知識がなかった	1.7
家族の受け入れ態勢が整っていなかった	1.4
転院先を自分(または家族)で探さなければならなかった	1.2
介護施設を自分(または家族)で探さなければならなかった	0.9
定期的な訪問治療をしてくれる医師・看護師を見つけることが出来なかった	0.9
介護サービス・施設の利用の仕方が分からなかった	0.7
空気がなく、移りたい医療機関に移れなかった	0.5
利用したい介護サービス・施設が空いてなかった	0.5
不明・無回答	11.8

問15. 仮に、あなたが、命にかかわる重症な病気(がん、心臓病等)で2週間程度の入院が必要であるとします。入院する病院を選ぶ際に、重要と思われる選択肢を選んでください。(複数回答3つまで)

命にかかわる重症な病気入院する病院を選ぶ際に、重要と思われる選択肢は「専門性が高い医療を提供している」(61.5%)の割合が多く、次いで「医療機関の設備が整っている」(41.8%)、「診療、治療の評判がよい」(39.9%)となっている。

選択肢	パーセント(%) n=1,207
専門性が高い医療を提供している	61.5
医療機関の設備が整っている	41.8
診療、治療の評判がよい	39.9
自宅や家族の住居に近い	31.0
医療機関の規模が大きい(総合病院)	24.7
医療機関や医師からの紹介	23.7
交通の便がよい	21.5
複数の診療科を受診できる	8.2
希望する診療科がある	7.9
かかりつけ医がいる	5.2

選択肢	パーセント(%) n=1, 207
家族・知人・友人からのすすめ	3.1
その他	1.4
職場や学校に近い	1.3
不明・無回答	1.1

問16. 仮に、あなたが、命の危険はない病気やケガ（骨折等）で2週間程度の入院が必要であるとします。入院する病院を選ぶ際に、重要と思われる選択肢を選んでください。
（複数回答 3 つまで）

命の危険はない病気やケガで入院する病院を選ぶ際に、重要と思われる選択肢は「自宅や家族の住居に近い」（57.1%）の割合が多く、次いで「診療、治療の評判がよい」（44.2%）、「交通の便がよい」（39.9%）となっている。

選択肢	パーセント(%) n=1, 207
自宅や家族の住居に近い	57.1
診療、治療の評判がよい	44.2
交通の便がよい	39.9
医療機関の設備が整っている	35.0
専門性が高い医療を提供している	32.3
医療機関や医師からの紹介	16.8
医療機関の規模が大きい（総合病院）	13.4
希望する診療科がある	8.9
かかりつけ医がいる	6.5
複数の診療科を受診できる	5.5
家族・知人・友人からのすすめ	4.1
職場や学校に近い	3.8
その他	0.9
不明・無回答	1.0

問17. 仮に、あなたが、手術や治療の後に、リハビリ療養が必要で2か月入院する必要があるとします。入院する病院を選ぶ際に、重要と思われる選択肢を選んでください。
(複数回答 3 つまで)

リハビリ療養が必要で入院する病院を選ぶ際に、重要と思われる選択肢は「自宅や家族の住居に近い」(54.3%)の割合が多く、次いで「専門性が高い医療を提供している」(44.0%)、「診療、治療の評判がよい」(41.3%)となっている。

選択肢	パーセント(%) n=1,207
自宅や家族の住居に近い	54.3
専門性が高い医療を提供している	44.0
診療、治療の評判がよい	41.3
交通の便がよい	39.9
医療機関の設備が整っている	39.2
医療機関や医師からの紹介	14.4
医療機関の規模が大きい(総合病院)	12.2
複数の診療科を受診できる	5.6
希望する診療科がある	5.3
かかりつけ医がいる	5.1
職場や学校に近い	5.1
家族・知人・友人からのすすめ	3.2
その他	0.8
不明・無回答	1.2

救急医療に関すること

救急医療に関すること

問18. あなたが、練馬区にお住まいになってから今までに、救急医療機関を受診したことがありますか。(単数回答)

救急医療機関の受診状況は「救急医療機関を受診したことはない」(59.0%)が約60%を占めており、救急車の利用がある回答は「年に数回、救急車を利用して受診したことがある」(1.2%)、「過去1～2回、救急車を利用して受診したことがある」(22.6%)となっている。

選択肢	パーセント(%) n=1,207
年に数回、救急車を利用して受診したことがある	1.2
過去1～2回、救急車を利用して受診したことがある	22.6
救急車を利用したことはないが、年に数回、自力で救急医療機関を受診した	0.8
救急車を利用したことはないが、過去1～2回、自力で救急医療機関を受診した	14.7
救急医療機関を受診したことはない	59.0
不明・無回答	1.7

問19. 問18で「救急車を利用したことがある」と答えた方への質問です。救急車を利用した理由を、選んでください。(複数回答)

救急車を利用した理由は「自力で歩ける状態でなかった」(63.9%)の割合が多く、次いで「周りの人(家族、友人、居合わせた人)が通報してくれた」(38.2%)、「生命の危険があると思った」(25.7%)となっている。

※問18で「年に数回、救急車を利用して受診したことがある」、「過去1~2回、救急車を利用して受診したことがある」を回答した288人を回答対象者として集計した。

選択肢	パーセント(%) n=288
自力で歩ける状態でなかった	63.9
周りの人(家族、友人、居合わせた人)が通報してくれた	38.2
生命の危険があると思った	25.7
夜間・休日で診療時間外だった	24.0
軽症か重症かの判断ができなかった	20.1
家族や友人、居合わせた人にすすめられた	9.7
交通事故だった	9.4
どこの病院に行けばよいかわからなかった	9.4
東京消防庁救急相談センター(＃7119)を利用したときにすすめられた	8.3
かかりつけの医師または、医療関係者にすすめられた	6.3
その他	5.2
病院へ連れて行ってくれる人がいなかった	4.5
救急車で病院に行った方が、優先的に診てくれると思った	4.5
交通手段がなかった	3.5
不明・無回答	1.0

その他

問20. 入院した医療機関と退院後に診てもらおう在宅医の間など、自分が診療を受けている医療機関同士で自分の診療情報を共有し、診療に役立てることについてどう思いますか。(複数回答3つまで)

医療機関同士で診療情報を共有することに対する考えについては「重複する検査や治療を減らせると思う」(81.8%)の割合が多く、次いで「薬の重複や飲み合わせの問題を防げると思う」(65.5%)、「他の医療機関を受診する際に、病歴の説明など不要でよいと思う」(60.6%)となっている。

選択肢	パーセント(%) n=1,207
重複する検査や治療を減らせると思う	81.8
薬の重複や飲み合わせの問題を防げると思う	65.5
他の医療機関を受診する際に、病歴の説明など不要でよいと思う	60.6
どのような種類の情報が共有されるのか心配である	12.9
誰にまで情報が共有されるのか心配である	11.8
個人情報漏えいするリスクが不安である	8.0
その他	3.4
不明・無回答	5.1

26 練馬区地域医療計画における主な取組状況

柱1 医療連携体制の整備		
(1) 病病連携・病診連携の推進		
事業名	事業概要	取組状況等
【重点事業】 練馬区医療関係連絡会の設置	区内病院医療連携担当者が集う場を設け、顔の見える関係を作り、区内の病院同士の連携を円滑に進める。	平成25年度設置。平成27年度からは関係機関や多職種連携を促進するため、多職種交流会に統合した。
地域医療推進事業補助	<p>医師会が実施する地域医療推進のための事業に要する経費の一部を補助することにより、地域医療の充実を図る。</p> <p>①区民健康づくりセミナーの実施などの区民啓発事業</p> <p>②医療連携センターの運営</p> <p>③かかりつけ医機能推進のための事業</p> <p>④区内診療所と病院間の医療機能の連携</p> <p>⑤在宅医療推進のための研修</p> <p>⑥その他、地域医療推進のための事業</p>	<p>【平成28年度実績】</p> <p>①区民健康づくりセミナー 1回（平成28年6月5日、練馬区医師会館）</p> <p>②医療連携センターの運営 MSW（医療ソーシャルワーカー）1名配置</p> <p>③かかりつけ医機能推進事業 相談実績 1033件 紹介・逆紹介 245件</p> <p>④医療機能推進委員会 2回 練馬区糖尿病医療連携検討専門部会 3回</p> <p>⑤主治医と練馬区訪問看護ステーション連絡会との研修 1回</p> <p>⑥練馬区医師会在宅医療推進協議会 7回 認知症サポート医の養成研修 受講費の補助 2人 認知症事業等に関する医師会 ・区連絡会 1回 練馬区医療救護班研修会 1回 練馬区医療救護所訓練 2回</p>

<p>順天堂練馬病院運営 連絡協議会</p> <p>練馬光が丘病院運営 連絡協議会</p>	<p>病院運営に区民等の意見を反映させるため、区民、区議会議員、学識経験者、区職員で構成される協議会を設置・運営している。</p> <p>年2回開催</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・順天堂練馬病院運営連絡協議会 区と順天堂が締結している基本協定に基づき、年に2回（10月下旬～11月上旬、3月下旬）病院が主催して開催している。 委員は公募区民をはじめ、学識経験者、医師会、歯科医師会、議員（3名）、病院職員等。区職員は地域医療担当部長と医療環境整備課長が委員として出席している。 ・練馬光が丘病院運営連絡協議会 区と地域医療振興協会が締結している基本協定書に基づき、年に2回（10月下旬～11月上旬、3月下旬）病院が主催して開催している。 委員は公募区民4名をはじめ、学識経験者2名、医師会1名、歯科医師会1名、区議会議員3名、病院職員4名、区職員2名で構成されている。区職員は地域医療担当部長と地域医療課長が委員として出席している。
---	--	--

(2) 疾病ごとの医療連携の推進		
事業名	事業概要	取組状況等
練馬区糖尿病医療連携 検討専門部会	<p>糖尿病対策において、かかりつけ医と専門医療機関との切れ目のない医療連携体制の構築やスタッフの確保を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区民への啓発（公開講座、糖尿病医療機関MAP） ・練馬区糖尿病医療連携ネットワーク推進講演会 	<p>【平成28年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練馬区糖尿病医療連携検討専門部会 3回【再掲】 ・四区合同区民公開講座 1回（平成29年3月4日、練馬文化センター） ・三師会対象糖尿病医療連携ネットワーク推進講演会 平成29年3月16日

東京都区西北部糖尿病医療連携推進検討会	<p>予防から治療にいたる一貫した糖尿病対策の推進を図り、二次保健医療圏において身近な地域で適切な治療を受けられる環境について検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会の開催・糖尿病地域医療連携ツールの研究 	<p>【平成 28 年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都区西北部糖尿病医療連携推進検討会 3 回
東京都区西北部脳卒中医療連携検討会	<p>救急搬送体制の確保や症状に応じたリハビリテーション、在宅療養生活のための医療・介護の連携方法を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区民公開講座・脳卒中地域連携パスの検討 	<p>【平成 28 年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四区合同区民公開講座 1 回

(3) 事業ごとの医療連携の推進

ア 救急医療・小児救急医療

事業名	事業概要	取組状況等
休日・夜間における初期救急診療事業	<p>休日・夜間における初期救急診療の医療提供体制を築き、二次・三次救急医療体制を補完する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練馬休日急患診療所 ・石神井休日急患診療所 ・休日診療当番医療機関 	<p>(1) 練馬休日急患診療所</p> <p>日・祝休日 10:00～17:00、18:00～22:00 土 18:00～22:00</p> <p>(2) 練馬区夜間救急こどもクリニック (小児科のみ)</p> <p>土・日・祝休日 18:00～22:00 平日 20:00～23:00</p> <p>(3) 石神井休日急患診療所</p> <p>日・祝休日 10:00～17:00、18:00～22:00 ※28 年度受診者数 7,455 人 土 18:00～22:00</p> <p>(4) 休日診療当番医療機関</p> <p>日・祝休日 9:00～19:00 ※28 年度受診者数 5,034 人 5 か所 (練馬総合・スズキ・大泉生協・久保田産婦人科・田中脳神経外科病院・川満外科 6 か所の内 5 か所で輪番)</p>

<p>休日における歯科診療事業</p>	<p>休日における歯科診療を確保し、歯科診療所とともに区内の歯科診療体制を築く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練馬つつじ歯科休日急患診療所 ・石神井歯科休日急患診療所（平成 27 年度末に終了） ・休日診療当番医療機関 	<p>(1)練馬つつじ歯科休日急患診療所 日・祝休日 10:00～17:00 ※28 年度受診者数 528 人</p> <p>(2)休日診療当番医療機関 ゴールデンウィーク・年末年始 28 年度から 2 か所で実施 9:00～17:00 ※28 年度受診者数 141 人</p>
<p>休日・夜間における調剤薬局事業</p>	<p>練馬休日急患診療所と石神井休日急患診療所の開設時間に併せて休日・夜間における調剤を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練馬区休日・夜間薬局 ・石神井休日・夜間薬局 	<p>(1)練馬区休日・夜間薬局 日・祝休日 10:00～17:00、18:00～22:00 ※28 年度受診者数 8,905 人 土曜 18:00～22:00 平日 20:00～23:00</p> <p>(2)石神井休日夜間薬局 日・祝休日 10:00～17:00、18:00～22:00 ※28 年度受診者数 6,819 人 土曜 18:00～22:00</p>
<p>休日における当番接骨院事業</p>	<p>休日における柔道整復施術を確保し、柔道接骨院等とともに区内の柔道整復施術の提供体制を築く。</p>	<p>日・祝休日 3 か所 9:00～17:00 東京都柔道整復師会練馬支部委託 【平成 28 年度実績】 436 人</p>
<p>練馬区夜間救急こどもクリニック事業・後方病床確保事業</p>	<p>夜間救急こどもクリニックで診察を受けた小児患者のうち、入院を必要とする患者のために、順天堂練馬病院および練馬光が丘病院に 1 床ずつ後方病床を確保し、連携体制を推進する。</p>	<p>・練馬区夜間救急こどもクリニック 4,077 人（再掲） 【平成 28 年度実績】 入院件数：順天 16 件、光が丘 14 件</p>
<p>小児救急ミニ講座</p>	<p>区民に身近な子育てのひろばなどで、地域の小児科医により、子どもの急病時の対処や受診の仕方について普及啓発する。</p>	<p>小児科医師による①急病やけがの際の救急受診について②発熱の対処について③嘔吐、下痢の対処についてなどを乳幼児の保護者向けに講義。 【平成 28 年度実績】 18 回（12 施設）、318 人</p>

練馬区小児救急医療連絡協議会	救急搬送体制や区内の小児救急医療の現状と課題を把握・整理し、今後の在り方を協議、検討する。	医師会、順天・光が丘病院、消防署の代表者が推薦する委員と区職員の 14 名で構成。年 2 回
----------------	---	--

イ 周産期医療		
事業名	事業概要	取組状況等
周産期セミオープンシステム事業	妊婦健診と分娩の役割を分担する事業に加え、下記事業を併せて行う。 ・周産期医療連携推進会議 ・妊婦啓発事業	(1) 地域の診療所で妊婦健診を行い、病院で分娩を行う、周産期セミオープンシステムを実施。 (2) 区内の周産期医療体制を整備するため、周産期医療機関等と周産期医療連携推進会議等を開催。 【平成 28 年度実績】 ・周産期セミオープンシステム 登録数 23 件（平成 27 年度 21 件） 分娩数 18 件（平成 27 年度 19 件） ・周産期医療連携推進会議 周産期連携会議 1 回 妊婦向け子育て支援教室 1 回
東京都区西北部周産期医療ネットワークグループ連携会議（産科部会）	医療機関の機能ごとの役割分担や情報交換・共有を進め、積極的な患者紹介など緊密な連携体制を築くことで、妊婦の妊娠から出産の過程や新生児への対応をグループ全体で支えることを目指す。	【平成 28 年度実績】 ・周産期ネットワークグループ連携会議 2 回

ウ 心身障害者（児）および在宅要介護高齢者歯科診療事業心身障害者（児） 歯科相談事業		
事業名	事業概要	取組状況等
心身障害者（児）および在宅要介護高齢者歯科診療 心身障害者（児） 歯科相談事業	一般の歯科診療所では対応が困難な心身障害者等の診療および歯科相談を提供し、一般歯科診療所の歯科診療を補完する。	1 診療日時 木・土曜 9:00～17:00 2 実施場所 練馬つつじ歯科休日急患診療所 〔練馬区歯科医師会委託〕 3 28年度実績 診療延べ件数 2,781 件/年 相談延べ件数 81 件/年
摂食・えん下リハビリテーション外来および訪問診療事業	摂食・えん下機能が低下している高齢者のリハビリテーション診療を提供し、一般歯科診療所の歯科診療を補完する。	1 診療日時 〔外来〕 第2・第4火曜日およびその他の火曜日のうち1回（3月を除く。） 9:00～13:00 〔訪問〕 水曜日（毎月4回） 9:00～13:00 2 実施場所 〔外来〕 練馬つつじ歯科休日急患診療所 〔訪問〕 居宅および特別養護老人ホーム 〔練馬区歯科医師会委託〕 3 28年度実績 外来 119 件 訪問 169 件 口腔ケア 121 件

柱2 医療提供体制の整備		
(1) 病床の確保		
事業名	事業概要	取組状況等
【重点事業】 既存病院増床	急性期医療・200床程度の増床	<ul style="list-style-type: none"> ・順天堂練馬病院…90床増床（がん治療センター拡充、NICUの増床等）に向けて事業着手 ・練馬光が丘病院…基本構想策定（回復期中心に100床程度の増床）
【重点事業】 病院整備（練馬駅北口区有地）	回復リハビリ病院 150床	平成26年5月 練馬駅リハビリテーション病院開設 (回復リハビリ病院 150床)
【重点事業】 新病院整備	療養・在宅療養支援・回復リハビリ併設 200床程度	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年4月 ねりま健育会病院開設（回復リハビリ病院100床、併設：介護老人保健施設80床） ・高野台新病院…33年度開院予定（回復期、慢性期200床程度）
【重点事業】 新病院整備	一般急性期医療等・500床程度	情報収集・検討
国、都への要請活動	東京都保健医療計画に定める基準病床数、二次保健医療圏の見直しや二次保健医療圏の病床の配置状況を踏まえた病床配分方法の検討および区市町村の地域医療施策への支援等に関する国、都への要請を継続して行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27、29年度には、病床機能区分ごとの医療圏設定や、地域包括ケアシステム等を踏まえた病床配分について都知事あてに要請書を提出した。 ・東京都地域医療構想調整会議において、病床数の不足や病床配置状況の偏在是正を要請している。

(2) 既存医療機関への支援		
事業名	事業概要	取組状況等
救急医療施設整備資金利子補給金交付事業	救急医療を担う施設の新築、改築または増築を行う際、医療機関が金融機関から借り入れる資金に対して支払う利子の一部について区が利子補給金を交付する。	病院支援制度の1つとして、「医療施設整備資金利子補給金交付要綱」に基づき実施。現在、練馬総合病院、久保田産婦人科病院およびねりま健育会病院の3病院に適用。

(3) 人材確保と育成の支援		
事業名	事業概要	取組状況等
看護職員フェア	潜在看護師等の就職説明会として、練馬区医師会との共催により、年2回開催する。参加医療機関：病院、有床診療所、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、訪問看護ステーション	平成20年度から実施。平成28年度は6月、11月に実施。 平成27年10月に国による届出制度が創設され、努力義務ではあるものの、看護師等の免許を持つ未就業者は、氏名や連絡先を都道府県ナースセンターに届け出ることになった。これを受け、区では離職中の看護師等に直接、看護職員フェアの周知ができることから、平成28年度から東京都ナースプラザと共催で事業を実施している。 来場者数 延93名、就業者数 15名(平成27年度 来場者数 延104名、就業者数 15名)
看護部会との協議	練馬区内の病院等の看護部長等で構成する協議会。区内病院等の連携を密にして、看護の質の向上を図り、区民に安心・安全な医療を提供するために、潜在看護師の就職支援事業や研修等について協議を行う。	主に、年2回実施している看護職員フェアの協議を行っている。看護部会では、病院職員に対する研修を企画・立案のうえ、実施している。

柱3 医療と保健・福祉の連携		
(1) 在宅療養の推進		
事業名	事業概要	取組状況等
【重点事業】 在宅療養推進協議会の設置	高齢者等が在宅で安心して療養ができる体制の構築を、医療・介護の関係者が連携して推進する。	平成25年度設置。下部組織の在宅療養専門部会、認知症専門部会においても調査検討を行っている。平成28年度は、在宅療養推進協議会を2回、各専門部会を3回実施した。

【重点事業】 多職種連携事業の実施	在宅療養に取り組んでいる医療・介護の関係者の連携を図り、顔の見える関係を構築する。	平成 26 年度から実施。多職種の相互理解を深めるために事例検討会や病院看護師の訪問看護同行研修等を行っている。平成 28 年度は、4 回実施。参加者数延べ 490 名。
在宅療養相談窓口の設置	医療、介護等の知識を持つ看護師を配置し、退院時の支援調整など在宅療養を支援するための窓口を高齢者相談センター支所 4 か所に設置、運営する。	【平成 28 年度実績】 ・医療と介護の相談窓口相談実績 延 3,065 件（平成 27 年度 3,374 件）
緊急一時入院病床の確保	在宅療養者の急変時等に必要な緊急一時入院病床を確保する。	【平成 28 年度実績】 ・後方支援病床確保事業 延 152 件（平成 27 年度 84 件）
短期入所療養介護（ショートステイ）の整備	介護老人保健施設の新設・増設時にショートステイの整備を要望する。	区内の介護老人保健施設では、短期入所療養介護（ショートステイ）の受入れが可能となっている。
人材育成・確保（介護職向け就職面接会、看護職員フェア、研修）	・介護職および看護職の人材を確保するため事業者の求人募集活動に協力する。 ・医療職、介護職が相互の役割を理解し、連携を深めるための研修を実施する。	【平成 28 年度実績】 ・事例検討会・多職種交流会 4 回 参加者数 延 327 名 （平成 27 年度 延 453 名） ・看護職員フェア 2 回実施（再掲） 来場者数 延 93 名、就業者数 15 名 （平成 27 年度 来場者数 延 104 名、就業者数 15 名）
区民等への啓発	在宅療養への理解を深める啓発（シンポジウム、パンフレット配布等）を実施する。	【平成 28 年度実績】 ・大規模講演会 1 回 参加者数 延 152 名（平成 27 年度 延 142 名） ・小規模講演会 4 回 参加者数 延 270 名（平成 28 年度～）
区民、医療・介護スタッフへの意識調査	在宅療養に係る事業を検討する際の基礎資料とするため、意識調査を実施する。	平成 28 年度 区民意識調査は高齢者基礎調査にて実施（平成 29 年度 医療・介護資源調査を実施予定）

<p>介護老人保健施設の整備</p>	<p>第6期計画（平成27年度～29年度）では、高齢者人口の1%の整備を目指し、新たに396人分の整備を目標としている。また、廃止が予定されている介護療養型医療施設から介護老人保健施設への転換意向がある場合については、支援を検討する。</p>	<p>計画期間中に、以下の3施設（236人分）が開設。</p> <p>①ライフサポートひなた（56人） （平成27年5月開設）</p> <p>②みんなの笑顔（100人） （平成27年12月開設）</p> <p>③ライフサポートねりま（80人） （平成29年4月開設）</p> <p>また、介護療養型医療施設から介護老人保健施設への転換に関する相談は無かった。</p>
<p>認知症ケアに関する関係機関連絡会の開催</p>	<p>認知症ケアに関わる医療・介護の関係者による連絡会を開催し、医療と介護の連携を深める仕組みづくりを検討する。</p>	<p>【平成28年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅療養推進協議会認知症専門部会 3回（平成27年度4回） ・認知症施策推進 区・医師会連絡会 1回（平成27年度3回） ・練馬区認知症疾患医療連携実務者連絡協議会 4回（平成28年度開始） ・区西北部認知症疾患医療・介護連携協議会 2回（平成27年度2回）
<p>認知症専門相談</p>	<p>高齢者相談センター本所4か所で、認知症専門医による相談を年6回実施する。</p>	<p>【平成28年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症専門相談件数 36回 98件（平成27年度36回 95件） ・訪問相談（初期集中支援チーム）件数 24件（平成27年度18件）

(2) 医療と保健の連携		
ア 健康診査・がん検診		
事業名	事業概要	取組状況等
【重点事業】 がん精密検査結果把握事業	精密検査実施医療機関からの報告により検査結果の集計、分析および受診勧奨を行い、がん検診の質の向上および精密検査受診率の向上を図る。	平成 24 年度から事業実施。平成 28 年度の精密検査受診率は、胃がん 87.4%・肺がん 76.3%・大腸がん 66.9%・子宮（頸部）がん 78.2%・乳がん 95.5%である。 （国が定める許容値（最低限の基準）は、胃・肺・大腸・子宮（頸部）がんは 70%以上、乳がんは 80%以上）
練馬区国民健康保険特定健康診査 ・糖尿病重症者受診勧奨 ・出張特定保健指導	・保健指導対象の有無にかかわらず糖尿病の疑いが強い方（服薬者を除く）に医療機関への受診を勧奨する。 ・かかりつけの医療機関で保健指導が利用できるよう保健師等の専門職を派遣する。	・糖尿病重症者受診勧奨 平成 23 年度から 25 年度までは区の保健師・管理栄養士が実施した。26 年度からは民間事業者に委託を開始し、取組を強化している（28 年度実績：88 人に勧奨を実施し、うち 47 人（69.3%）が受診を開始） ・出張特定保健指導 平成 23 年度から 25 年度までモデル事業を実施した結果、実績が伸びず、協力先の医療機関が無くなったこと等の理由により、事業を終了した。
がん検診（胃がん、肺がん、大腸がん、子宮がん、乳がん、前立腺がん）	がん検診の受診率向上を目指して、がんに罹患する可能性や早期発見の重要性を周知するとともに、個別通知による受診勧奨を行う。	①がん検診案内の送付（全対象者）、②子宮がん検診受診勧奨事業（前年度受診していない 21～29 歳の女性区民）、③がん検診再受診勧奨事業（乳がん・子宮がん）、④がん検診無料チケット事業（子宮がん 20 歳・乳がん 40 歳 検診対象初年度）、⑤子宮がん無料チケット利用促進、⑥乳がん検診出張講座での受診勧奨

イ 精神保健		
事業名	事業概要	取組状況等
練馬区精神保健福祉 連絡会	練馬区医師会、精神病床を有する病院、消防署、警察署、東京都精神保健福祉センター、区による精神保健福祉に関する取組等について検討するための連絡会 1回/年 実施	【平成28年度実績】 29年3月に開催。自殺対策およびアウトリーチ事業等について検討した。
地域精神保健福祉 関係者連絡会	区内4ブロックごとに精神科医療関係者、訪問看護ステーション、ホームヘルプ事業所、区などの関係者の連携を推進するために行う連絡会 3回程度/年 実施（各ブロックごと）	【平成28年度実績】 ブロックごとにテーマを決めて意見交換した。 豊玉ブロック 2回 光・北ブロック 3回 石神井・大泉ブロック 3回 関ブロック 3回
精神科医による相談	各保健相談所で実施している相談事業 無気力、うつ状態、アルコール依存症、物忘れなどこころの不調で悩んでいる方やその家族を対象に精神科医が相談に応じる、また、思春期・ひきこもりに関する問題についても対応している。	【平成28年度実績】 相談回数 123回 相談者数 延 351人
アウトリーチ （訪問支援）事業	未治療や治療の中断により安定した地域生活が困難となっている方に対し、精神科医と区保健師などによる訪問支援を行っている。また、都立精神保健福祉センターでは、多職種チームによる訪問支援を行っている。	平成27年度から地域精神保健相談員2名を配置し、訪問支援を充実した。 【平成28年度実績】 対象者 119人 訪問数 延243件

柱4 災害時医療救護体制の確立		
事業名	事業概要	取組状況等
災害医療運営連絡会・専門部会の開催	四師会、災害拠点病院および関係行政機関等により災害時の医療救護活動の運営等に関して協議し、災害時の医療体制について検討。さらに、より実務的な検討事項については、専門部会を設置。	連絡会（年1回実施） 構成メンバーは四師会、消防署、警察署、拠点病院の代表者が推薦する委員と医療コーディネーター、区委員の23名で議論している。 専門部会（年3～4回実施） 構成メンバーは連絡会に準ずる委員14名で構成されている。
医療救護所訓練の実施	医療救護所訓練等を関係機関や区民等と合同で実施し、災害時における体制の確認するとともに、意識啓発に努めている。	平成23年度から、10か所の医療救護所において実施。複数回実施校も含め、7校が実施済み。平成27年度からは、年間2校ペースで訓練実施。平成28年度は、石神井東中（参加者108名）と谷原中（参加者148名）において実施した。